北埋調報331

木古内町（きこないちょう）

大平（おおひら）4遺跡(3)

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成28年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

木古内町（きこないちょう）

大平（おおひら）4遺跡(3)

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成28年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

1　空撮による遺跡全景（中央部：大平4遺跡、奥手：木古内町）　北北東から

2　空撮による遺跡全景（中央部：大平4遺跡、奥手：国道228号線）　北西から

口絵２

１　H－９床面　検出状況　　北東から

２　HF－１と土器出土状況　　南東から

例　言

1．本書は、高規格幹線道路函館江差自動車道工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが2012（平成24）年から2014（平成26）年の三カ年に実施した、木古内町大平４遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．報告内容は、大平４遺跡の平成24年度調査区7,054㎡、平成25年度調査区1,420㎡※１、平成26年度調査区7,119㎡の遺構と遺物である。※１　平成24年度の残420㎡と追加された1,000㎡からなる。加えて、この1,000㎡の範囲は平成25年度調査区2,000㎡を対象に12.5％調査を実施したのちに確定し本調査を実施した面積である。

3．大平４遺跡の地番は、平成24年度調査区が上磯郡木古内町字大平60－33～43番地、平成25年度調査区が上磯郡木古内町字大平60－18・22・74・103番地、平成26年度調査区が上磯郡木古内町字大平60－5・15・144・194～198番地である。

4．各調査は、平成24年度第２調査部第２調査課、平成25年度第１調査部第３調査課、平成26年度第１調査部第４調査課が担当した。

5．本書の執筆は、皆川洋一、立田　理、立川トマス（平成26年度退職）、谷島由貴（平成27年度退職）、佐藤和雄（平成26年度退職）、奥山さとみ（平成27年度退職）が行い、編集は皆川が担当した。文責者については、文末に丸括弧書きで氏名を記した。

6．遺物の整理は平成27年度が谷島、平成28年度は皆川が担当した。

7．現地調査での写真撮影は各担当調査員が、室内での写真撮影・整理は中山昭大と吉田裕史洋が担当した。

8．各種分析・鑑定については、下記の分析業者に委託した。Ⅳ章にその結果を掲載してある。
放射性炭素年代測定　(株)加速器分析研究所

9．調査報告終了後の出土遺物は、木古内町教育委員会で保管される予定である。

10．調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。
北海道開発局函館開発建設部、北海道教育委員会、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、知内町教育委員会、木元　豊、高橋豊彦、竹田　聡、森　靖裕、西脇対名夫、宗像公司、横山英介（五十音順）

記号等の説明

1　遺構実測図

(1)　縮尺は40分の１を原則としているが､それ以外の縮尺のものもある。各々にスケールを付した。

(2)　平面図の方位は平面直角座標の北を表す。

(3)　平面図の「＋」はグリッドラインの交点を表す。

(4)　平面図の「・」付き小アラビア数字は、その地点の標高（単位m）を表す。

(5)　遺構の断面図の水糸レベルは標高（単位m）である。

(6)　遺構には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。

H：住居跡　　HP：住居跡内の土壙・柱穴　　HF：住居跡内の焼土

P：土壙　　TP：Tピット　　F：焼土　　FL：剥片集中

(7)　遺構内での遺物の分布を表すのに凡例にある記号を使用した部分がある。白抜きは覆土、黒塗りは床面・坑底出土を表す。

(8)　火山灰の略号は、『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会1982）による。以下の略号を用いた箇所がある。

Ko-d：駒ヶ岳ｄ降下火山灰　　B-Tm：白頭山-苫小牧火山灰

(9)　遺構規模を表した「長軸×短軸／深さ」は､遺構に外接する直方体を設定して求めた（単位m）。

2　土器実測図・拓影図

(1)　縮尺は復元個体・拓本土器が３分の１、土製品が２分の１である。

(2)　遺物図のおおよそ右下に位置するアラビア数字は掲載番号である。

(3)　土器、土製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記した。

3　石器実測図

(1)　縮尺は、剥片石器、磨製石器、石製品、接合資料が２分の１、礫石器が３分の１である。それぞれの図にスケールを付した。

(2)　自然面はドットで表した。

(3)　石器に光沢や付着物が認められる場合、その範囲を網伏せして示したものもある。

(4)　たたき痕は「 V──V 」、すり痕は「 |←──→| 」で範囲を示した。

(5)　規模を表す「長さ×幅×厚さ」は、石器に外説する直方体を設定して求めた（単位cm）。

4　金属製品

(1)　縮尺は２分の１である。

(2)　規模を表す「長さ×幅×厚さ」は、外説する直方体を設定して求めた（単位cm）。

目　次

口絵1・2
例言
記号などの説明
目次
挿図目次
表目次
図版目次

Ⅰ　調査の概要
1　調査概要と調査体制…… 1
2　調査と経緯…… 2
3　調査区の設定…… 4
4　遺跡の位置と環境…… 4
5　発掘調査と整理作業…… 6
6　保管その他…… 6
7　土層…… 6
8　分類…… 8

Ⅱ　遺　構
1　住居跡…… 11
2　土坑…… 41
3　Tピット…… 56
4　焼土…… 59
5　剥片集中…… 67

Ⅲ　遺　物
1　土器…… 83
2　石器…… 89
3　石製品…… 101
4　遺物の分布…… 102

Ⅳ　自然科学的分析
1「大平4遺跡における放射性年代測定（AMS測定）」平成24年度 …… 115
2「大平4遺跡における放射性年代測定（AMS測定）」平成26年度 …… 121

Ⅴ　資料一覧…… 125

Ⅵ　総　括…… 139

Ⅶ　写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

Ⅰ 調査の概要

図Ⅰ-1 遺跡の位置と地形(上段)
平成24～26年度調査区
とグリッド設定(下段) …… 3

図Ⅰ-2 遺構位置図 …… 5

図Ⅰ-3 土層図 …… 7

Ⅱ 遺 構

図Ⅱ-1 H-3…… 12

図Ⅱ-2 H-3(2)と遺物…… 13

図Ⅱ-3 H-4と遺物…… 14

図Ⅱ-4 H-5と遺物…… 16

図Ⅱ-5 H-5(2)・H-6(2) …… 17

図Ⅱ-6 H-6…… 18

図Ⅱ-7 H-6の遺物…… 19

図Ⅱ-8 H-7…… 22

図Ⅱ-9 H-7(2)…… 23

図Ⅱ-10 H-7(3)と遺物…… 24

図Ⅱ-11 H-7の遺物(2)…… 25

図Ⅱ-12 H-7の遺物(3)…… 26

図Ⅱ-13 H-8…… 27

図Ⅱ-14 H-8(2)と遺物…… 28

図Ⅱ-15 H-9と遺物…… 30

図Ⅱ-16 H-9の遺物(2)…… 31

図Ⅱ-17 H-10…… 32

図Ⅱ-18 H-10(2)と遺物…… 33

図Ⅱ-19 H-10の遺物(2)・H-11 …… 34

図Ⅱ-20 H-12…… 36

図Ⅱ-21 H-12(2)と遺物…… 37

図Ⅱ-22 H-12の遺物(2)…… 38

図Ⅱ-23 H-13…… 39

図Ⅱ-24 H-14と遺物…… 40

図Ⅱ-25 P-30・31・32・33…… 42

図Ⅱ-26 P-30(1～25)・31(25～28)…… 43

図Ⅱ-27 P-34・35・36…… 45

図Ⅱ-28 P-37…… 46

図Ⅱ-29 P-37の遺物…… 47

図Ⅱ-30 P-38・39・40・41・44…… 49

図Ⅱ-31 P-42・43…… 50

図Ⅱ-32 P-45・46・47・48・49…… 53

図Ⅱ-33 P-48の遺物…… 54

図Ⅱ-34 P-48の遺物(2)…… 55

図Ⅱ-35 TP-1・2・3・4 …… 57

図Ⅱ-36 F-4・5・6・7・8・9・10・11・
12・13…… 58

図Ⅱ-37 F-14・15・16・17・18・19…… 60

図Ⅱ-38 F-20・21・22・23・24・25…… 63

図Ⅱ-39 F-26・27・28・29・30…… 65

図Ⅱ-40 F-31…… 66

図Ⅱ-41 F-32・33・34…… 67

図Ⅱ-42 FL-17・18 …… 69

図Ⅱ-43 FL-20 …… 70

図Ⅱ-44 FL-19・21・28・29・30・31 …… 71

図Ⅱ-45 FL-21の遺物 …… 72

図Ⅱ-46 FL-22 …… 73

図Ⅱ-47 FL-23と遺物 …… 74

図Ⅱ-48 FL-23の遺物(2) …… 75

図Ⅱ-49 FL-23の遺物(3) …… 76

図Ⅱ-50 FL-23の遺物(4) …… 77

図Ⅱ-51 FL-23の遺物(5) …… 78

図Ⅱ-52 FL-23の遺物(6) …… 79

図Ⅱ-53 FL-24・25・26・27 …… 81

Ⅲ 遺 物

図Ⅲ-1 包含層の土器(1)
Ⅰb-4, Ⅱa, Ⅱb, Ⅲb …… 84

図Ⅲ-2 包含層の土器(2)
Ⅲb, Ⅳa …… 85

図Ⅲ-3 包含層の土器(3)
Ⅳa …… 86

図Ⅲ-4 包含層の土器(4)
Ⅳa …… 87

図Ⅲ-5 包含層の土器(5)
Ⅳa, Ⅴc…… 88

図Ⅲ-6 包含層の石器(1)
有舌尖頭器, 石槍・両面調整石器
…… 90

図Ⅲ-7 包含層の石器(2)
石槍・両面調整石器, 石錐,
石錐, つまみ付ナイフ…… 91

図Ⅲ-8　包含層の石器(3)
つまみ付ナイフ(2)，石匙，
スクレイパー…… 92
図Ⅲ-9　包含層の石器(4)
スクレイパー(2)…… 93
図Ⅲ-10　包含層の石器(5)
スクレイパー(3)，Rフレイク… 94
図Ⅲ-11　包含層の石器(6)
Rフレイク(2)，石核…… 95
図Ⅲ-12　包含層の石器(7)
石斧，礫器、たたき石…… 96
図Ⅲ-13　包含層の石器(8)
たたき石(2)，くぼみ石…… 97
図Ⅲ-14　包含層の石器(9)
すり石，断面三角形のすり石
半円状扁平打製石器…… 98
図Ⅲ-15　包含層の石器(10)
半円状扁平打製石器，砥石…… 99
図Ⅲ-16　包含層の石製品
三角形状石製品，垂飾，石製品… 100
図Ⅲ-17　土器の分布(1) …… 102
図Ⅲ-18　土器の分布(2) …… 103
図Ⅲ-19　土器の分布(3) …… 104
図Ⅲ-20　石器の分布(1) …… 105
図Ⅲ-21　石器の分布(2) …… 106
図Ⅲ-22　石器の分布(3) …… 107
図Ⅲ-23　石器の分布(4) …… 108
図Ⅲ-24　石器の分布(5) …… 109
図Ⅲ-25　石器の分布(6) …… 110
図Ⅲ-26　石器の分布(7) …… 111
図Ⅲ-27　石器の分布(8) …… 112
図Ⅲ-28　石器の分布(9) …… 113
Ⅳ　自然科学的分析
図Ⅳ-1-1　暦年較正年代グラフ(1)…… 119
図Ⅳ-1-2　暦年較正年代グラフ(2)…… 120
図Ⅳ-2-1　暦年較正年代グラフ…… 124

表　目　次

Ⅰ　概　　要
表Ⅰ-1　平成24～26年度別
調査面積・遺構数・遺物点数一覧… 2
表Ⅰ-2　遺構出土遺物一覧 …… 9
表Ⅰ-3　包含層出土遺物一覧 …… 10
Ⅳ　自然科学的分析
表Ⅳ-1-1　放射性炭素年代測定結果…… 117
表Ⅳ-1-2　放射性炭素年代測定結果(1)…… 117
表Ⅳ-1-2　放射性炭素年代測定結果(2)…… 118
表Ⅳ-2-1　放射性炭素年代測定結果…… 123
表Ⅳ-2-2　放射性炭素年代測定結果…… 123
Ⅴ　資料一覧
表Ⅴ-1　遺構一覧 …… 125
表Ⅴ-2　遺構別出土土器一覧 …… 127
表Ⅴ-3　遺構別出土石器・石製品一覧 …… 128
表Ⅴ-4　包含層出土土器・土製品一覧 …… 129
表Ⅴ-5　包含層出土石器・石製品一覧 …… 129
表Ⅴ-6　遺構掲載土器一覧 …… 130
表Ⅴ-7　遺構掲載石器・石製品一覧 …… 132
表Ⅴ-8　包含層掲載土器一覧 …… 134
表Ⅴ-9　包含層掲載石器・石製品一覧 …… 136
表Ⅴ-10　P-48掲載金属製品一覧…… 138
表Ⅴ-11　P-48掲載木製品一覧…… 138

図　版　目　次

図版1　平成24・25年度発掘調査前
図版2　平成26年度発掘調査前・土層
図版3　H-3
図版4　H-3(2)
図版5　H-4
図版6　H-5
図版7　H-6
図版8　H-7
図版9　H-8
図版10　H-10
図版11　H-12
図版12　H-11・12(2)

図版13　H-13
図版14　H-14
図版15　P-30・31
図版16　P-35・36
図版17　P-33・37
図版18　P-38・39・40・41
図版19　P-42・43・44
図版20　P-45・46・47
図版21　P-47・48
図版22　TP-1・3・4
図版23　FL-17・18・19・21・22・23
図版24　FL-24・30・31・平成24年度完掘
図版25　平成25・26年度完掘
図版26　遺構の遺物(1)
　H-3・4・5
図版27　遺構の遺物(2)
　H-6・8
図版28　遺構の遺物(3)
　H-7
図版29　遺構の遺物(4)
　H-7(2)
図版30　遺構の遺物(5)
　H-9
図版31　遺構の遺物(6)
　H-10・12
図版32　遺構の遺物(7)
　H-12(2)・14，P-31
図版33　遺構の遺物(8)
　P-30・35・36
図版34　遺構の遺物(9)
　P-37・41，F-12・16・31，FL-18
図版35　遺構の遺物(10)
　FL-20・19・28・30・31
図版36　遺構の遺物(11)
　FL-22・23
図版37　遺構の遺物(12)
　FL-23(2)・24
図版38　遺構の遺物(13)
　FL-23(3)
図版39　遺構の遺物(14)
　FL-23(4)
図版40　遺構の遺物(15)
　FL-26・27，P-48
図版41　遺構の遺物(16)
　P-48(2)
図版42　包含層の土器(1)
　Ⅰb-4，Ⅱa，Ⅱb，Ⅲb
図版43　包含層の土器(2)
　Ⅲb(2)，Ⅳa
図版44　包含層の土器(3)
　Ⅳa(2)
図版45　包含層の土器(4)
　Ⅳa(3)
図版46　包含層の土器(5)
　Ⅳa(4)，Vc
図版47　包含層の石器(1)
　有舌尖頭器，石槍，石鏃，石錐
図版48　包含層の石器(1)
　つまみ付ナイフ，篦状石器，
　スクレイパー
図版49　包含層の石器(2)
　スクレイパー(2)，Rフレイク
図版50　包含層の石器(3)
　Rフレイク(2)，石核，
　石斧たたき石
図版51　包含層の石器(4)
　たたき石(2)，凹石，すり石
図版52　包含層の石器(5)・石製品
　断面三角形のすり石，砥石，垂飾
　半円状扁平打製石器，石製品
図版53　包含層の石製品(2)
　三角形石製品

Ⅰ　調査の概要

1　調査概要と調査体制

事業名：平成24年度高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（釜谷８遺跡外）
　　平成25年度高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（大平４遺跡外）
　　平成26年度高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（大平４遺跡外）
委託者：国土交通省北海道開発函館開発建設局
事業委託者：公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名：大平４遺跡（北海道教育委員会登載番号：Ｂ-05-29）

平成24年度
　所 在 地：平成24年度上磯郡木古内町字大平60-33～43番地
　調査期間：平成24年４月１日～平成25年３月31日（発掘期間平成24年５月７日～10月31日）
　調査面積：7,054㎡
　調査体制
　第２調査部長　三浦正人
　第２調査部第２調査　課長　熊谷仁志（調査担当者）
　　主査　立川トマス
　　主査　谷島由貴（調査担当者）
　　主任　酒井秀治（調査担当者）
　　主任　佐藤和雄
　　嘱託　奥山さとみ

平成25年度
　所 在 地：上磯郡木古内町字大平60-18・22・74・103番地
　調査期間：平成25年４月１日～平成26年３月31日（発掘期間平成25年５月13日～７月30日）
　調査面積：1,420㎡
　調査体制
　第１調査部長　千葉英一
　第１調査部第３調査　課長　土肥研晶（調査担当者）
　　主査　立川トマス（調査担当者）
　　主査　谷島由貴（調査担当者）
　　主査　柚岡淳子
　　主任　佐藤和雄
　　嘱託　奥山さとみ

平成26年度
　所 在 地：平成26年度上磯郡木古内町字大平60-５・15・144・194～198番地
　調査期間：平成26年４月１日～平成26年３月31日（発掘期間：平成25年５月14日～８月６日）
　調査面積：7,119㎡
　調査体制
　第１調査部長　千葉英一

第１調査部第４調査　課長　皆川洋一（調査担当者）
主査　立田　理（調査担当者）
主任　佐藤和雄
主任　谷島由貴

平成27年度
調査期間：平成27年４月１日～平成28年３月31日（整理のみ）
調査体制
第１調査部長　長沼　孝
第１調査部第４調査　課長　皆川洋一
主査　鈴木宏行
主査　坂本尚史
主査　大泰司　統
主任　谷島由貴（整理担当者）

平成28年度
調査期間：平成28年４月１日～平成29年３月31日（整理のみ）
調査体制
第１調査部長　長沼　孝
第１調査部第４調査　課長　皆川洋一（整理担当者）
主査　鈴木宏行
主査　藤井　浩
主査　直江康雄
主査　大泰司　統

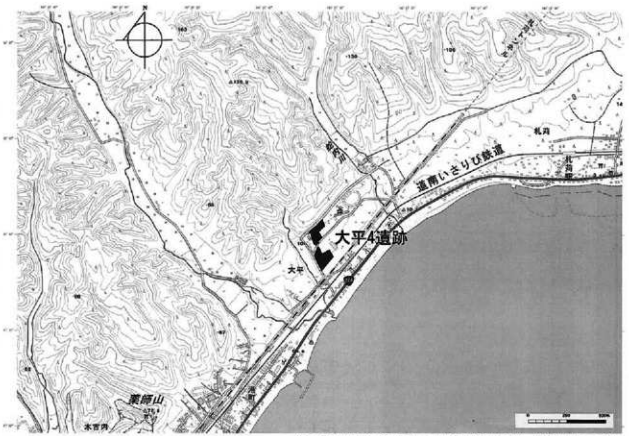
2　調査の経緯と概要

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館市を起点とし北斗市・木古内町を経由、江差町に至る延長約70kmの一般国道自動車専用道路として国土交通省北海道開発局により整備がすすめられている。この道路は北海道縦貫自動車道、函館新道に接続し、函館都市圏の新たな環状道路として地域の交通混雑の解消や地域経済の活性化のために計画されたものである。

函館茂辺地道路は平成２年度から事業着手され、平成24年３月には函館から茂辺地までが供用開始となっている。

表Ⅰ－１　平成24～26年度別　調査面積・遺構数・遺物点数一覧

		面積(㎡)	遺構数					遺物数(点)
			住居跡	土坑	Tピット	焼土	剥片集中	
2012	平成24年度	7,054	9	7	1	12	8	80,719
			H-3～11	P-30～36	TP-1	F-4～15	FL-17～24	
2013	平成25年度	1,420	2	9	0	3	5	8,448
			H-12・13	P-36～44		F-15～18	FL-24～29	
2014	平成26年度	7,119	1	5	3	16	1	5,534
			H-14	P-45～49	TP-2～4	F-18～34	FL-31	
		15,593㎡	12軒	21基	4基	31カ所	15カ所	94,704点
			H-3～14	P-30～44	TP-1～4	F-4～34	FL-17～31	
				※P-29欠番				



※この図は国土地理院発行1：25,000「木古内」を利用、作成したものである。

図Ⅰ-1　遺跡の位置と地形（上段）、平成24～26年度調査区とグリッド設定（下段）

現在の事業区間である茂辺地木古内道路（延長16.0㎞）は平成６年度に着手されたもので供用開始期日は平成32年度が予定されている。

大平４遺跡は昭和58（1983）年に実施された津軽海峡線建設に伴う所在確認調査によって周知の遺跡となっており、過去には平成21・22年度の２か年にわたり当センターによって北海道新幹線建設事業に伴う発掘調査が行われている（北埋調報280・292）。

茂辺地木古内道路の建設に伴う発掘調査は、平成11年度に国土交通省北海道開発局函館開発建設部（以下「函館開発建設部」）が函館江差自動車道茂辺地木古内道路における埋蔵文化財包蔵地に関する事前協議書を木古内町教育委員会経由で北海道教育委員会（以下「道教委」）に提出、これを受けて道教委では各確認調査を行い必要な発掘調査を判断している。

以上の経緯から、大平４遺跡においては公益財団法人北海道埋蔵文化財センター（以下「センター」）が道教委の指示により平成24～26年度に発掘調査、平成27年度に整理、平成28年度に整理・報告を行うこととなった。平成24～26年度の発掘調査の概要については、一覧にして示す（表Ⅰ-１）。

3　調査区の設定

平成21・22年度の調査の際に用いた調査区を踏襲、延長して調査区の設定を行っている（北埋調報280・292）。平成21・22年度の調査は「調査方格名称M40」と「同M60」を結ぶ直線を基線とし、それに対して平行・直行する方格を組みグリッド設定している。この２点の平面直角座標は第Ⅹⅰ系で、以下の通りである。

調査方格名称M40：X＝-256,340.448、Y＝-16,573.927　北緯40° 41′ 31″・東経140° 26′ 57″

調査方格名称M60：X＝-256,321.254、Y＝-16,609.140　北緯40° 41′ 32″・東経140° 26′ 58″

この平面直角座標は「世界測地系」に基づいた「測地成果2000」の座標である。

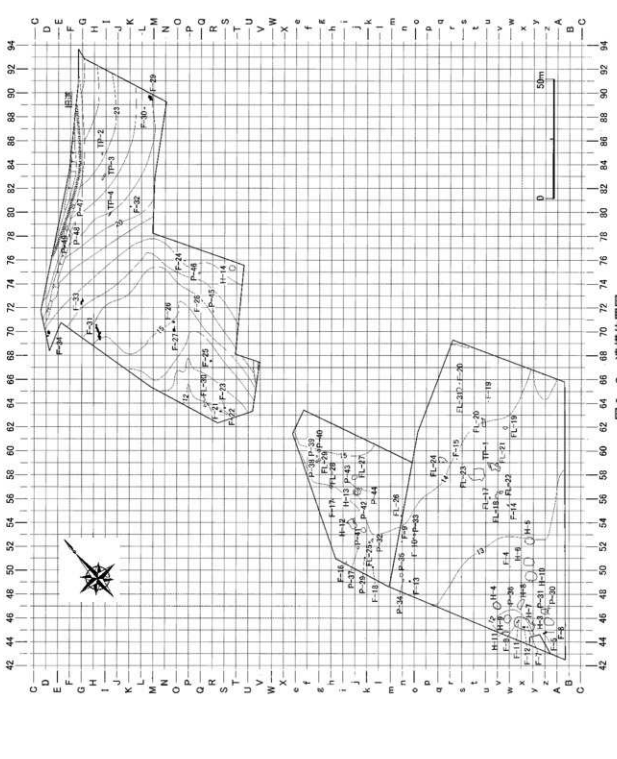
グリッドの間隔は５ｍとし、横のラインにはアルファベット、縦のラインにはアラビア数字を付し、各グリッドの呼称は縦横ラインの西角の交点名をそれに当てた。横のラインのアルファベットについては、平成21・22年度がアルファベットの大文字を用いたが、今回の報告では北西側に広がる調査区に対応するため平成24・25年度部分においてはアルファベットの小文字を、平成26年度につては再度大文字を使用した。

4　遺跡の位置と環境

大平４遺跡の所在する上磯郡木古内町は北海道南西部の渡島半島南側に位置する人口4,449人（平成28年10月末日現在）の自治体である。総面積は22.189㎢で、町の北東側に北斗市、北側に厚沢部町、西側に上ノ国町、南西側に知内町が位置している。

環境的には津軽海峡に面し、町の周囲は渡島丸山、桂岳、梯子岳、爪谷山、焼山、尖岳、袴腰岳など300～700ｍ級の山々に囲まれ、市街の中心地は木古内川、佐女川河口周辺の平坦部に作られている。遺跡の多くもこの平坦部に見られる海岸段丘と河岸段丘上に立地しており、今回調査された大平４遺跡もその一つである。

大平４遺跡は平成28年３月25日に開業したJR北海道新幹線木古内駅や道南いさりび鉄道線木古内駅から北東側へ約２㎞離れたところある周知の遺跡で、その範囲は海岸線から約0.2㎞のところから山裾にまで広がるもので指定面積はおおよそ４万㎡に及んでいる。



図Ⅰ-2　遺構位置図

5　発掘調査と整理作業

発掘調査　平成24～26年度の発掘調査は道教委より指示のあった合計15,593㎡を対象に実施された。（図Ⅰ-2、表Ⅰ-1）。発掘調査のための掘削作業はグリッド毎を基本とし主に移植ゴテ、ねじり鎌を使用して行った。遺構、遺物の出土状況に応じ竹べら、竹串を使用して遺構、遺物を傷つけることの無いよう配慮した。精査、清掃の際には炉等、ブラシなどを併用した。遺構、遺物の見られない範囲や精度を必要としない部分に関してはスコップ、鋤簾を使用し効率を高めた。また、調査の対象とならない表土層などは重機を用いて調査着手の時期を早めるよう努めた。調査終了後には原因者からの要望で埋戻しを行っている。

遺構は、打設された方眼杭を基準に測量、図化による記録を行った。また、並行してフイルムカメラ、デジタル一眼レフカメラを用いて撮影、記録し、パソコンを使用した整理、保管なども行った。出土した土器石器などの遺物は、現地で水洗、乾燥をおこない、遺物台帳に登録した。注記は手書きで行った。

以上の遺物、記録類は発掘調査終了後に江別市の公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへ搬送し、報告書作成のための整理作業開始まで保管管理に努めた。

整理作業　調査で記録保存されたデータは、適切な修正・変更をおこない、スキャナーとソフトウエアーでデジタル化し、パソコンとタブレットでデジタルトレースを行い図版を作成した。土器は時期毎に分類し接合・復元作業を行い、写図工による実測や作業員による拓本などの図化をおこなった。石器、石製品は分類を行い、記録に適した物を選出し写図工による図化を行った。石器実測にかんしては外部に再委託したものもある。木製品、金属製品については、当センター第１調査部第１調査課（保存処理）にて記録を行った後に各々適切な保存処理を実施した。各種分析が必要な遺物は、厳選した後に再委託を行いその結果を報告書に掲載している。図化を実施した遺物に関しては、全て当センター内のスタジオ内で高性能なデジタル一眼レフを使用した撮影を行った。発掘調査の記録写真や遺の写真はパソコンのソフトを使用した加工・編集を行った。遺物などの集計・統計作業にはパソコンの表計算・データベースソフトを使用した。報告書の作成、編集、校正にはパソコンのワープロやレイアウトソフトを使用した。

6　保管その他

発掘調査で取得した全ての遺物と記録類に関してはコンテナなどに収納され台帳作成後、報告書作まで一次的に当センターにて保管される。国土交通省北海道開発局函館開発建設局は契約時にその権利を放棄している。当センターでは調査終了一週間以内に地元木古内警察署へ発見届けを提出していることから、遺物と記録類に関しては地元自治体（木古内町）に返還される予定である。また、記録の内、写真及びその他データ類に関しては北海道立埋蔵文化財センターにて保管される。

7　土層

大平４遺跡の基本となる層序は以下の通りである。

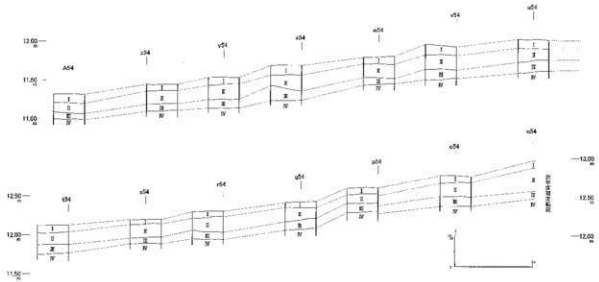
Ⅰ層：表土・耕作土など

Ⅱ層：腐植土層：黒色シルト質土。縄文時代早期～晩期の遺構、遺物を包含する。部分的に駒ヶ岳ｄ降下火山灰（Ko-ｄ、1,640年降灰）と白頭山-苫小牧火山灰（B-Tm、10世紀後半降灰）が確認される。

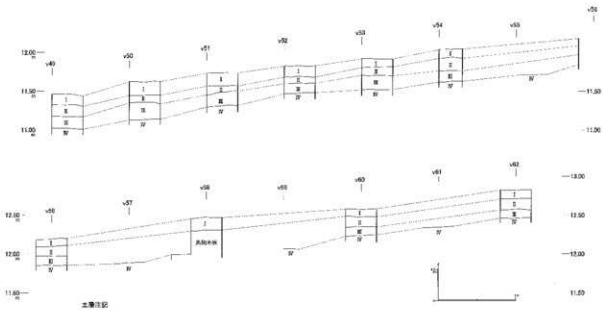
Ⅲ層：漸移層：褐色シルト質土。Ⅱ層とⅣ層の漸移層。後期旧石器と縄文時代早期の遺物を包含している。

Ⅳ層：ローム質土層：黄褐色ローム質土。

大平4 遺跡　54ライン 北西-南東メイン sec



大平4 遺跡　Vライン 北東-南西メイン sec



図Ⅰ-3　土層図

8　遺物の分類

後期旧石器：木古内町においては細石刃や細石刃核を中心としたものが新道４遺跡、札苅５遺跡、未報告ではあるが札苅８遺跡からも出土している。

土器

土器は縄文時代早期に属するものをⅠ群とし、以下前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群とした。続縄文時代のものはⅥ群、擦文文化期のものはⅦ群である。また、それらの中でａ・ｂ類に二分したものやａ・ｂ・ｃ類に三分したものもある。さらに細分を必要とする場合は、アラビア数字の枝番号を付した。なお、報告書内では（　）内の略号を使用した部分もある。

Ⅰ群　縄文時代早期に属する土器群
　ａ類　貝殻・沈線文系土器群および条痕文系平底土器群（Ⅰａ）
　ｂ類　縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの付された縄文系平底土器群（Ⅰｂ）
　　ｂ-１類　東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式に比定するもの（Ⅰｂ-１）
　　ｂ-２類　コッタロ式に相当するもの（Ⅰｂ-２）
　　ｂ-３類　中茶路式に相当するもの（Ⅰｂ-３）
　　ｂ-４類　東釧路Ⅳ式に相当するもの（Ⅰｂ-４）
Ⅱ群　縄文時代前期に属する土器群
　ａ類　縄文の施された丸底・尖底の土器群（Ⅱａ）
　ｂ類　円筒土器下層式土器群（Ⅱｂ）
　　ｂ-１類　円筒土器下層ａ式に相当するもの
　　ｂ-２類　円筒土器下層ｂ式に相当するもの
　　ｂ-３類　円筒土器下層ｃ式に相当するもの
　　ｂ-４類　円筒土器下層ｄ1式に相当するもの
　　ｂ-５類　円筒土器下層ｄ2式に相当するもの
Ⅲ群　縄文時代中期に属する土器群
　ａ類　円筒土器上層ａ式・ｂ式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの（Ⅲａ）
　ｂ類　榎林式、大安在Ｂ式、ノダップⅡ式などに相当するもの（Ⅲｂ）
Ⅳ群　縄文時代後期に属する土器群
　ａ類　天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂３式に相当するもの（Ⅳａ）
　ｂ類　ウサクマイＣ式、手稲式、ホッケマ式に相当するもの（Ⅳｂ）
　ｃ類　堂林式、三ツ谷式、湯の里３式に相当するもの（Ⅳｃ）
Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群
　ａ類　大洞Ｂ式、大洞Ｂ-Ｃ式に相当するもの（Ⅴａ）
　ｂ類　大洞Ｃ１式、大洞Ｃ２式に相当するもの（Ⅴｂ）
　ｃ類　大洞Ａ式、大洞Ａ′式に相当するもの（Ⅴｃ）
Ⅵ群　続縄文時代に属する土器群
Ⅶ群　擦文文化期に属する土器群

石器等

石器は下記の分類を使用した。点数には破片を含む。

剥片石器群：石槍、ナイフ、両面調整石器、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、筒状石器、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、剥片、石核

礫石器群：石斧、たたき石、くぼみ石、断面三角形のすり石、すり石、半円状扁平打製石器、石錘、礫器、加工痕のある礫、礫・礫片

土　製　品：土製品

石　製　品：三角形石製品、垂飾、線刻礫

表Ⅰ-2　遺構出土遺物一覧

分類	Ⅰb-4	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴb	Ⅴc	Ⅵ	Ⅶ	土製品	不明	土器合計
遺構	148		230	6		2,108	275		5			1		9	4	2,786
包含層	280	24	502	118	57	2,002	5,174	46	17	65	134	8	3	189	5	8,629
合計（点）	428	24	732	124	57	4,110	5,449	46	22	65	134	9	3	198	9	11,415

表Ⅰ-3　包含層出土遺物一覧

分類	石槍	両面調整石器	石鏃	石錐	つまみ付ナイフ	筒状石器	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たたき石	礫器	くぼみ石	断面三角形のすり石	すり石	半円状扁平打製石器	砥石	石錘	石皿・台石	打製石器	加工痕のある礫	礫・礫片	石製品	不明	石器合計
遺構	3	25	13	6	7	0	54	16	39	33,110	16	2	9	16	3	0	0	0	3	0	0	5	2	0	777	3	0	34,140
包含層	7	72	40	8	31	30	195	84	167	40,650	127	20	25	110	10	7	2	32	45	17	11	26	7	8	7,255	18	147	49,149
合　計（点）	10	97	53	14	38	30	249	100	206	73,760	143	22	34	126	13	7	2	32	48	17	11	31	9	8	8,032	21	147	83,289

Ⅱ 遺　構

1　住居跡（図Ⅱ-1～24、表Ⅴ-2・3・6・7、図版3～14・26～32）

全部で12軒（H-3～14）が確認されている。（※H-1・2に関しては北堤調報280・292にて報告済みである。）

H-3（図Ⅱ-1・2、表Ⅴ-2・3・6・7、図版3・4・26）

位置　y 45，z 45　　**規模**　4.37×3.13／4.10×2.84／0.52 m

確認・調査　Ⅱ層を除去した段階で、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中心から直交する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、床と壁の立ち上がりを確認した。炉跡から採取した炭化物の年代測定をおこなった。

覆土　上位（1・2・3層）は自然堆積層で、下位（5・6層）はロームを含む層が床面まで堆積している。3層と4層の間に焼土が厚く堆積している。

形態　平面形は卵形である。床はやや凹凸がある。炉跡の周辺は焼成を受け、赤色硬化している。壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構　柱穴は10基検出された（HP-2～9・15・14）。このうち8基が対で確認された（HP-2・15、3・4、7・8、9・14）。炉は床面中央より南側で検出された（HF-1）。浅い掘り込みをもち、礫で囲われている。周溝は南側を除く床面から2条検出された。幅約5～10cm、深さ約6cmである。内側の周溝を壁際とした竪穴から、外側の周溝を壁際とした一回り大きな建て替えが行われたものと考えられる。

土坑は南端の壁際で検出された（HP-1）。いわゆる先端ピットとよばれるものである。坑底面から杭状の小ピットが2対確認された。これらは出入口施設に伴うものと考えられる。HF-1炉跡の焼土出土炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、1：IAAA-122248）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2856～2630calBCの値が示されている。

遺物出土状況　床面直上からスクレイパーが出土した。北西側のⅠ層からⅢ群b類土器がまとまって出土した。

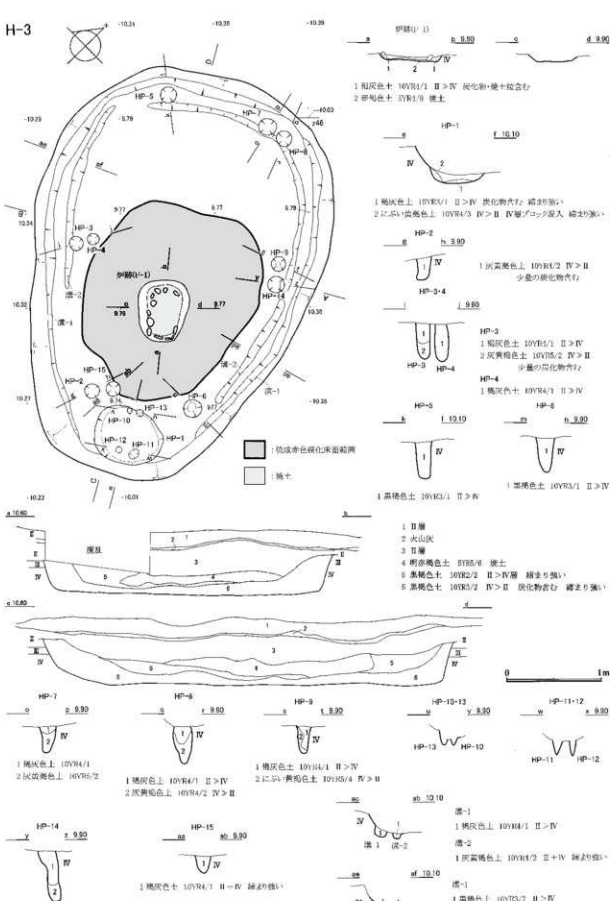
遺物　1～10はⅢ群b類土器で、1が口縁部、2～9が胴部、10が底部である。2は滑石土器である。1は口唇断面が丸みを帯びた角形で器壁には厚味がある。2は頸部で縄線文の施された横位の貼付が認められる。3は口縁に近い部位で横位の刺突文が3列認められる。4～7は地紋に縄文が施されたもので、8・9は無文である。11～17は石器である。11～14が縦長剥片を使用したスクレイパーで、うち12～14が床面で出土している。15は石錐である。16・17は長楕円形の礫に加工を施したたたき石で長軸の両端を使用している。これらは円礫に敲打を施して整形しており、形態的に類似させた可能性がある。

時期　出土したⅢ群b類土器からみて、縄文時代中期後半と考えられる。　（佐藤和雄、皆川洋一）

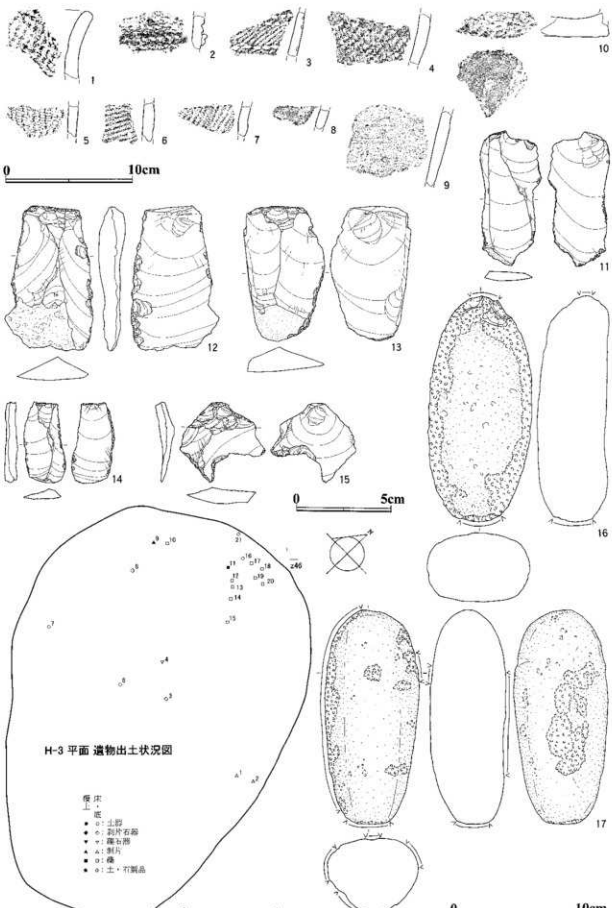
H-4（図Ⅱ-3、表Ⅴ-2・3・6・7、図版5・26）

位置・立地　Ⅴ47　　**規模**　3.27×3.20／2.26×2.24／0.21 m

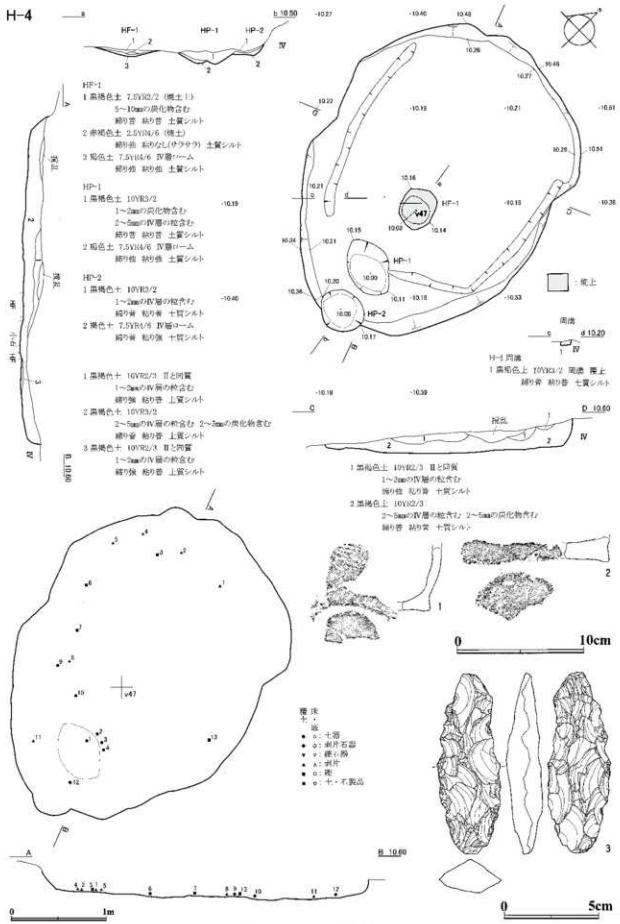
確認・調査　調査範囲西側の撹乱の中に位置する。撹乱除去作業中に、Ⅲ層上面で焼土と黒褐色土の落ち込みを確認した。長軸・短軸方向に土層確認用のベルトを設定し掘り下げたところ、壁の立ち上がりと床面を確認した。上5cmほど、ところどころ撹乱を受けている。壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。掘り込み面は、覆土の堆積状況および出土遺物から、Ⅱ～Ⅳ層中と考えられる。平面形は卵形を呈する。覆土は自然層である。


H-3
炉跡(I-1)
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ 炭化物・焼土粒含む
2 赤褐色土 5YR4/8 焼土
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ 炭化物含む 締まり強い
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 Ⅳ＞Ⅱ Ⅳ層ブロック混入 締まり強い
1 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅳ＞Ⅱ 少量の炭化物含む
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ
2 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ＞Ⅱ 少量の炭化物含む
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ
1 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ
1 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ
1 Ⅱ層
2 火山灰
3 Ⅱ層
4 明赤褐色土 5YR5/6 焼土
5 黒褐色土 10YR2/2 Ⅱ＞Ⅳ層 締まり強い
6 黒褐色土 10YR3/2 Ⅳ＞Ⅱ 炭化物含む 締まり強い
1 褐灰色土 10YR4/1
2 灰黄褐色土 10YR5/2
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ
2 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅳ＞Ⅱ
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ
2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 Ⅳ＞Ⅱ
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 Ⅳ＞Ⅱ 締まり強い
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＋Ⅳ 締まり強い
1 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅱ＋Ⅳ 締まり強い
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＞Ⅳ
1 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅳ＞Ⅱ 締まり強い
0 1m

図Ⅱ-1 H-3



図Ⅱ-2 H-3(2)と遺物



図Ⅱ-3　H-4と遺物

付属施設　南西側に先端ピット（HP-1）があり、床面を14cmの深さで楕円形に掘り込んでいる。すぐ横の壁際にはHP-2があり、床面を7cmの深さで円形に掘り込んでいる。西側と東側の二方の壁際から周溝が検出された。幅10cm、深さ5cmで断面は字形を呈する。炉跡の焼土上から出土した炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、2：IAAA-122249）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2872～2681calBCの値が示されている。

遺物出土状況　覆土中からⅢ群b類土器8点、両面調整石器1点、Uフレイク1点、礫4点、フレイク5点出土した。いずれも覆土中からの出土である。

遺物　1、2はⅢ群b類土器の底部で1は上げ底気味である。3は粗雑な剥離を施した頁岩製の石槍あるいは両面調整石器である。

時期　出土遺物および周辺の遺物状況からみて、縄文時代中期後半の可能性がある。（奥山さとみ・皆川）

H-5（図Ⅱ-4・5、表Ⅴ 2・3・6・7、図版6・7・26）

位置　x 52、y 52　　**規模**　4.00×3.65／3.00×2.65／0.4m

特徴　標高13m程の緩斜面で検出された平面が卵形を呈する竪穴住居跡である。床面はⅤ層ローム層に構築されており、そこからは炉跡や柱穴、周溝、「先端ピット」（HP-1）と考えられるものが検出されている。

炉跡（HF-1）は床面中央部やや南南東側に位置する浅く掘り込まれた皿状の土坑内を炉として使用したと考えられる。熱によるローム質土の赤化は弱いことから、灰や焼土は竪穴外に廃棄された可能性がある。炉跡の焼土上から出土した炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、3：IAAA-122250）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2852～2621calBCの値が示されている。HF-1の周囲の床は黒太線で図示した範囲が他と比較して非常に硬くなっている。貼床かあるいは熱などが原因で硬化した可能性がある。柱穴はHP-2・3が主柱穴と考えられ、2本とも中心部に向かって僅かに傾斜している。周溝は壁際近くを回る様に作られているが、竪穴長軸の北北西側の壁際においては一部途切れている。「先端ピット」（HP-1）は平面長軸の南南東の壁際に掘り込まれた平面が不整楕円形の浅い土坑で、内部は黒色土で充填されており竪穴と供に埋没した可能性がある。HP-1のある竪穴長軸側の方向は、緩斜面下側あるいは海側に向いている。付近からは類似する特徴を持つ住居跡H-6が検出されている。

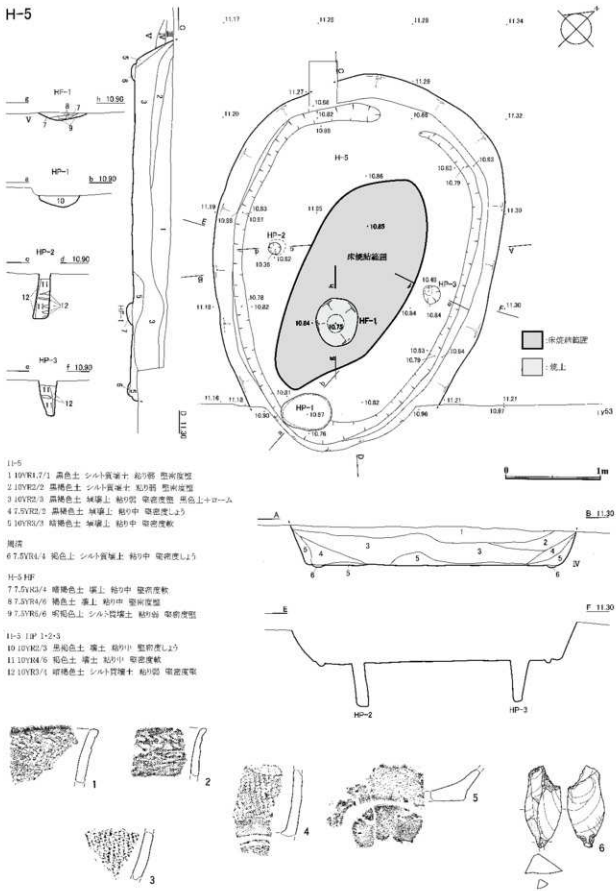
遺物　1～5はⅢ群b類土器である。1、2は縄線文二条が施された口縁部、3は縄文の施された胴部片、4、5は底部片で、4の器面には三段複節の縄文が施されている。6は尖頭部に最小限の加工を施した頁岩製の石錐である。

時期　「先端ピット」が備わる構造的特長と出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。　（皆川）

H-6（図Ⅱ-5～7、表Ⅴ-2・3・6・7、図版6・27）

位置　x 50、x 51、y 52　　**規模**　4.00×3.00／3.65×2.65／0.4m

特徴　標高13m程の緩斜面で検出された平面が不整の卵形あるいは五角形を呈する竪穴住居跡である。床面はⅤ層ローム層に構築されており、そこからは炉跡や柱穴、周溝、「先端ピット」（HP-1）と考えられるものが検出されている。炉跡（HF-1）は床面中央部やや南東側に位置する浅く凹んだ形状の地床炉で、床のローム質土は被熱で強く赤化している。HF-1の焼土上出土の炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、4：IAAA-122251）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2852～2622calBCの値が示されている。HF-1の北西側の床の黒太線で図示した範囲からは他と比較して非常に硬くなっており、貼床の可能性がある。柱穴はHP-2・3が主柱穴と考えられ、2本とも竪穴の外側に向かって僅かに傾斜している。周溝は壁際近くを回る様に作られ



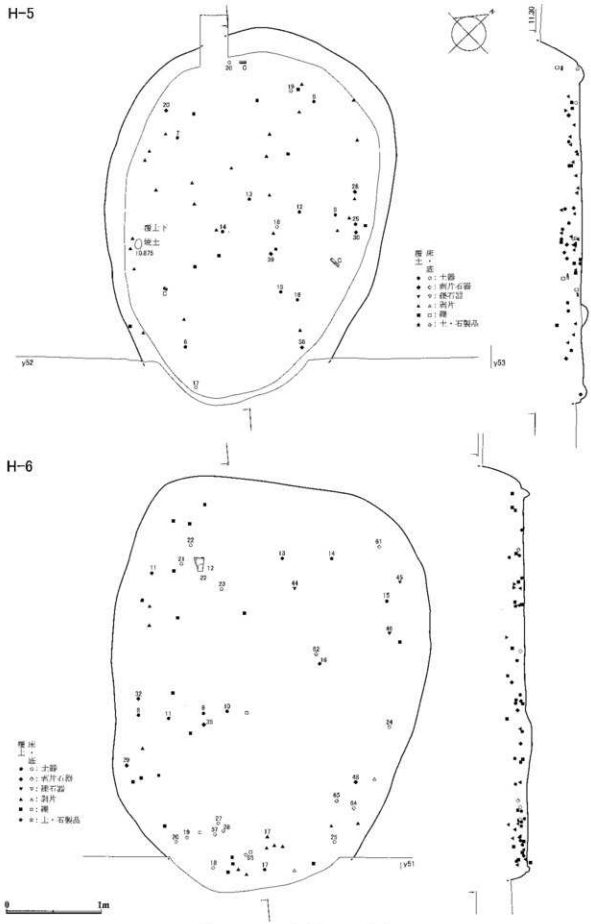
H-5
1 10YR1.7/1 黒色土 シルト質埴土 粘り弱 型崩度型
2 10YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 型崩度型
3 10YR2/3 黒褐色土 埴壌土 粘り弱 電崩度型 黒色土＋ローム
4 7.5YR2/3 黒褐色土 埴壌土 粘り中 電崩度しょう
5 10YR3/3 暗褐色土 埴壌土 粘り中 電崩度軟

周溝
6 7.5YR4/4 褐色土 シルト質埴土 粘り中 電崩度しょう

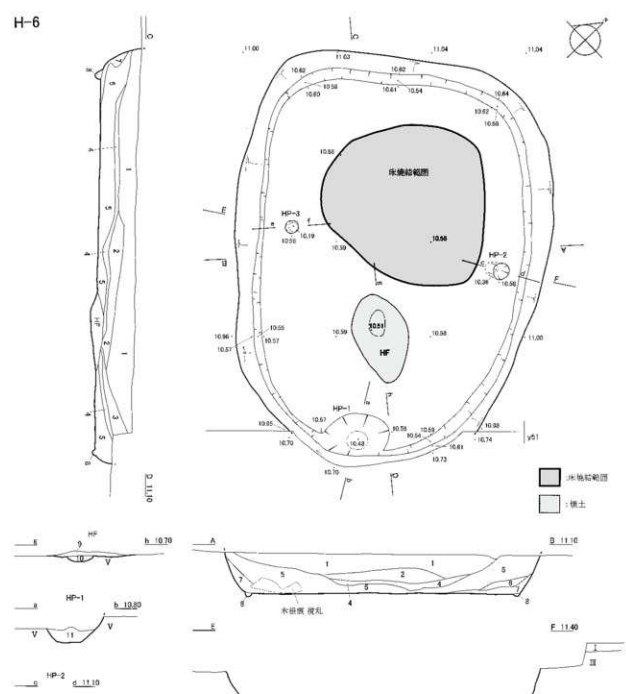
H-5 HP
7 7.5YR3/4 暗褐色土 埴土 粘り中 電崩度軟
8 7.5YR4/6 褐色土 埴土 粘り中 電崩度型
9 7.5YR5/6 明褐色土 シルト質埴土 粘り弱 電崩度型

H-5 土坑 1・2・3
10 10YR2/3 黒褐色土 壌土 粘り小 型崩度しょう
11 10YR4/6 褐色土 埴土 粘り中 電崩度軟
12 10YR3/4 暗褐色土 シルト質埴土 粘り弱 電崩度電

図Ⅱ-4　H-5と遺物



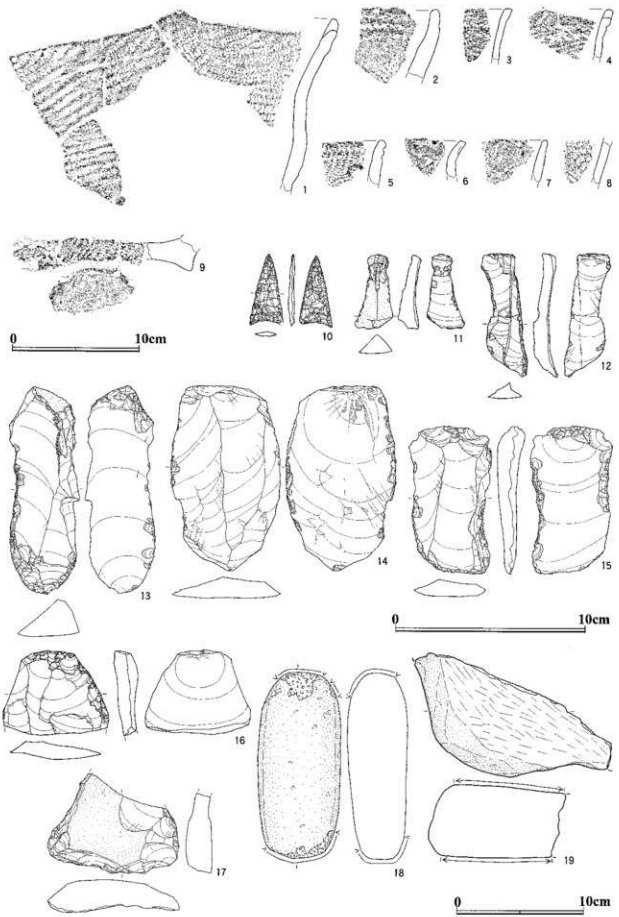
図Ⅱ-5　H-5(2)・H-6(2)



H-6
1 7.5YR2/1 シルト質埴土 粘り弱 密度度軟
2 10YR1.7/1 黒色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度軟
3 7.5YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度しよう
4 10YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度しよう
サーム粒を含む
5 7.5YR3/2 暗褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度しよう
ローム粒を含む
6 10YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度軟
7 10YR3/4 暗褐色土 埴土 粘り中 堅密度軟
ローム(V)～黒土(III)

HF
8 7.5YR4/1 褐色土 シルト質埴土 粘り中 堅密度しよう
11 6 HF
9 10YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度軟 焼土粒を含む
10 7.5YR4/6 褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度軟 焼土
11-6 1層+1・2・3
11 7.5YR2/2 黒褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度軟
ローム(V)＋黒十層
12 10YR3/4 暗褐色土 シルト質埴土 粘り弱 堅密度しよう
13 7.5YR4/6 褐色土 埴土 粘り中 堅密度しよう
14 10YR3/3 暗褐色土 埴土 粘り中 堅密度しよう

図Ⅱ-6 H-6



図Ⅱ-7　H-6の遺物

ており、後述するHP-1に通じている。「先端ピット」（HP-1）は平面長軸の南東の壁際に掘り込まれた平面が不整楕円形の土坑で、内部は黒色土で充填されており竪穴と供に埋没した可能性がある。HP-1のある竪穴長軸側の方向は、緩斜面下側あるいは海側に向いている。付近からは類似する特徴を持つ住居跡H-5が検出されている。

遺物　1～9は土器で全てⅢ群b類である。1は小ぶりな山形突起を有する土器口縁部である。頸部には軽い括れがあり、口唇部の断面は角形を呈する部分が多い。器面には条が横位になる縄文が施文されている。2～7は口縁部で、2～5が縄線文二条の施されたもの、6は折り返しのあるもの、7は地紋の縄文の施され方が粗密である。8は胴部片、9は上げ底の底部片で、内底の形状が円味を帯びている。底面にも地紋が施されている。

10～19は石器である。10は凹基の三角鏃でこれは本住居の時期と異なることから混入の可能性が高い。11は簡易なつまみ部が作出されたもので風化面を有した黒曜石製である。12～16はスクレイパーで、全て頁岩製である。13が下端部に刃部を有している。それ以外は側縁部に刃部を有している。17は三角形石製品の破片ある。18はたたき石で、手に収まるサイズの長楕円形の礫の両端部を主に使用している。19は表と背面を使った石皿の破片である。

時期　「先端ピット」が備わる構造的特長と出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。　（皆川）

H-7（図Ⅱ-8～12、表Ⅴ-2・3・6・7、図版8・28・29）

位置　v 45．w 45．v 46．w 46　　**規模**　3.46×2.70／3.06×2.07／0.43m

確認・調査　Ⅱ層を除去した段階で、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中心から直交する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、床と壁の立ち上がりを確認した。2か所の炉跡から採取した炭化物の年代測定を行った。

覆土　1層は自然堆積層で2・3層は多量のロームを含む層が床面まで堆積している。

形態　平面形は長円形である。床はやや凹凸がある。中央部は焼成を受け、赤色硬化している。壁は急角度で立ち上がる。南東側の床・壁の一部は重機による攪乱を受けている。

付属遺構　柱穴は12基検出された（HP-2～5・7～12・14・15）。このうち対になるものが10基ある（HP-8・10、11・15、7・14、2・6、3・5）。炉は床面中央より南側で2か所検出された（HF-1・2）。HF-1は石囲い炉である。長方形で、浅い掘り込みをもつ。HF-2は地床炉である。HF-1・2の焼土出土の炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、5：IAAA-122252、6：IAAA-122253）。その結果、暦年校正年代（1σ）で5が2875～2698calBC、6が2840～2581calBCの値が示されている。周溝は南側と東側の一部を除く床面から検出された。北側と東側の一部は途切れている。幅約5～11cm、深さ約6cmである。土坑は南端の壁際で、検出された（HP-1）。いわゆる先端ピットとよばれるものである。この土坑と石囲い炉の間にも土坑が検出された（HP-13）。

土坑と炉跡の位置からみてHF-2炉跡を伴いHP-13を先端ピットとする竪穴と、HF-1炉跡を伴いHP-1を先端ピットとする竪穴が重複する可能性がある。放射性炭素年代測定ではHF-1炉跡が60年古い値が得られている。このことから規模を縮小して建て替えられた可能性が高い。

遺物出土状況　床面直上から土器片・スクレイパー・礫が出土した。北東側の壁際から石鏃3・Uフレイク1がまとまって出土した。北南側のⅠ層からⅢ群b類土器がまとまって出土した。北西側のⅠ層から礫の集中がみられた（集中礫-1）

遺物　1～20はⅢ群b類土器である。1はPO-1として図示した復元土器で、床に近い覆土中から出土している。緩やかな凹凸を有する平縁の深鉢土器で底部は欠失している。頸部に横位の貼付帯を有しており、文様は口縁部と貼付帯上に太い原体を使った縄線文、口唇部と胴部には同一原体と考えら

れる縄文が施されている。2・3は床面から出土したもので、2の口縁部には太い縄線文が2条施されている。4～11は覆土層のもので4は縄線文が施された口縁部、5～7が貼付や沈線文が施された頸部で5は滑石土器である。9・10は地紋の施された口縁部、8・11は胴部である。12～20は覆土上位層の土器で、12は大型土器の上げ底の底部である。13～15、20は貼付と沈線文が施された口縁部である。

21～38は石器である。21～23は竪穴の壁際床から纏まって出土した有茎の石鏃である。21・23は黒曜石製、22は頁岩製である。24は片面だけに加工を施した石錐、25～31は縦長剥片を用いたスクレイパーである。26は光沢が著しい。32は拳大の円礫の端部に最低限の加工を施した礫器、33は小型のたたき石である。34～36は扁平打製石器である。36はP-30の覆土出土のもの（左側）と接合している。37が小型の石錘、38が台石である。

時期 出土したⅢ群b類土器からみて、縄文時代中期後半と考えられる。（佐藤、皆川）

H-8（図Ⅱ-13・14、表V-2・3・6、図版9・27）

位置 x 47 **規模** 4.17×4.03／1.93×1.90／0.42m

確認・調査 調査範囲南側の撹乱すぐ横に位置する。撹乱内から、グリットX 47を見たときX 47の南壁側に黒い落ち込みを発見した。南西部分を長軸とし、北西部分を短軸として土層確認用のベルトを設定し掘り下げたところ、壁の立ち上がりと床面を確認した。壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。床面からは炭化した木片のまとまりが数か所で検出され、放射性炭素年代の測定、および樹種同定をおこなった。掘り込み面は、覆土の堆積状況および出土遺物から、Ⅱ～Ⅳ層中と考えられる。平面形は、残存部分から見て卵形を呈すると思われる。覆土は自然層である。

付属施設 南側に先端ピット（HP-1）があり、床面を5cmの深さで楕円形に掘り込んでいる。そのすぐ後ろにもう一つの先端ピットと思われるHP-2を検出した。床面を10cmの深さで楕円形に掘り込んでいる。南西側と西側の二方の壁際から周溝が検出された。幅7cm、深さ5cmで断面はU字形を呈する。南東側と南西側に1か所ずつ柱穴（HP-3・4）を検出した。直径15cm、深さ10～30cmである。それぞれを半裁して断面観察を行ったところ、HP-3は住居の中央にやや内傾し、HP-4は住居側に外傾している。底面はV字形である。炉跡の焼土出土の炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、7：IAAA-122254）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2859～2631calBCの値が示されている。

遺物出土状況 Ⅲ群b類土器がⅡ層中から57点、覆土から126点、床面から11点、すり石が覆土中から1点、UフレイクがⅡ層中から2点、床面から2点、礫がⅡ層中から44点、覆土中から48点、床面から34点、フレイクがⅡ層中から37点、覆土中から35点、床面から2点出土した。

遺物 1～16はⅢ群b類土器である。1～14が覆土層、15・16が床面から出土した。15・16はいずれも上げ底の底部で器面には斜行縄文が施されている。1・2は同一個体で、口縁部と頸部に低い貼付帯を有し、加えて横位に斜めの刺突列と沈線文も施されている。3～8は滑石土器で、3・4には刺突文、5～8は貼付が施されている。9～13は地紋の施された口縁部で、9の口唇部には縄の刻みも施されている。

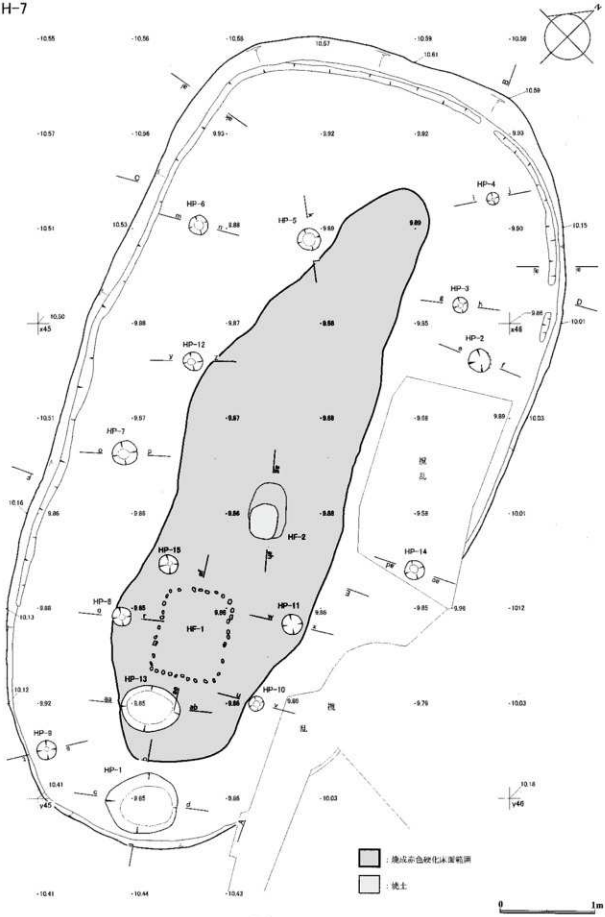
時期 出土遺物および周辺の遺物状況からみて、縄文時代中期後半の可能性がある。（奥山、皆川）

H-9（図Ⅱ-15・16、表V-2・3・6・7、口絵2、図版30）

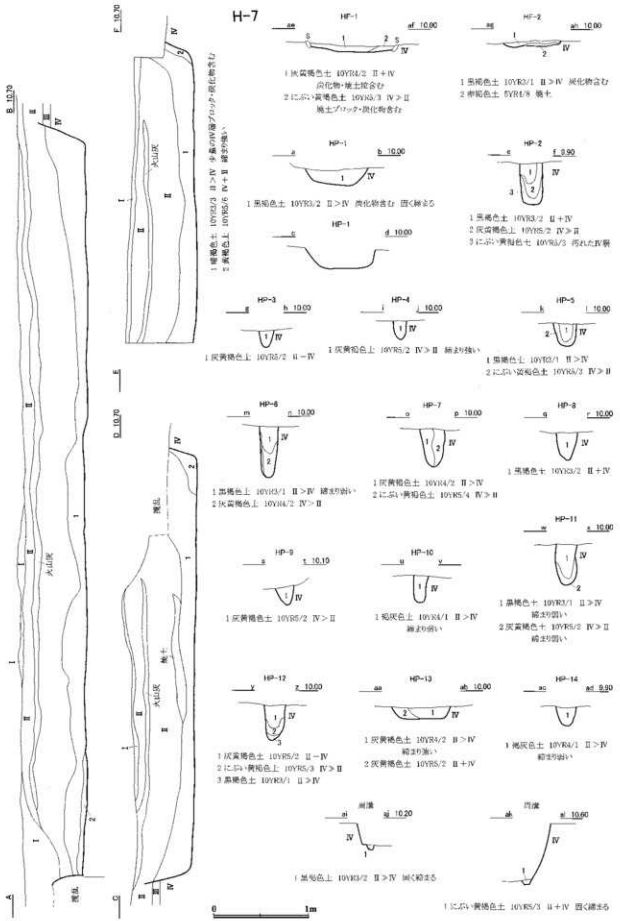
位置 v 45, w 45, v 46, w 46 **規模** 3.46×2.70／3.06×2.07／0.43m

確認・調査 Ⅱ層の調査中に、黒色土と褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中心から直交する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、床と壁の立ち上がりを確認した。炉跡から採取した炭化物の年代測定を行った。

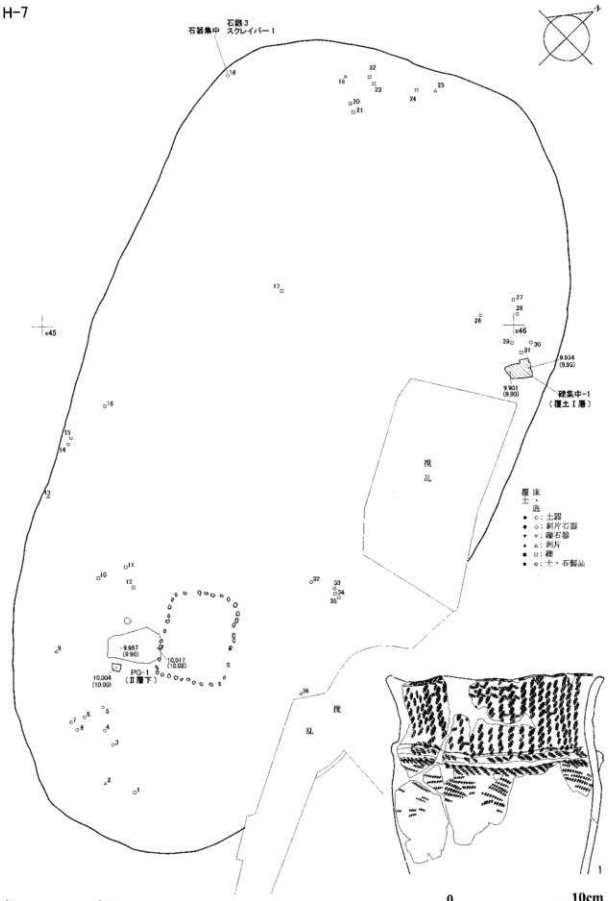
H-7


HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
HP-15
HF-1
HF-2
：焼成赤色被化土面範囲
：焼土
0
1m

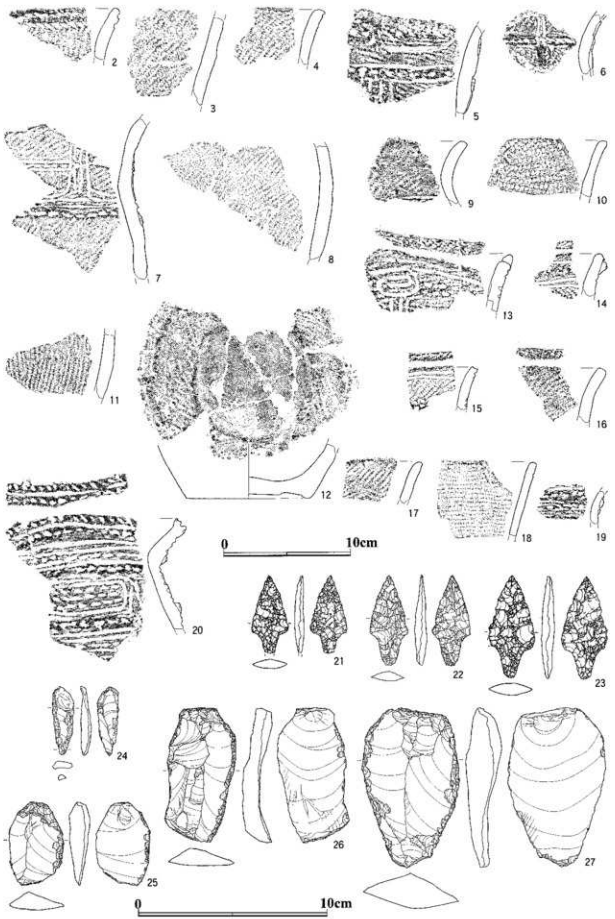
図Ⅱ-8　H-7


H-7
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＞Ⅳ 炭化物含む
2 赤褐色土 5YR4/8 焼土
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＞Ⅳ 炭化物含む 固く締まる
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＋Ⅳ
2 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ＞Ⅱ
3 にぶい黄褐色土 10YR5/3 汚れたⅣ層
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅱ－Ⅳ
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ＞Ⅱ 締まり強い
1 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ
2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Ⅳ＞Ⅱ
1 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ 締まり弱い
2 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅳ＞Ⅱ
1 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅱ＞Ⅳ
2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 Ⅳ＞Ⅱ
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＋Ⅳ
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ＞Ⅱ
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ 締まり弱い
1 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ 締まり弱い
2 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ＞Ⅱ 締まり弱い
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅱ－Ⅳ
2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Ⅳ＞Ⅱ
3 黒褐色土 10YR3/1 Ⅱ＞Ⅳ
1 灰黄褐色土 10YR4/2 Ⅱ＞Ⅳ 締まり強い
2 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅱ＋Ⅳ
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ 締まり弱い
1 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＞Ⅳ 固く締まる
1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 Ⅱ＋Ⅳ 固く締まる
1 褐褐色土 10YR3/3 Ⅱ＞Ⅳ 少量のⅣ層ブロック・炭化物含む
2 黄褐色土 10YR5/6 Ⅳ＋Ⅱ 締まり強い
火山灰
0 1m

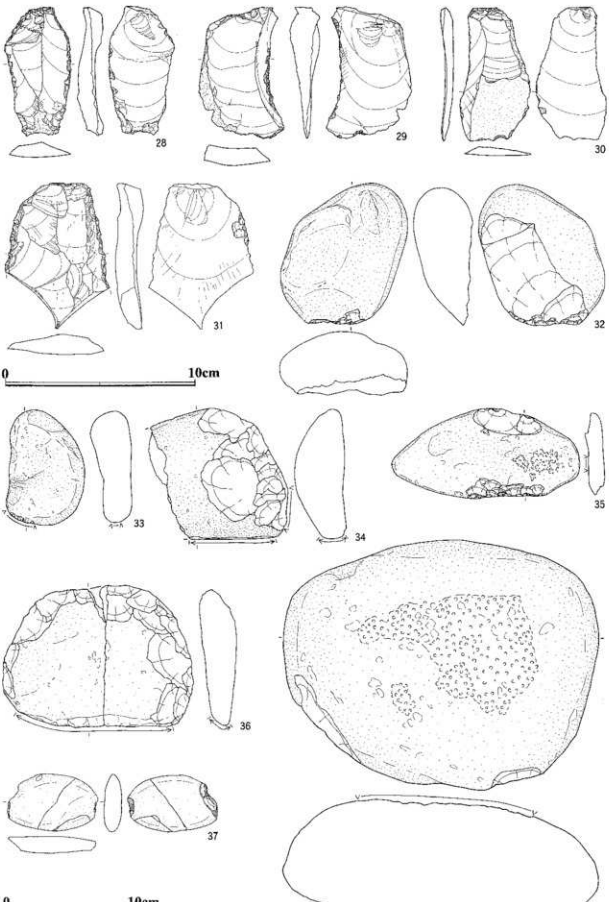
図Ⅱ-9 H-7(2)


H-7
石器集中
石器3
スクレイパー1
硬集中-1
（覆土Ⅰ層）
PO-1
（Ⅱ層下）
9.934
(9.90)
9.901
(9.90)
9.957
(9.90)
10.017
(10.00)
10.004
(10.00)
覆土・床
底
○：土器
◇：剥片石器
▼：磨石器
△：剥片
□：礫
●：土・石製品
0
1m
0
10cm

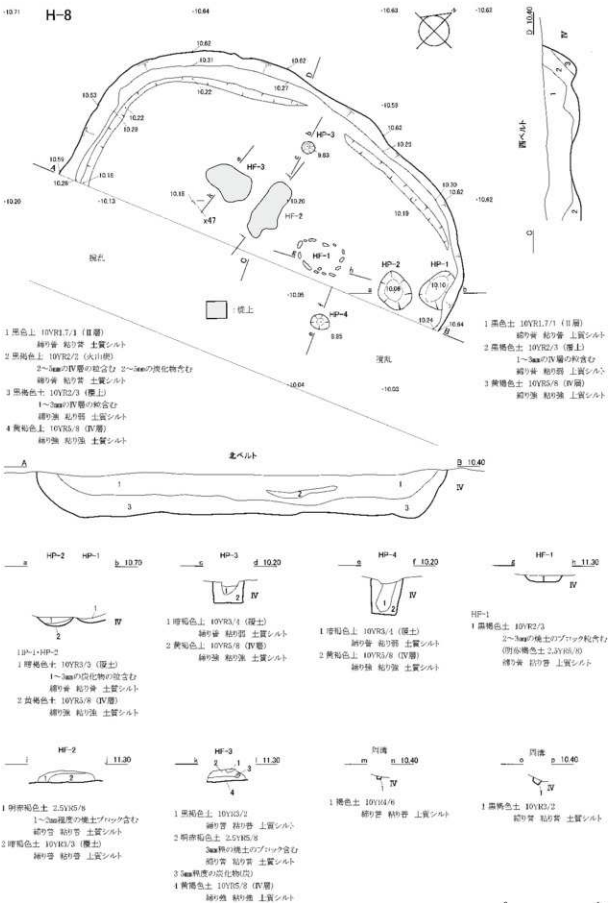
図Ⅱ-10　H-7（3）と遺物


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
0
10cm
20
21
22
23
24
25
26
27
0
10cm

図Ⅱ-11　H-7の遺物(2)



図Ⅱ-12　H-7の遺物(3)


H-8
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HF-1
HF-2
HF-3
x47
撹乱
現乱
:焼土
北ベルト
西ベルト
A
B
1 黒色土 10YR1.7/1（Ⅱ層）
締り普 粘り普 土質シルト
2 黒褐色土 10YR2/2（火山灰）
2~3mmのⅣ層の粒含む 2~3mmの炭化物含む
締り普 粘り普 土質シルト
3 黒褐色土 10YR2/3（撹土）
1~3mmのⅣ層の粒含む
締り強 粘り弱 土質シルト
4 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
1 黒色土 10YR1.7/1（Ⅱ層）
締り普 粘り普 土質シルト
2 黒褐色土 10YR2/3（撹土）
1~3mmのⅣ層の粒含む
締り弱 粘り弱 土質シルト
3 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
HP-2 HP-1
a b 10.70
1
Ⅳ
2
1P~1+HP-2
1 暗褐色土 10YR3/3（撹土）
1~3mmの炭化物の粒含む
締り普 粘り普 土質シルト
2 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
HP-3
c d 10.20
2
Ⅳ
1 暗褐色土 10YR3/4（撹土）
締り普 粘り普 土質シルト
2 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
HP-4
e f 10.20
1
2
Ⅳ
1 暗褐色土 10YR3/4（撹土）
締り普 粘り普 土質シルト
2 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
HF-1
g h 11.30
Ⅳ
HF-1
1 黒褐色土 10YR2/3
2~3mmの焼土のブロック粒含む
(明赤褐色土 2.5YR5/8)
締り普 粘り普 土質シルト
HF-2
i j 11.30
1
2
1 明赤褐色土 2.5YR5/8
1~2mm程度の焼土ブロック含む
締り普 粘り普 土質シルト
2 暗褐色土 10YR3/3（撹土）
締り普 粘り普 土質シルト
HF-3
k l 11.30
2 1 3
4
1 黒褐色土 10YR3/2
締り普 粘り普 土質シルト
2 明赤褐色土 2.5YR5/8
3mm粒の焼土のブロック含む
締り普 粘り普 土質シルト
3 3mm粒度の炭化物(炭)
4 黄褐色土 10YR5/8（Ⅳ層）
締り強 粘り強 土質シルト
断面
m n 10.40
Ⅳ
1 暗色土 10YR4/6
締り普 粘り普 土質シルト
断面
o p 10.40
Ⅳ
1 黒褐色土 10YR3/2
締り普 粘り普 土質シルト
0
1m

図Ⅱ-13 H-8

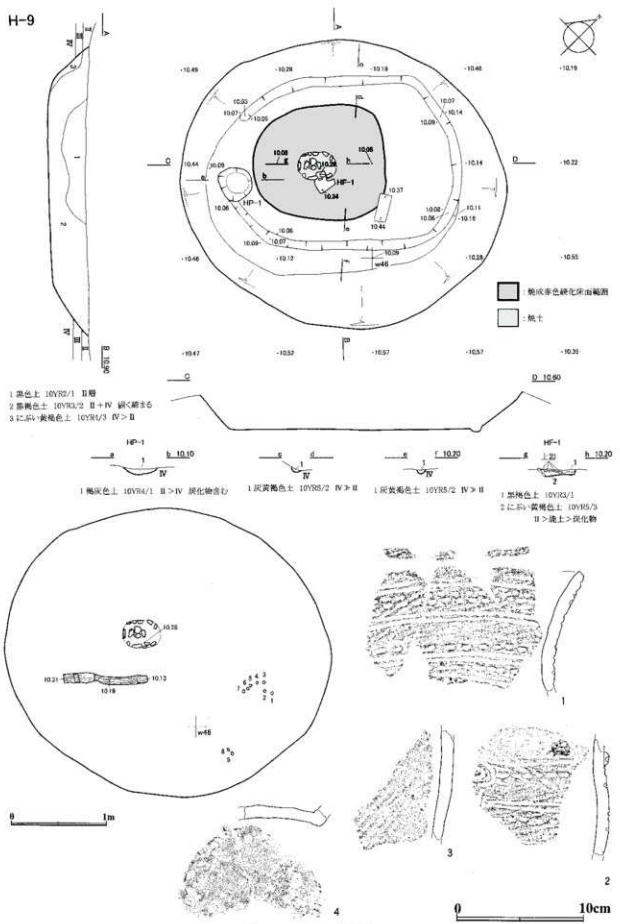
図Ⅱ-14　H-8（2）と遺物

覆土 上位（1層）は自然堆積層で下位（2・3層）は多量のロームを含む層が床面まで堆積している。
形態 平面は円形である。床はほぼ平坦である。炉跡の周辺は焼成を受け、赤色硬化している。壁は外に開き気味に立ち上がる。
付属遺構 炉は床面中央より西側で検出された（HF-1）。浅い掘り込みをもち、東側を除いて礫と土器片で囲われている。HF-1炉跡の焼土出土炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、8：IAAA-122255）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2848～2581calBCの値が示されている。周溝は西側を除く床面から検出された。幅約7～13cm、深さ約5cmである。土坑は西端の壁付近で検出された（HP-1）。いわゆる先端ピットとよばれるものである。
遺物出土状況 炉跡や東側の床直上・覆土からⅢ群b類土器がまとまって出土した。
遺物 1～15はⅢ群b類土器である。1～4はHF-1に使われていた土器片で同一個体と考えられる。頸部に横環する貼付帯を有する平縁の深鉢形土器で、口縁部などに横位の沈線文と刺突文が施されている。底部は僅かに上げ底気味である。5～7は床面出土の土器で、縄線文が施されている。15はHP-1覆土から出土した底部片で、器面には竹管状の施文具で刺突文が施されている。8～14は覆土の土器である。8・9は頸部に交換する貼付帯を有した土器で、貼付帯上の文様は8が縄線文、9が刺突文である。9の口縁部には更に縄線文が施されている。14は貼付と縄線文が施された口縁部で滑石土器である。16～19は石器である。16は頁岩製の有茎石鏃で、上下両端部が欠失している。17はRフレイク、18・19はUフレイクで3点とも頁岩製である。
時期 出土したⅢ群b類土器からみて、縄文時代中期後半と考えられる。（佐藤、皆川）

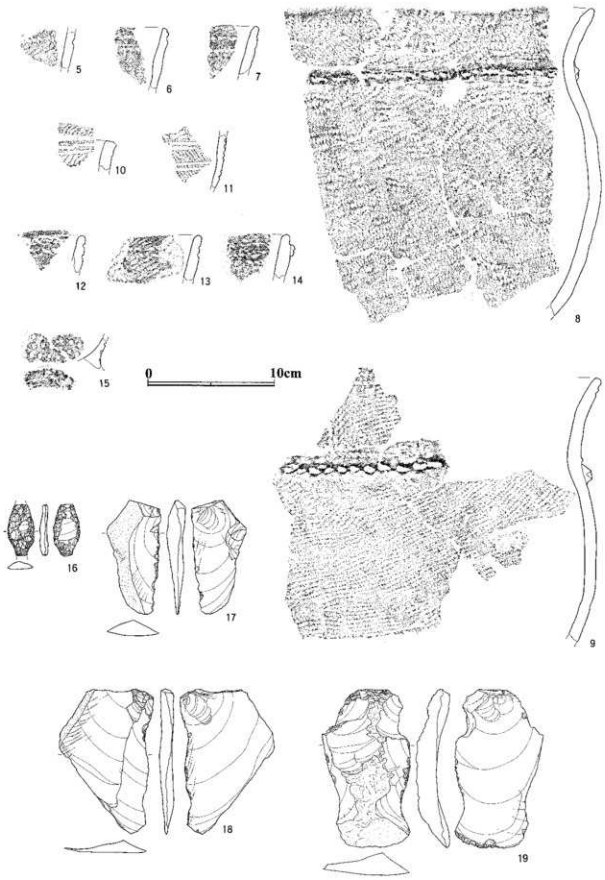
H-10（図Ⅱ-17～19、表Ⅴ-2・3・6・7、図版10・31）

位置 x 49, y 49 **規模** 4.00×3.65／3.00×2.65／0.4m
特徴 標高12～13mほどの緩斜面で検出された平面が不整の隅形を呈する竪穴住居跡である。床面はⅤ層ローム層に構築されており、炉跡や周溝、柱穴、「先端ピット」（HP-1）と考えられるものが検出されている。炉跡（HF）は平面長軸上のやや南東側に位置し、構造は浅く掘った窪みに小型の円礫を配した石囲い炉である。炉石は図示したように部分的に欠如しており、意図的に持ち去られた可能性がある。HF炉跡の焼土上から出土した炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-1、9：IAAA-122256）。その結果、暦年校正年代（1σ）で2873～2696calBCの値が示されている。HF近くの床面からは底部を含む深鉢土器（1）の下半部が潰れた状態で出土している。また、HFを含む床中央部の黒太線で示した範囲は他と比較して非常に硬くなっており、貼床の可能性もある。周溝は基本壁際を回っているが所々で分断されている。柱穴は7か所が検出され、うちHP-2・4～8は主柱穴と考えられる。平面長軸の南東側壁近くの床からは不整楕円形の小型の土坑が検出されており、「先端ピット」（HP-1）に相当すると考えられる。掘り込みは浅く、坑底も立ち上がりも不明瞭である。隣接して同じ特徴を有するH-6が検出されている。
遺物 1～5は全てⅢ群b類土器である。1は石囲い炉（HF）近くの床面から出土した上げ底の土器下半部で胴部の器面には条が横位となる縄文が施されている。2も床面出土で、多条縄文状の地紋が施された口縁部付近である。3・5は覆土出土で、3の口唇直下には縄線文の施荒れた貼付帯が回らされている。4はHP-3の覆土から出土した小片で、貼付帯に縄線文と沈線文も施されている。

6は有茎の石鏃で上下両端が失われている。頁岩製で被熱している可能性がある。7・8はスクレイパー、9がUフレイクで全て頁岩製である。いずれも表面の一部に光沢が認められる。10は小型の石斧、11は主にすり石として使用されたと考えられる扁平打製石器である。
時期 出土遺物と「先端ピット」が備わる構造的特長から縄文時代中期後半と考えられる。（皆川）

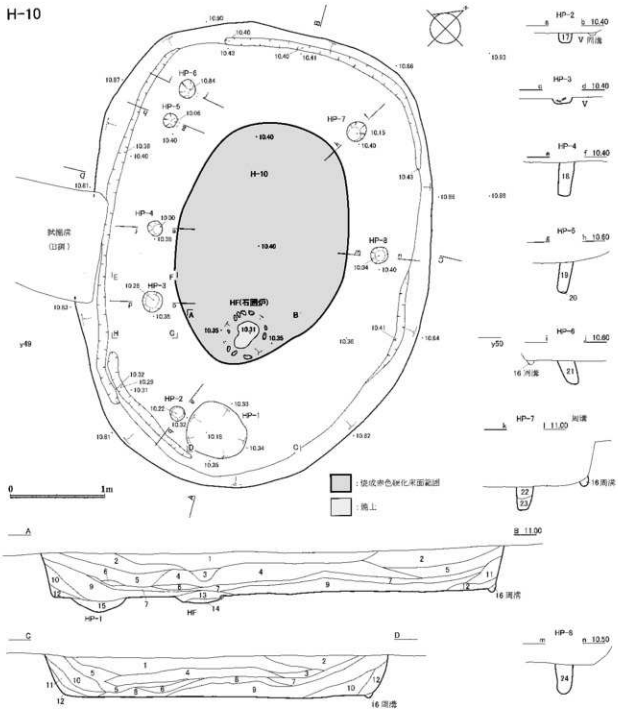

H-9
HP-1
HF-1
w46
B 10.90
C
D 10.60
1 黒色土 10YR2/1 Ⅱ層
2 黒褐色土 10YR3/2 Ⅱ＋Ⅳ 鍋く締まる
3 に示い黄褐色土 10YR4/3 Ⅳ＞Ⅱ
1 褐灰色土 10YR4/1 Ⅱ＞Ⅳ 炭化物含む
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ≫Ⅱ
1 灰黄褐色土 10YR5/2 Ⅳ≫Ⅱ
1 黒褐色土 10YR3/1
2 に示い黄褐色土 10YR5/3
Ⅱ＞焼土＞炭化物
0
1m
0
10cm

図Ⅱ-15　H-9と遺物



図Ⅱ-16 H-9の遺物(2)

H-10

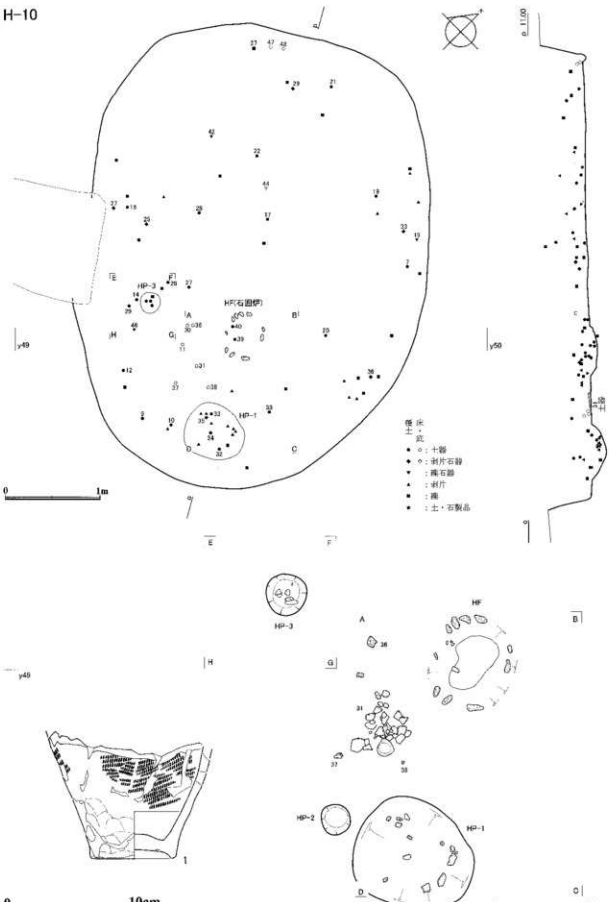


11 10
1 10YR1/1 黒色土 植壌土 粘り強 窒密度欲
2 10YR1.7/1 黒色土 埴壌土 粘り強 窒密度欲
3 7.5YR2/3 極暗褐色土 埴壌土 粘り弱 窒密度しょう
4 10YR2/1 黒色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
5 10YR2/2 黒褐色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
ローム粒を含む
6 10YR1.7/1 黒色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
7 10YR2/3 黒褐色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
ローム粒を含む(5層+8層 既状)
8 7.5YR2/2 黒褐色土 埴壌土 粘り弱 窒密度しょう
ローム粒を含む
9 10YR3/3 暗褐色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
ロームブロック(V)を含む
10 10YR3/4 暗褐色土 埴壌土 粘り弱 窒密度しょう
ローム粒を含む
11 10YR2/3 黒褐色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
ロームブロック(V)+5層
12 7.5YR4/4 褐色土 埴壌土 粘り中 窒密度しょう
ローム(V)+11層

11 10 HP-1
15 10YR3/3 暗褐色土 埴壌土 粘り強 窒密度堅
HP-2
17 7.5YR4/3 褐色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度しょう
HP-4
18 7.5YR4/3 褐色土 壌土 粘り弱 窒密度しょう
HP-5
19 7.5YR5/8 橙色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度しょう
20 7.5YR2/1 黒色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度しょう

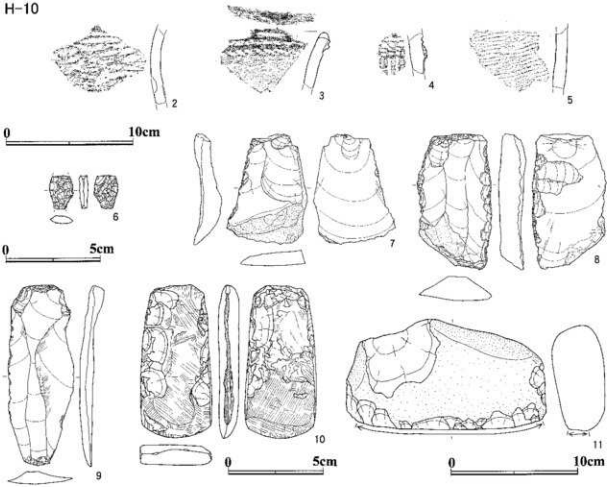
周溝
16 7.5YR5/6 明褐色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度堅
HP-6
21 7.5YR5/6 暗褐色土 シルト質壌土 粘り弱 堅密度堅
HP-7
22 7.5YR3/2 暗褐色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度すこぶる堅
23 7.5YR5/6 暗褐色土 シルト質壌土 粘り弱 窒密度すこぶる堅
HP-8
24 10YR3/3 シルト質壌土 粘り弱 窒密度すこぶるしょう
H-10 HF
13 7.5YR3/3 暗褐色土 シルト質壌土
粘り強 窒密度堅
14 5YR4/6 赤褐色土 シルト質壌土
粘り強 窒密度すこぶる堅 焼土

図Ⅱ-17 H-10

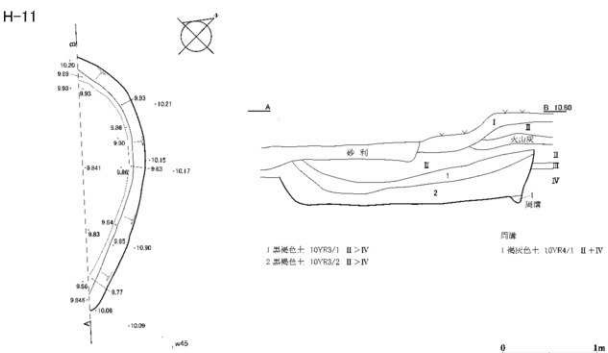


図Ⅱ-18 H-10(2)と遺物

H-10



H-11



図Ⅱ-19 H-10の遺物(2)・H-11

H-11（図Ⅱ-19、表Ⅴ-2・3、図版12）

位置 ｖ44　**規模** 2.69×(0.71)／2.38×(0.55)／0.46ｍ

確認・調査 Ⅱ層を除去した段階で、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みは調査区外に広がっていた。そのため調査区内の落ち込みを掘り下げ、床と壁の立ち上がりを確認した。

覆土 上位（1層）は自然堆積層で下位（2・3層）は多量のロームを含む層が床面まで堆積している。

形態 遺構の約三分の一しか確認できないため全体の形態は不明である。床はやや凹凸がある。南側に傾斜している。壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構 周溝は壁際の床面で検出された。幅約5～8cm、深さ約8cmである。

遺物出土状況 覆土から石槍、たたき石が出土した。

遺物 掲載遺物なし。

時期 出土したⅢ群ｂ類土器からみて、縄文時代中期後半と考えられる。（佐藤）

H-12（図Ⅱ-20～22、表Ⅴ-2・3・6・7、図版11・12・31・32）

位置 ｈ53、ｈ54、ｉ53　**規模** 4.06×2.48／3.74×2.26／0.4ｍ

特徴 標高14ｍ付近の緩斜面において単独で検出された竪穴住居跡である。平面は不整の隅丸長方形を呈し、Ⅴ層ローム層にまでしっかりと掘り込んで床を構築している。床面からは炉跡2か所（HF-1・2）と小型の土坑2か所（HP-1・2）、一括土器2個体（PO-1・2）が検出された。炉跡は竪穴長軸上の中央からやや南側によった位置で並んで見つかった。HF-1は斜めに掘り込まれた小型の土坑を伴う。HF-2は小型の地床炉で、HF-1とHF-2のどちらが主体かは不明であるが使用の頻度はそれ程長くないと考えられる。土坑の平面はHP-1が円形、HP-2が不整の隅丸長方形で、どちらも掘り込みが浅く特に後者は立ち上がりが判然としない。柱穴は検出されず、周溝も認められなかった。

竪穴の覆土上位と周辺からは複数の焼土が検出されているが、焼失家屋の可能性は少なく性格は不明である。

遺物 1・2は微細図（図Ⅱ-21）を示した床面出土のPO-1・2である。いずれもⅢ群ｂ類土器の深鉢で、1は口縁に低い山形突起を4か所有するもので、口唇断面は丸形で器壁は口縁部で比較的厚く器面には2段単節の斜行縄文が施されている。底部は試掘穴によって失われた可能性が高い。2は沈線で文様が描かれたもので口唇部には刻みが施されており、器面には2段単節と1段無節の二つの原体を用いた縄文が施されている。3～6はⅣ群ａ類土器と考えられる。3・4は肥厚帯を有した口縁部で4の肥厚帯下には沈線文も施されている。5・6は胴部で、5にはバンド状の貼付が施されている。地紋は多縄の原体による縄文が施されている。

7～14は石器である。7・8は有茎の石鏃、9は大柄なつまみ部を有するつまみ付ナイフで尖頭部も作出されている。10・11はスクレイパー、12は比較的小型の石核である。ここまでは全て頁岩製で、10・11・12は床面出土である。13は岩斧、14は砂岩製の砥石である。

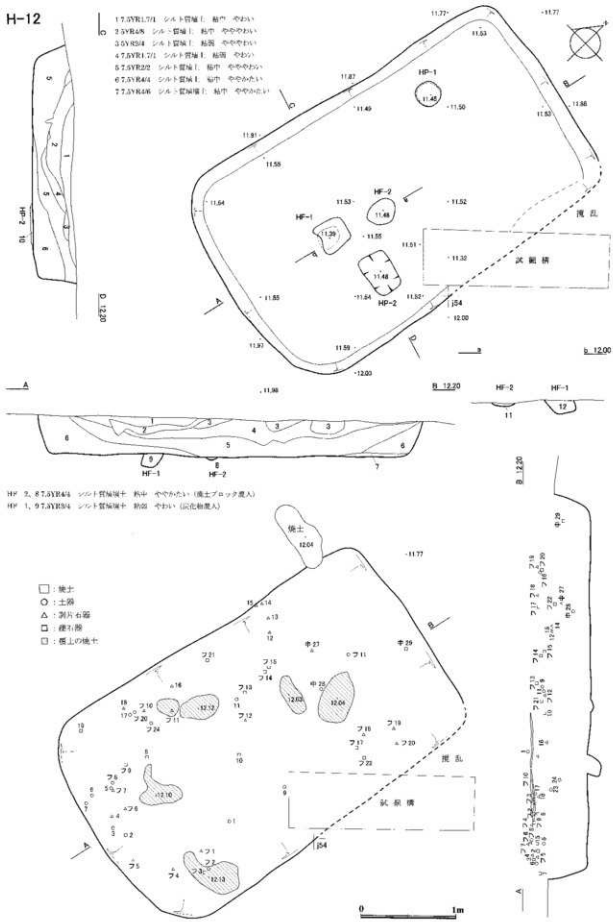
時期 出土土器から縄文時代中期後半である。（皆川）

H-13（図Ⅱ-23、表Ⅴ-2・3、図版13）

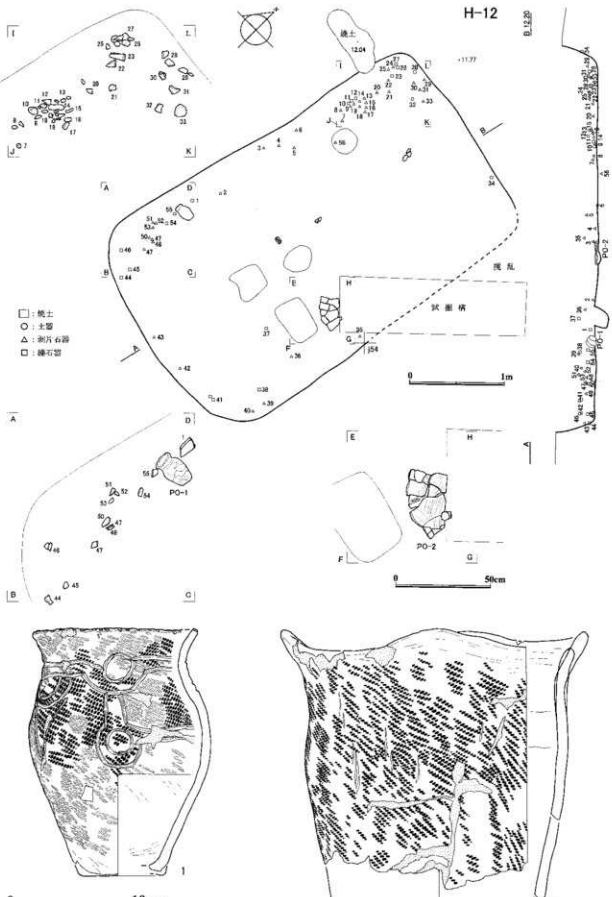
位置 ｈ53、ｈ54、ｉ53　**規模** 3.24×2.76／2.90×2.50／0.6ｍ

特徴 標高14～15ｍ付近の緩斜面において検出された小型の竪穴住居跡あるいは竪穴状遺構である。P-42～44と重複しており、内P-42・43よりも旧い。平面は不整の円形を呈し、Ⅴ層ローム層にまでしっかりと掘り込んで床を構築している。北側の壁際には小規模なベンチ状の段があり、そこから各周溝の一部も検出されている。炉跡、柱穴などは検出されていない。

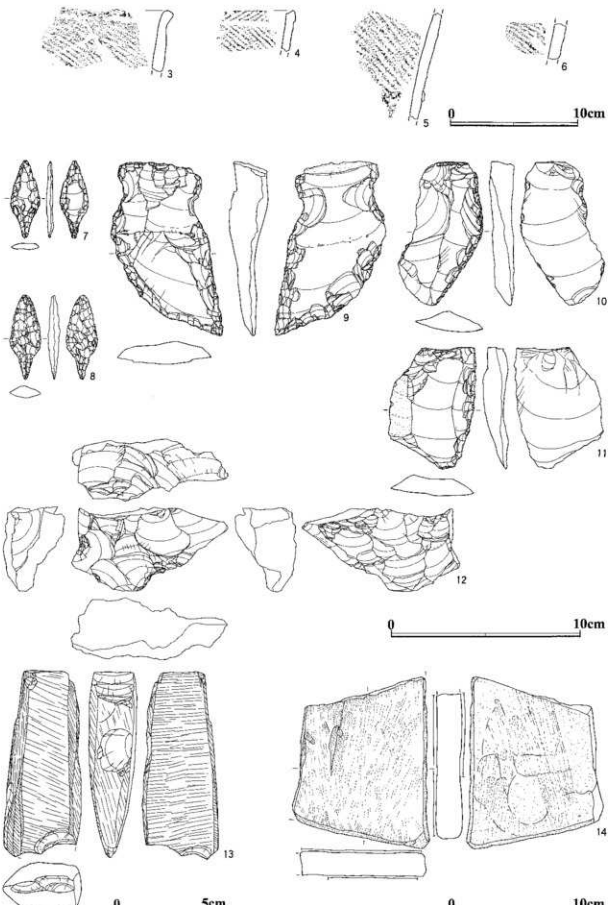
遺物 掲載遺物なし。


H-12
1 7.5YR1.7/1 シルト質埴土 粘中 やわい
2 5YR4/8 シルト質埴土 粘中 やややわい
3 5YR3/4 シルト質埴土 粘弱 やややわい
4 7.5YR1.7/1 シルト質埴土 粘弱 やわい
5 7.5YR2/2 シルト質埴土 粘中 やややわい
6 7.5YR4/4 シルト質埴土 粘中 ややかたい
7 7.5YR4/6 シルト質埴土 粘中 ややかたい
HF-1
HF-2
HP-1
HP-2
試 掘 構
撹 乱
HF 2, 8 7.5YR4/4 シルト質埴土 粘中 ややかたい（焼土ブロック混入）
HF 1, 9 7.5YR3/4 シルト質埴土 粘弱 やわい（炭化物混入）
□：焼土
○：土器
△：剥片石器
□：礫石器
□：長上の焼土
焼土
0
1m

図Ⅱ-20 H-12

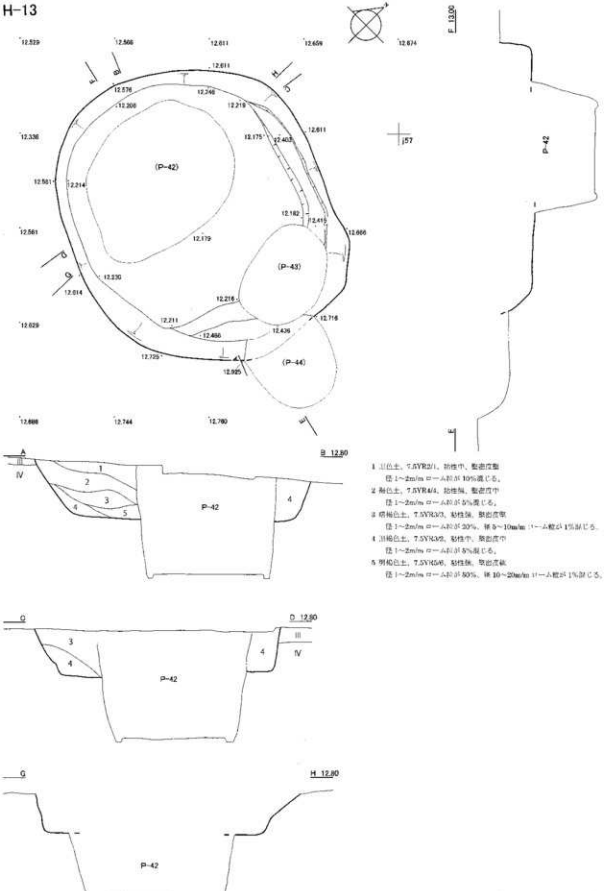


図Ⅱ-21 H-12(2)と遺物



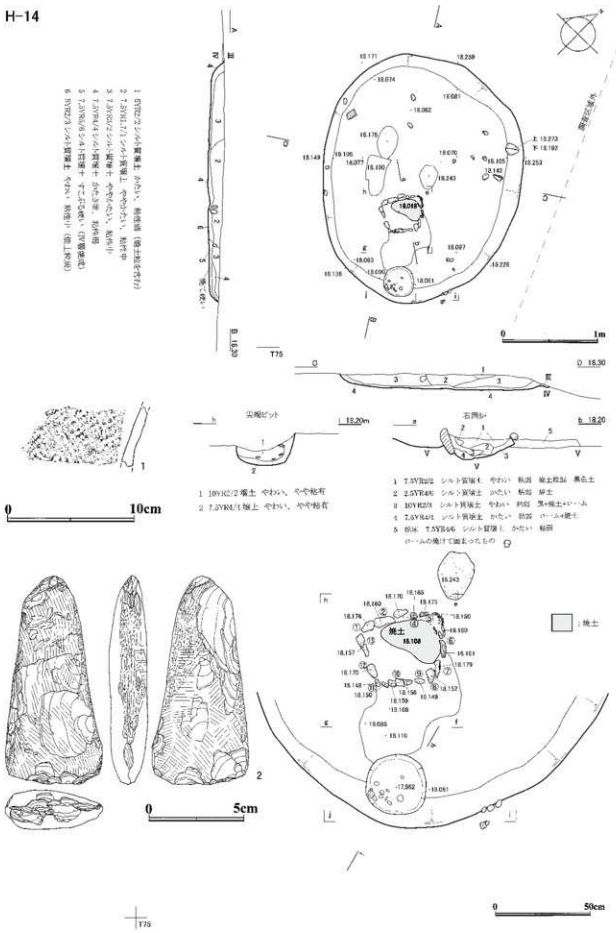
図Ⅱ-22　H-12の遺物(2)

H-13



1 黒色土、7.5YR2/1、粘性中、緊密度強
　径 1～2m/m ローム粒が 10%混じる。
2 褐色土、7.5YR4/4、粘性強、緊密度中
　径 1～2m/m ローム粒が 5%混じる。
3 明褐色土、7.5YR3/3、粘性強、緊密度強
　径 1～2m/m ローム粒が 20%、径 5～10m/m ローム粒が 1%混じる。
4 黒褐色土、7.5YR3/2、粘性中、緊密度中
　径 1～2m/m ローム粒が 5%混じる。
5 明褐色土、7.5YR5/6、粘性強、緊密度強
　径 1～2m/m ローム粒が 50%、径 10～20m/m ローム粒が 1%混じる。

図Ⅱ-23　H-13


H-14
1 10YR2/2 黒褐色 ややしまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
2 10YR3/3 暗褐色 しまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
3 10YR3/4 暗褐色 しまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
4 10YR4/4 褐色 しまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
5 10YR4/6 褐色 しまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
6 10YR3/3 暗褐色 ややしまりあり (焼土粒・炭化物・ローム粒少量含む)
1 10YR2/2 黒褐土 ややしまりあり
2 7.5YR4/4 褐土 ややしまりあり
1 7.5YR5/2 シルト質褐土 ややしまり 粘着 焼土粒3% 黒色土
2 2.5YR4/6 シルト質褐土 かたしまり 粘着 褐土
3 10YR2/3 シルト質黒土 やわらか 粘着 黒褐土ロームブロック
4 7.5YR4/4 シルト質褐土 かたしまり 粘着 ロームブロック
5 粘土 7.5YR5/6 シルト質褐土 かたしまり 粘着
ロームの地山で固まったもの
焼土
0 1m
0 10cm
0 5cm
0 50cm

図Ⅱ-24 H-14と遺物

時期 周辺の遺物から縄文時代中期後半から後期前葉の可能性が考えられる。（皆川）

H-14（図Ⅱ-24、表Ⅴ-6・7、図版14・32）

位置 h 53, h 54, i 53 **規模** 2.60×2.08／2.30×1.82／0.32m

特徴 標高18～19m付近の緩斜面において単独で検出された小型の竪穴住居跡である。平面は不整の楕円形を呈し掘り込みは浅い。床面からは炉跡と小土坑が見つかっている。炉跡は浅い掘り込みが伴った石囲い炉で、その炉石は長方形状に配置されている。すぐ北側には人頭大の大型礫が出土しており、台石の可能性がある。小土坑は南側の壁際で検出されており、「先端ピット」と考えられる。石囲い炉から「先端ピット」にかけての床面には硬質化した部分が認められる。周溝、柱穴などは検出されていない。

遺物 1は深鉢形土器の胴部片で器面には斜行縄文が密に施されている。2は比較的大型の石斧である。

時期 炉跡などの特徴と覆土の遺物から縄文時代中期後半と考えられる。（皆川）

2 土坑（図Ⅱ-25～34、表Ⅴ-2・3・6・7、図版15～20・22・32～34・40・41）

P-30～49の20基が検出された。P-1～28は北埋調報280・292にて報告済みである。墓の可能性が高いと考えられるのがP-35・37・42である。P-47～49は箱館戦争頃の可能性がある。

P-30（図Ⅱ-25・26、表Ⅴ-2・3・6・7、図版15・33）

位置 y 46, z 46 **規模** 3.14×2.12／2.42×1.70／0.84m

特徴 攪乱を彫り上げた段階で焼土と褐色の落ち込みを確認した。落ち込みのほぼ中心から直行する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、坑底と壁の立ち上がりを確認した。平面形はほぼ円形である。覆土は厚さ約12cmの焼土をはさみ上位が自然堆積、下位がⅡ・Ⅳ層を主体とする埋め戻しである。坑底はほぼ平坦である。壁との堺は明瞭である。壁は急角度でたちあがる。調査の結果、2基の土坑が検出されたが堆積状況からみて同時に埋め戻されたものと思われる。

遺物出土状況 坑底直上から石槍・たたき石が出土した。覆土からはⅢ群b類土器が出土した。

遺物 1～18はⅢ群b類土器で、全て覆土出土である。1～3は頸部に横環する貼付帯を有するもので、器面には沈線文や刺突文、縄線文が施されている。4～7は縄線文が施されたもので、4・5が口縁部、6・7が胴部である。8～13は縄文を地紋とするもので、8～10が口縁部、11～13が胴部片である。14～17は底部で、全て上げ底気味である。18は口縁部にV字状の貼付が施されたもので、貼付上には縄線文が施されている。

19～23は石器である。19は凹基の三角鏃である。時期が異なることから混入と考えられる。20は小形の石槍あるいは石錐である。21はスクレイパー、22・23はたたき石である。23は小形で周囲に敲打痕が認められる。24は三角形石製品の未製品と考えられる。

時期 出土したⅢ群b類土器から縄文時代中期後半と考えられる。（佐藤、皆川）

P-31（図Ⅱ-25・26、表Ⅴ-2・3・6・7、図版15・32）

位置 y 46, z 46 **規模** 1.24×1.28／1.0×1.0／0.8m

特徴 攪乱を彫り上げた段階で焼土と褐色の落ち込みを確認した。落ち込みのほぼ中心から直行する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、坑底と壁の立ち上がりを確認した。平面形は不整長円形である。覆土は厚さ約12cmの焼土をはさみ上位が自然堆積、下位がⅡ・Ⅳ層を主体とする埋め戻しである。坑底はほぼ平坦である。壁との堺は明瞭である。壁は急角度でたちあがる。調査の結果、2基の土坑が検出されたが堆積状況からみて同時に埋め戻されたものと思われる。

遺物出土状況 坑底直上からⅢ群b類土器・礫が出土した。覆土下層からはⅢ群b類土器・スクレイ

パー・礫が出土した。

遺物　25~27はⅢ群b類土器の胴部片である。28は縦長剥片を用いたスクレイパーである。表面には光沢が認められる。

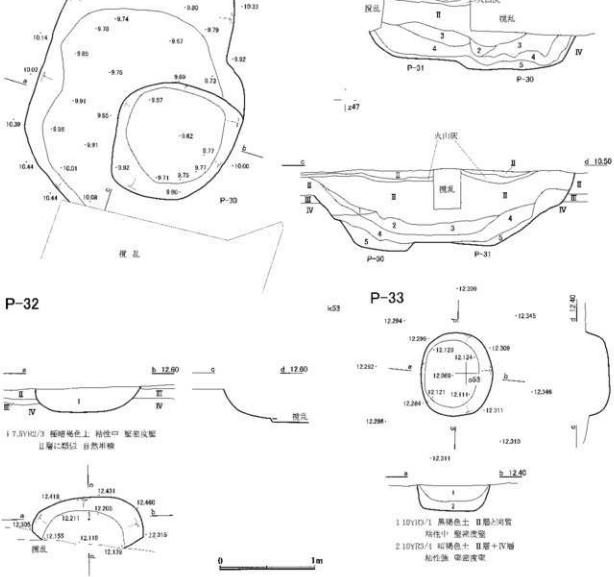
時期　出土したⅢ群b類土器からみて縄文時代中期後半と考えられる。　（佐藤、皆川）

P-32（図Ⅱ-25、表Ⅴ-2・3）

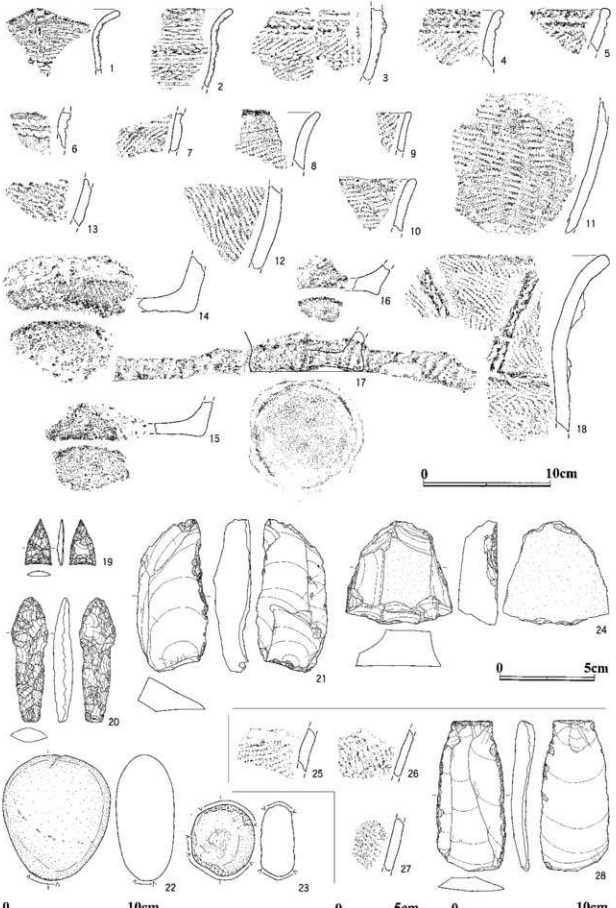
位置　k 52　**規模**　0.50×（0.25）／0.80×（0.50）／0.26m

特徴　標高14m付近で検出された土坑である。攪乱のためおおよそ半分を失っており、平面形は不明である。覆土は自然堆積の土壌で、性格は不明である。

遺物　掲載遺物なし



図Ⅱ-25　P-30・31・32・33



図Ⅱ-26 P-30（1～24）・31（25～28）

時期　不明　（皆川）

P-33（図Ⅱ-25、表V-2・3、図版18）

位置　n 52，n 53，o 52，o 53　**規模**　0.88×0.76／0.70×0.58／0.28 m

特徴　標高13～14 m付近で検出された土坑である。平面は楕円形を呈し、坑底は平坦に作られている。覆土中から剥片が出土している。性格は不明である

遺物　掲載遺物なし

時期　不明　（皆川）

P-34（図Ⅱ-27、表V-2・3）

位置　m 49，n 49　**規模**　0.84×（0.82）／0.90×（0.84）／0.24 m

特徴　標高14 m付近で検出された土坑で、一部が攪乱によって失われている。平面は不整の円形を呈すと考えられ、坑底は平坦に作られている。掘り込みは浅いが形態的にはフラスコ状を呈している。性格は不明である。

遺物　掲載遺物なし

時期　不明　（皆川）

P-35（図Ⅱ-27、表V-2・3・7、図版16・33）

位置　y 46，w 46，y 47，w 47　**規模**　1.54×1.24／1.32×0.94／0.16 m

特徴　標高13～14 m付近で検出された土坑である。平面は不整の楕円形で、掘り込みは浅く壁は緩やかに立ち上がっている。覆土は単層で充填されており埋め戻された可能性がある。坑底からはつまみ付ナイフ2点が出土しており副葬品と考えられることから墓の可能性が強い。P-34と近い位置にあるが関係性は不明である。

遺物　1・2は副葬品と考えられるつまみ付ナイフである。北海道では縄文時代早期後半の東釧路系土器に伴うものである。ほぼ未使用と考えられる。

時期　遺物から縄文時代早期後半の東釧路系土器の時期と考えられる。　（皆川）

P-36（図Ⅱ-27、表V-2・3・6、図版16・33）

位置　W 46，W 47　**規模**　0.40×0.40／0.15×0.13／0.30 m

確認・調査　調査範囲南西側の平坦部に位置する。包含層調査中、Ⅱ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。半截して土層確認を行っている最中に、土器がまとまって検出された。壁の立ち上がりと坑底面を確認した。壁は緩やかに立ち上がる。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は、覆土の堆積状況からⅡ～Ⅳ層と考えられる。

遺物出土状況　覆土中からⅢ群b類土器174点出土した。

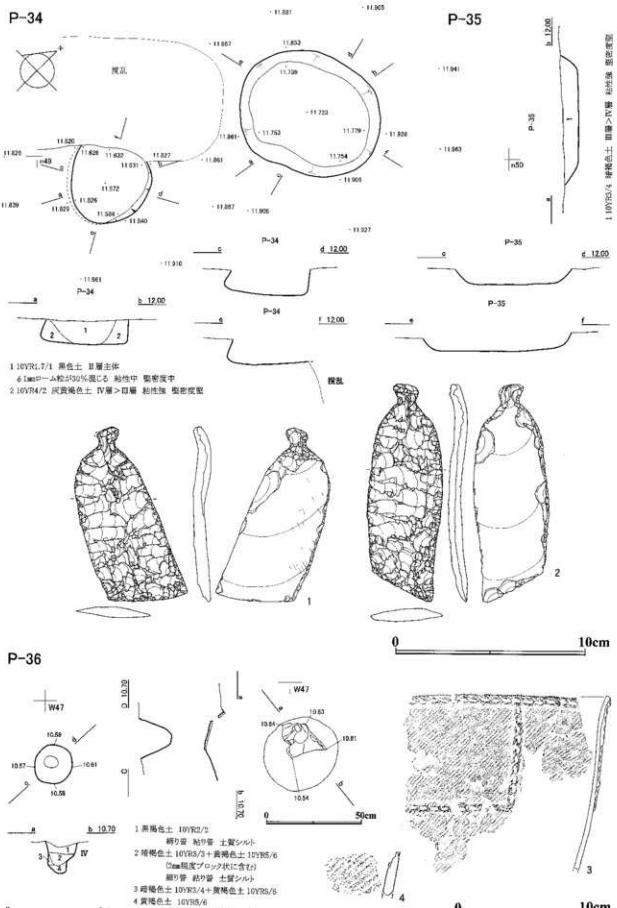
遺物　3・4はⅢ群b類土器である。3は大型深鉢形土器の口縁～胴部の破片で、貼付帯上に斜めの連続した刺突文が施されている。4は胴部片で、どちらも地紋には多縄縄文が施されている。

時期　出土遺物および周辺の遺物状況からみて、縄文時代中期後半の可能性がある。　（奥山、皆川）

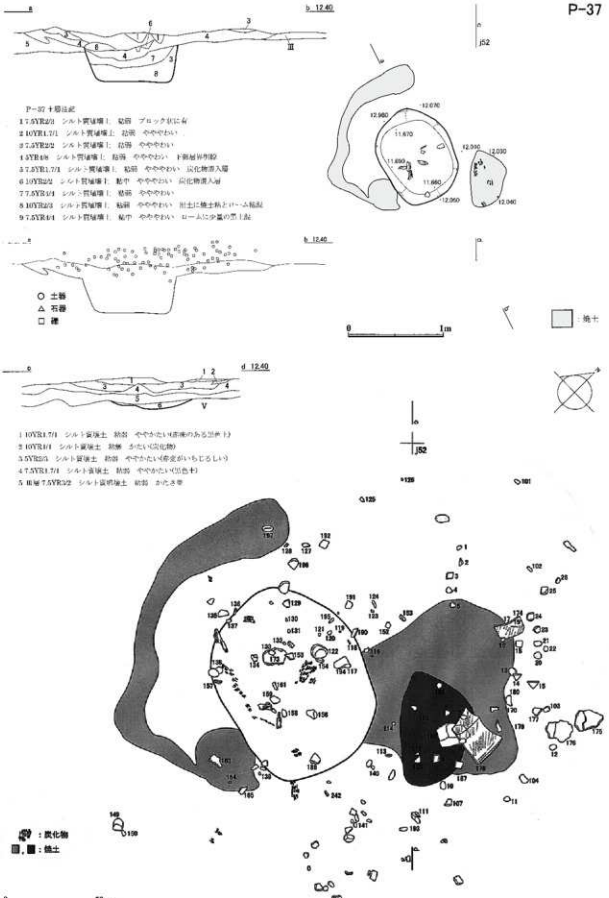
P-37（図Ⅱ-28・29、表V-2・3・6・7、図版17・34）

位置　j 51　**規模**　1.02×0.8／0.78×0.64／0.34 m

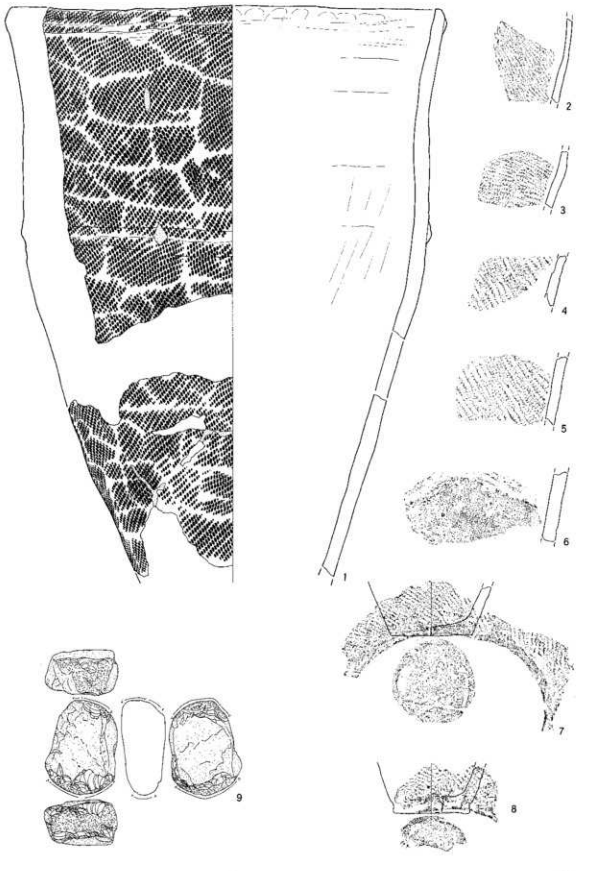
特徴　標高13～14 mの緩斜面上で検出された土坑である。平面は不整の楕円形あるいは隅丸長方形を呈し、掘り込みは比較的深く壁は急激に立ち上がっている。土坑の上位層には図示したような範囲でP-37と関連すると考えられる焼土と炭化物、遺物が検出されている。焼土は濃淡を有して広がっており、遺物は複数個体のⅣ群a類土器と剥片、石斧、たたき石、礫などで、焼土の最も濃い部分と復元された土器片（図Ⅱ-29-1）の広がりが重なることから、これらの広がりは意図したものと考



図Ⅱ-27 P-34・35・36


P-37 土層注記
1 7.5YR2/1 シルト質埴壌土 粘弱 ブロック状に有
2 10YR1.7/1 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい
3 7.5YR2/2 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい
4 5YR4/6 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい 下部層界漸移
5 7.5YR1.7/1 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい 炭化物混入層
6 10YR2/2 シルト質埴壌土 粘中 ややかたい 炭化物混入層
7 7.5YR4/4 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい
8 10YR2/3 シルト質埴壌土 粘弱 ややかたい 粒土に焼土粒ホロホロ粘混
9 7.5YR4/4 シルト質埴壌土 粘中 ややかたい ローム粒少量の混土
○ 土器
△ 石器
□ 礫
1 10YR1.7/1 シルト質埴土 粘弱 ややかたい(炭化物のある部分)
2 10YR4/4 シルト質埴土 粘弱 ふたい(炭化物)
3 5YR3/3 シルト質埴土 粘弱 ややかたい(赤色がいちじるしい)
4 7.5YR1.7/1 シルト質埴土 粘弱 ややかたい(黒色土)
5 III層 7.5YR5/2 シルト質埴壌土 粘弱 ふたさ有
:炭化物
:焼土
0 50cm
0 1m

図Ⅱ-28 P-37



図Ⅱ-29 P-37の遺物

えられる。何らかの儀礼的なものの可能性がある。土坑自体の性格は不明である。

遺物　1～8はⅣ群a類土器である。1は復元された大型の深鉢形土器である。平縁で口縁部と胴部に横環するバンド状の粘土紐が貼付されている。器面とバンド上には斜行縄文が施されている。接合する底部は見当たらなかった。2～5は斜行縄文の施された胴部、6は底部に近い胴部、7・8は底部である。9は掌な楕円礫の上下端を主に使い込んだたたき石である。

時期　上層で検出されたⅣ群a類土器から縄文時代後期前葉と考えられる。（皆川）

P-38（図Ⅱ-30、表Ⅴ-2・3、図版18・33）

位置　g 58　　**規模**　0.86×0.64／0.64×0.52／0.38 m

特徴　標高14～15 mの緩斜面上で検出された小型の土坑である。平面は不整の楕円形を呈し、掘り込みは比較的深く壁は真っ直ぐに立ち上がっている。性格は不明である。P-38～40はいずれも近い位置関係にあることから関連する可能性がある。

遺物　掲載遺物無し

時期　不明　（皆川）

P-39（図Ⅱ-30、表Ⅴ-2・3、図版18）

位置　f 59　　**規模**　0.70×0.64／0.44×0.52／0.20 m

特徴　標高14～15 mの緩斜面上で検出された小型の土坑である。平面は円形を呈し、掘り込みは浅く壁は緩やかに立ち上がっている。性格は不明である。P-38～40はいずれも近い位置関係にあることから関連する可能性がある。

遺物　掲載遺物無し

時期　不明　（皆川）

P-40（図Ⅱ-30、表Ⅴ-2・3、図版18）

位置　f 59、f 60、g 59、g 60　　**規模**　1.20×0.96／1.14×0.86／0.40 m

特徴　標高14～15 mの緩斜面上で検出された土坑である。平面は不整の円形を呈し、掘り込み深く坑底は平坦な面がしっかりと構築されている。壁は急激に立ち上がっている。性格は不明である。P-38～40はいずれも近い位置関係にあることから関連する可能性がある。性格は不明である。

遺物　掲載遺物無し

時期　不明　（皆川）

P-41　（図Ⅱ-30、表Ⅴ-2・3・6、図版18・34）

位置　j 53　　**規模**　2.08×1.82／1.86×1.54／0.22 m

特徴　標高14 m付近の緩斜面上で検出された比較的大型の土坑である。平面は不整の隅丸正方形を呈し、掘り込みは浅いものの坑底にはしっかりとした平坦面が構築されて、壁は緩やかに立ち上がっている。性格は不明である。

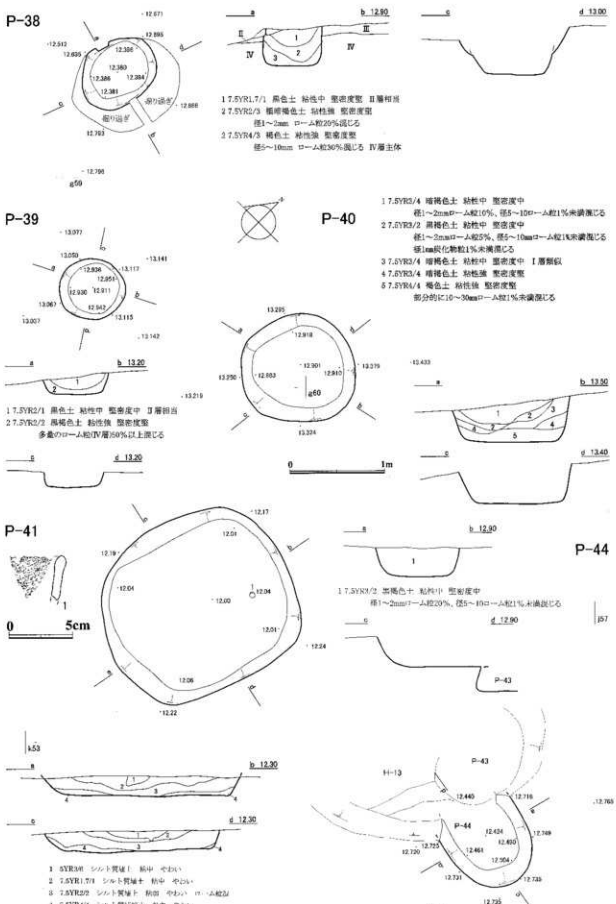
遺物　1は覆土から出土したⅣ群a類土器の無文の口縁部である。

時期　不明　（皆川）

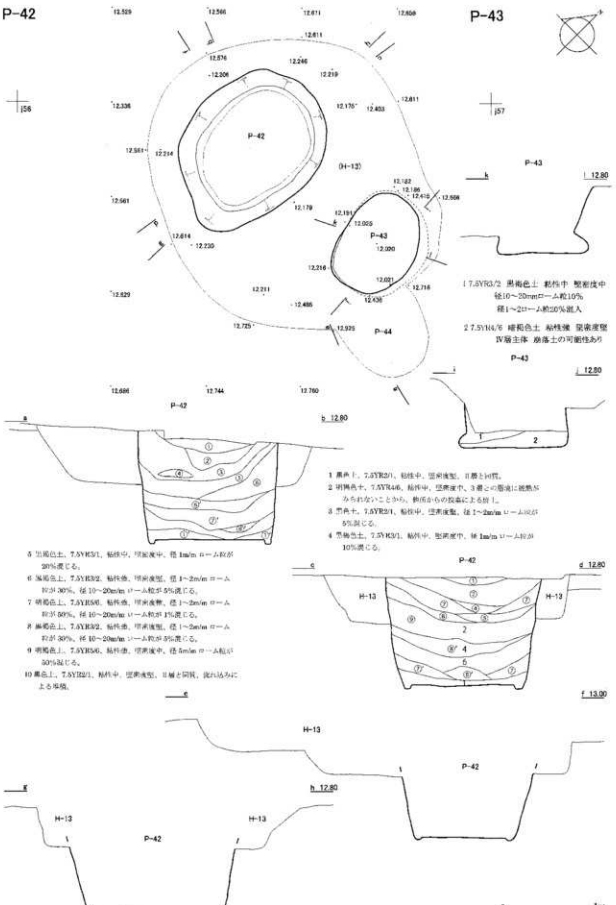
P-42（図Ⅱ-31、表Ⅴ-2・3、図版19）

位置　i 56、j 56　　**規模**　1.84×1.40／1.40×1.04／1.18 m

特徴　標高14～15 mの緩斜面上で検出されたH-13と重複する大型の土坑で、H-13がすっかり埋没した後に掘り込まれている。平面は不整形（あるいは不整の隅丸長方形）を呈し、掘り込みは非常に深く坑底は平坦な面がしっかりと構築されている。壁は急激に立ち上がっている。覆土は埋め戻された可能性が高く、坑底の壁に沿って周溝が検出されている。性格は不明であるが、大型であること、



図Ⅱ-30 P-38・39・40・41・44


P-42
P-43
P-42
P-43
P-44
(H-13)
H-13
1 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性中 堅密度中
径10～20mmローム粒10%
径1～2mmローム粒20%混入
2 7.5YR4/6 暗褐色土 粘性強 堅密度堅
IV層主体 崩落土の可能性あり
1 黒色土、7.5YR2/1、粘性中、堅密度堅、II層と同質。
2 明黄色土、7.5YR4/6、粘性中、堅密度中、3層との層境に被熱がみられないことから、物質からの投棄による層上。
3 黒色土、7.5YR2/1、粘性中、堅密度堅、径1～2mm/mローム粒が5%混じる。
4 黒褐色土、7.5YR3/1、粘性中、堅密度中、径1mm/mローム粒が10%混じる。
5 黒褐色土、7.5YR3/1、粘性中、堅密度中、径1mm/mローム粒が20%混じる。
6 黒褐色土、7.5YR3/2、粘性強、堅密度堅、径1～2mm/mローム粒が30%、径10～20mm/mローム粒が5%混じる。
7 明褐色土、7.5YR5/6、粘性強、堅密度中、径1～2mm/mローム粒が50%、径10～20mm/mローム粒が1%混じる。
8 暗褐色土、7.5YR3/2、粘性強、堅密度堅、径1～2mm/mローム粒が30%、径10～20mm/mローム粒が5%混じる。
9 明褐色土、7.5YR5/6、粘性強、堅密度中、径5mm/mローム粒が50%混じる。
10 黒色土、7.5YR2/1、粘性中、堅密度堅、II層と同質、流れ込みによる堆積。
0
1m

図Ⅱ-31　P-42・43

埋め戻された可能性があること、周溝があることなど非常に特徴的である。墓の可能性もある。また、近くにはP-43・44が位置しており、これらと関連する可能性がある。

遺物 掲載遺物なし。

時期 H-13を切って掘り込まれており縄文時代中期後半から後期前葉の可能性がある。 （皆川）

P-43（図Ⅱ-31、表Ⅴ-2・3、図版19）

位置 j 56 **規模** 1.12×0.80／1.14×0.90／0.42m

特徴 標高14～15mの緩斜面上で検出されたH-13と重複する大型の土坑で、H-13がすっかり埋没した後に掘り込まれている。平面は不整の楕円形を呈し、掘り込みは比較的深く坑底は平坦な面がしっかりと構築されている。断面形はフラスコ状を呈している。性格は不明である。近くにはP-42・44が位置しており、これらと関連する可能性がある。

遺物 掲載遺物なし。

時期 H-13を切って掘り込まれており縄文時代中期後半から後期前葉の可能性がある。 （皆川）

P-44（図Ⅱ-30、表Ⅴ-2・3、図版19）

位置 j 56 **規模** 0.90×（0.88）／0.74×（0.62）／0.28m

特徴 標高14～15mの緩斜面上で検出されたH-13と重複する土坑で、H-13との新旧は不明である。また、H-13との重複部が検出できず平面形の半分ほどが不明である。掘り込みは比較的深く坑底は平坦な面がしっかりと構築されている。壁は比較的急激に立ち上がっている。覆土は単層で埋め戻された可能性がある。性格は不明である。近くにはP-42・43が位置しており、これらと関連する可能性がある。

遺物 掲載遺物なし。

時期 縄文時代中期後半から後期前葉の可能性がある。 （皆川）

P-45 （図Ⅱ-32、表Ⅴ-2・3、図版20）

位置 Q 76, R 76 **規模** 0.56×0.50／0.32×0.40／0.48m

特徴 標高16～17mの緩斜面上で検出された小型の土坑である。平面は不整の円形を呈し、掘り込みは比較的深く坑底はほぼ認められない。性格は不明である。

遺物 掲載遺物なし。

時期 不明 （皆川）

P-46（図Ⅱ-32、表Ⅴ-2・3、図版20）

位置 P 76 **規模** 0.74×0.54／0.28×0.30／0.18m

特徴 標高17～18mの緩斜面上で検出された小型の土坑である。平面は不整の楕円形は呈し、掘り込みは浅く坑底は丸みを帯びている。性格は不明である。

遺物 掲載遺物なし。

時期 不明 （皆川）

P-47 （図Ⅱ-32、表Ⅴ-2・3、図版20・21）

位置 F 80 **規模** 1.54×0.86／1.36×0.64／0.28m

平面形態 隅丸方形

確認・調査 調査区北側の調査区境付近で検出した。Ⅴ層上面を精査中に黒褐色土の明瞭な落ち込みを確認した。土層の色調と落ち込みの輪郭の明瞭さから比較的新しい遺構であることは明らかであったが、平面形は丸みを帯びていたことから、人為的な掘り込みであることが予想された。

当初は電柱などの工事のための攪乱と判断して掘削していたが、同様な状況で検出されたP-48か

ら木製品が出土したため、本遺構も一連の遺構と判断し、途中から土層の記録のために長軸方向に半截することにした。Ⅴ層まで掘り下げた結果、平坦な坑底と急に立ち上がる壁を確認した。記録を作成した後、完掘して調査を終了した。

覆土　3層に分層している。黒色土と黄褐色土ブロックが混じる黒褐色土の堆積である。埋戻しとみられる。

時期　不明であるがP-48と一連のものとみられることから箱館戦争時の遺構の可能性がある。(立田)

P-48・49　(図Ⅱ-32～34、表Ⅴ-10・11、図版21・40・41)

位置　E 78

規模　P-48：1.90×1.04／1.40×0.62／0.54m　P-49：(0.68)×0.72／(0.64)×0.60／0.14m

平面形態　楕円形

確認・調査　調査区北側の調査区境付近で検出した。Ⅴ層上面を精査中に黒褐色土の明瞭な落ち込みを確認した。土層の色調と落ち込みの輪郭の明瞭さから比較的新しい遺構であることは明らかであったが、平面形は丸みを帯びていたことから、人為的な掘り込みであることが予想された。落ち込みは張り出しの小さな「T」字状をていしており、平面の観察から張り出しの部分は古い遺構であると判断した。大きく新しいのは本遺構、古い小さな張り出しはP-49とした。

長軸の南側を半截して掘り下げると、覆土の中位で木質物が出土した。詳細に観察すると、一部に加工の痕跡があることから、木製品の可能性があるものであった。そのほかの出土遺物がなく、時期の決定ができなかったが、ビニールや空き缶などの現代を示す物品の混入がないことから、土坑として調査を行うことにした。半截して土層の記録を作成した後、坑底付近の木質物を残して反対側を掘り下げた。出土遺物を記録して取り上げ、完掘した。

木質物は20点出土した。杭状の木製品1点、枝切痕5点、マッチの軸とみられる加工木片5点、切片が2点、そのほか自然木の破片とみられるもの7点である。杭状木製品1点は覆土5層からの出土であるが、その他は坑底ないし坑底直上の覆土7層とした層位からの出土であり、一括して埋められたものとみられる。枝切痕は同じ向きに揃えられており、銃弾はその下位から出土している。土坑には伏流水とみられる湧水があることから腐食を免れたとみられる。

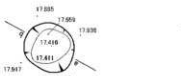
完掘の後、P-48より新しいP-49の調査を行った。長軸に沿って西側を半截した。平坦な坑底と急な壁を検出した。記録を作成して完掘した。遺物は出土していない。

覆土　P-48を7層、P-49を2層に分層した。黒色土と黄褐色土が混じる黒褐色土との互層の状況を呈する。埋戻しとみられる。3層以下には、泥炭状の植物遺体が混じる。

遺物　1は銃弾。先端が丸みを帯び、底面にくぼみのあるいわゆるブリッチェット弾。幕末期の前装式施条銃の銃弾である。鉛製。後端のみが変形しているが、先端に着弾時の変形がみられないことから未発射の可能性が高い。2～6はマッチの軸と推定される加工木片。長さ4.89～4.99、幅0.24～0.26、厚さ0.22～0.44cmでやや歪な角柱状である。2～5は一端に焼成による黒変部分が認められる。5、6について放射性炭素年代測定を行った。5は1,090±20yrBP、6は540±20yrBPの年代が得られた。7は先端を尖らせた杭状の加工木である。鋭い加工具で自然木が求心状に加工されている。8、9は加工時の切片と考えられる。10～14は切痕のある枝。出土層位は7が覆土5層からである。そのほかは銃弾も含め坑底直上の覆土7層～坑底の坑底付近の出土であり、これらは一括して埋められたものと想定される。10～14の枝は全てが切断側を西に、枝側を東に向け揃えて並べられており、意図的に配置された可能性がある。

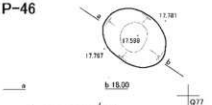
時期　不明であるが、坑底の出土遺物から、箱館戦争時の遺構の可能性がある。坑底直上の覆土7層

P-45



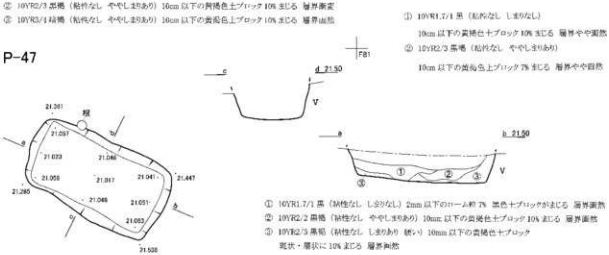
① 10YR2/2 黒褐（粘性なし ややしまりあり） 10cm 以下の黄橙色土ブロック 7% まじる 層界漸変
② 10YR2/3 黒褐（粘性なし ややしまりあり） 10cm 以下の黄橙色土ブロック 10% まじる 層界漸変
③ 10YR3/4 暗褐（粘性なし ややしまりあり） 10cm 以下の黄褐色土ブロック 10% まじる 層界画然

P-46



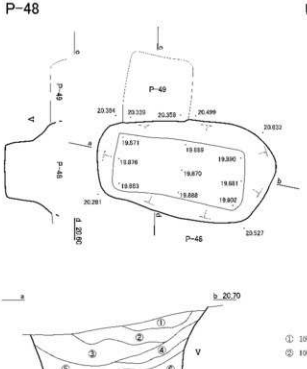
① 10YR1.7/1 黒（粘性なし しまりなし）
10cm 以下の黄橙色土ブロック 10% まじる 層界やや漸然
② 10YR2/3 黒褐（粘性なし ややしまりあり）
10cm 以下の黄褐色土ブロック 7% まじる 層界やや画然

P-47

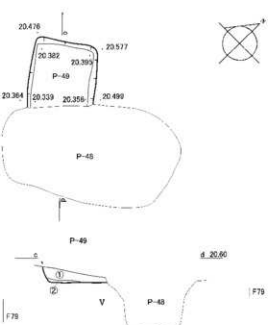


① 10YR1.7/1 黒（粘性なし しまりなし） 2mm 以下のローム粒 7% 黒色土ブロックがまじる 層界漸然
② 10YR2/2 黒褐（粘性なし ややしまりあり） 10mm 以下の黄褐色土ブロック 10% まじる 層界漸然
③ 10YR2/3 黒褐（粘性なし しまりあり 硬い） 10mm 以下の黄褐色土ブロック
斑状・層状に 10% まじる 層界画然

P-48



P-49

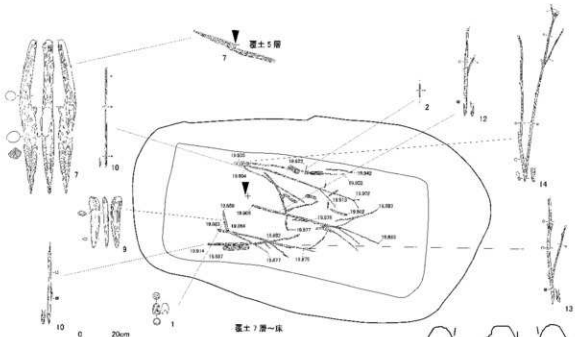


① 10YR1.7/1 黒（粘性なし しまりあり 硬い） 1mm 以下の黄褐色土粒 5% まじる 層界画然
② 10YR2/2 黒褐（粘性なし しまりあり 硬い） 50mm 以下の黄褐色土粒 10% まじる 層界画然

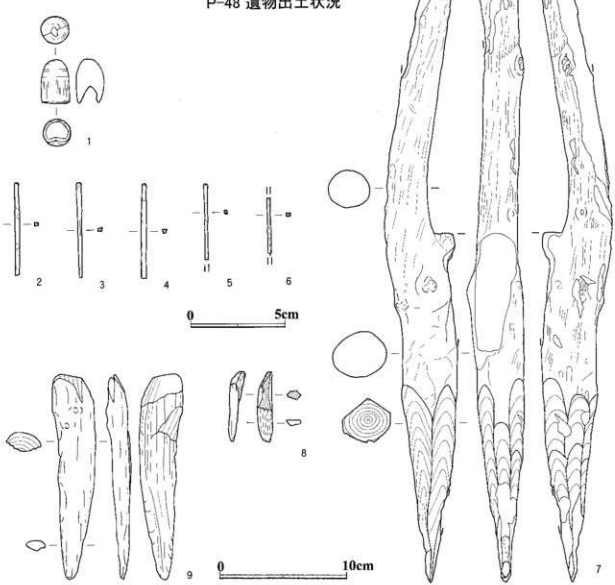
① 10YR3/3 暗褐（粘性なし しまりあり） 15cm 以下のV層色調 黒色土ブロック 3% まじる 層界画然
② 10YR1.7/1 黒（粘性なし しまりなし） 10cm 以下のV層色調 1% まじる 硬度にムラ有 層界やや漸然
③ 10YR1.7/1 黒（やや粘性あり しまりなし） 5cm 以下のV層ブロック 泥状の植物遺体を多くまじる 層界やや漸然
④ 10YR2/2 黒褐（粘性あり しまりなし） 10mm 以下のV層粒下 10% まじる ラミナ状 層界画然
⑤ 10YR1.7/1 黒（粘性あり しまりなし） V層粘土 泥状の植物遺体多くまじる ラミナ状 層界画然
⑥ 10YR2/2 黒褐（粘性あり しまりなし） V層中に暗褐色土がまじる 層界画然
⑦ 10YR1.7/1 黒（粘性あり しまりなし） 植物遺体多量にまじる 層界画然

0 1m

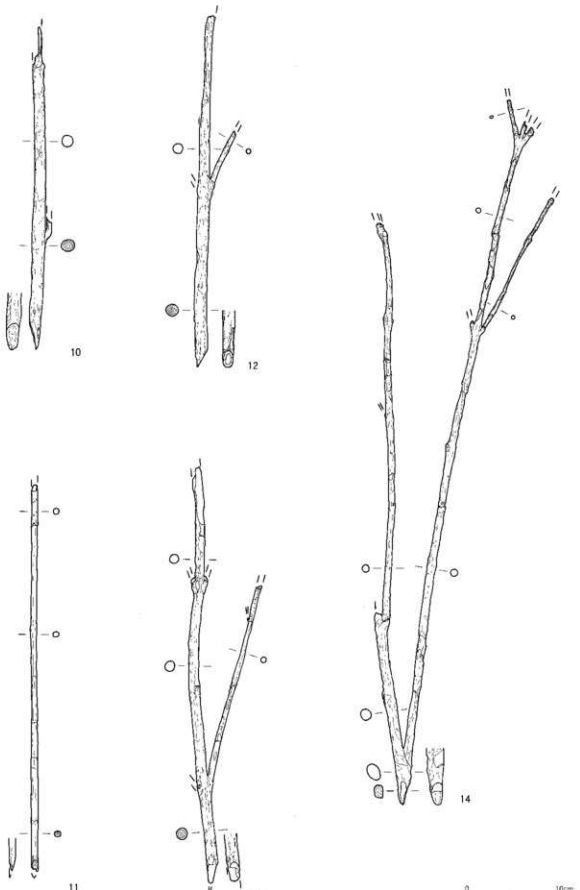
図Ⅱ-32 P-45・46・47・48・49



P-48 遺物出土状況



図Ⅱ-33　P-48の遺物



図Ⅱ-34　P-48の遺物(2)

から出土した、枝、葉、マッチ軸とみられる加工木片２点の計４点について、炭素年代測定を行った。枝は210±20yrBP.（IAAA-142037）葉は700±20yrBP.（IAAA-142038）マッチは1,090±20yrBP.（IAAA-142039）、540±20yrBP（IAAA-142040）の年代が得られた。ばらつきが多く年代の絞り込みは不可能であるが、太平洋戦争以後のものでないことは調査状況からも確実とみられる。（立田　理）

※マッチ軸木（図Ⅱ-33-２～６、表Ⅴ-11）には、先端部に焦げ跡が見られ、材質は針葉樹のモミ属であった。日本のマッチ軸製造では広葉樹のドロノキを現在料とし、苫小牧市周辺などが一大産地であった。また、フランス製マッチ軸等では頭薬部が小さく短く、日本産マッチでは頭薬がやや大きく長い特徴がある。

なお、日本製マッチはフランスに留学した清水誠が1876年（明治９年）に東京で安全マッチを製造したことに始まることから、出土マッチは、使用樹種や頭薬部の炭化状況から、それ以前のものと推測できる。（普及活用課　田口　尚）

３　Ｔピット（図Ⅱ-35、表Ⅴ-２・３・６・７、図版22）

TP-１～４の４基が検出された。

TP-１（図Ⅱ-35、表Ⅴ-２・３、図版22）

位置　ｕ58・59　　**規模**　2.58×0.50／2.65×0.24／0.70ｍ

特徴　標高13～14ｍの緩斜面上で検出された溝状の形態を有するＴピットである。比較的浅く、坑底には杭などは認められない。

遺物　掲載遺物なし。

時期　不明　（皆川）

TP-２（図Ⅱ-35、表Ⅴ-２・３、図版22）

位置　Ｈ85　　**規模**　1.28×0.48／1.20×0.20／0.30ｍ

特徴　標高23～24ｍの緩斜面上で検出された溝状の形態を有するＴピットである。極めて短く一部が撹乱で変形している。坑底には杭などは認められない。

遺物　掲載遺物なし。

時期　不明　（皆川）

TP-３（図Ⅱ-35、表Ⅴ-２・３、図版22）

位置　Ｈ82・83　　**規模**　2.88×0.52／2.96×0.20／1.02ｍ

特徴　標高22～23ｍの緩斜面上で検出された溝状の形態を有するＴピットである。この中では最も大型である。坑底には杭などは認められない。

遺物　掲載遺物なし。

時期　不明　（皆川）

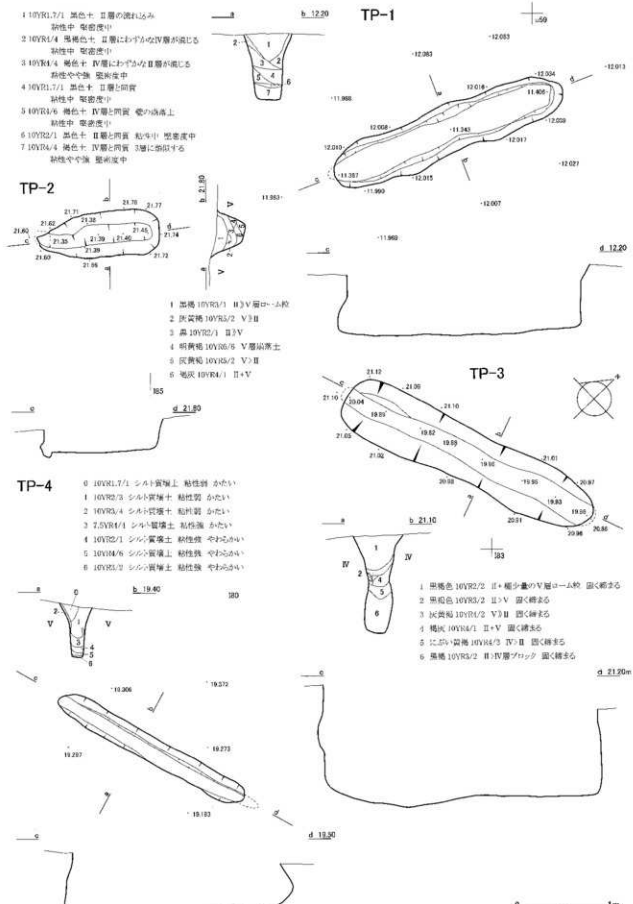
TP-４（図Ⅱ-35、表Ⅴ-２・３、図版22）

位置　Ｉ79・89　　**規模**　2.22×0.24／2.40×0.16／0.54ｍ

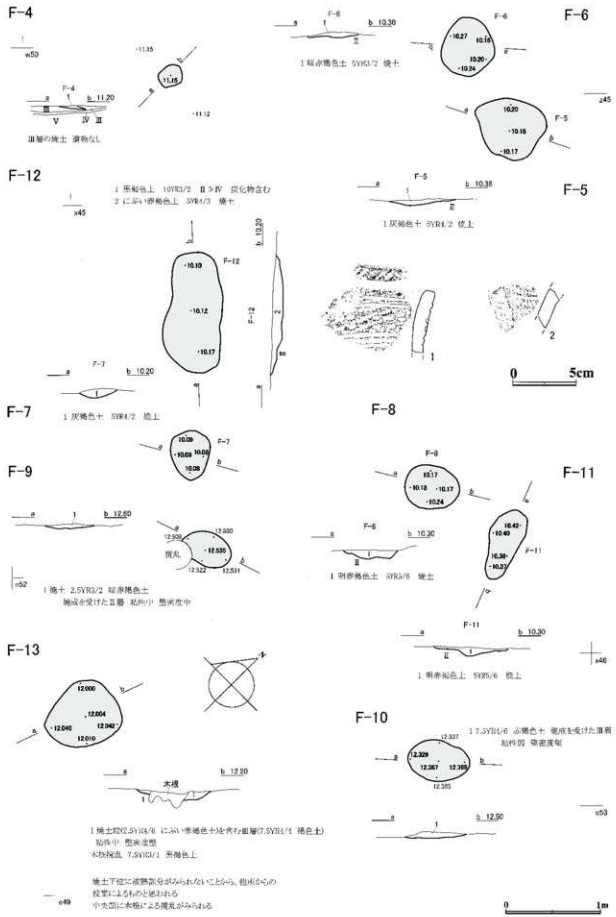
特徴　標高21ｍ付近の緩斜面上で検出された溝状の形態を有するＴピットである。この中では最も幅の狭いもので、坑底には杭などは認められない。

遺物　掲載遺物なし。

時期　不明　（皆川）


TP-1
TP-2
TP-3
TP-4
1 10YR1.7/1 黒色土 Ⅱ層の流れ込み
粘性中 緊密度中
2 10YR4/4 黒褐色土 Ⅱ層にわずかなⅣ層が流じる
粘性中 緊密度中
3 10YR4/4 褐色土 Ⅳ層にわずかなⅡ層が流じる
粘性やや強 緊密度中
4 10YR1.7/1 黒色土 Ⅱ層と同質
粘性中 緊密度中
5 10YR4/6 褐色土 Ⅳ層と同質 壁の崩落土
粘性中 緊密度中
6 10YR2/1 黒色土 Ⅱ層と同質 粘性中 緊密度中
7 10YR4/4 褐色土 Ⅳ層と同質 3層に崩落する
粘性やや強 緊密度中
1 黒褐 10YR3/1 Ⅱ>Ⅴ層ローム粒
2 灰黄褐 10YR5/2 Ⅴ>Ⅱ
3 黒 10YR2/1 Ⅱ>Ⅴ
4 明黄褐 10YR6/6 Ⅴ層崩落土
5 灰黄褐 10YR5/2 Ⅴ>Ⅱ
6 褐灰 10YR4/1 Ⅱ+Ⅴ
0 10YR1.7/1 シルト質壌土 粘性弱 かたい
1 10YR2/3 シルト質壌土 粘性弱 かたい
2 10YR3/4 シルト質壌土 粘性弱 かたい
3 7.5YR4/4 シルト質壌土 粘性強 かたい
4 10YR2/1 シルト質壌土 粘性強 やわらかい
5 10YR4/6 シルト質壌土 粘性強 やわらかい
6 10YR5/2 シルト質壌土 粘性強 やわらかい
1 黒褐色 10YR2/2 Ⅱ+極少量のⅤ層ローム粒 固く締まる
2 黒褐色 10YR3/2 Ⅱ>Ⅴ 固く締まる
3 灰黄褐 10YR4/2 Ⅴ>Ⅱ 固く締まる
4 褐灰 10YR4/1 Ⅱ+Ⅴ 固く締まる
5 にぶい黄褐 10YR4/3 Ⅳ>Ⅱ 固く締まる
6 黒褐 10YR3/2 Ⅱ>Ⅳ層ブロック 固く締まる
0
1m

図Ⅱ-35 TP-1・2・3・4



図Ⅱ-36 F-4・5・6・7・8・9・10・11・12・13

4 焼土（図Ⅱ-36～41、表Ⅴ-2・3・6・7、図版34）

F-4～34の31か所が検出されている。

F-4（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 w 50 **規模** 0.26×0.22／0.06 m

特徴 標高12～13 mの緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅲ層中で検出された。

時期 不明 （皆川）

F-5（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 z 44 **規模** 0.74×0.60／0.06 m

特徴 H-3住居跡から約5 m西側のⅡ層で検出した。平面形は不整円形。層厚は約6cm。焼成は漸移的ではなく、廃棄されたものと考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代中期後半と考えられる。 （佐藤）

F-6（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 y 44 **規模** 0.62×0.56／0.06 m

特徴 H-3住居跡から約6 m西側のⅡ層で検出した。平面形は不整円形。層厚は約6cm。焼成は漸移的ではなく、廃棄されたものと考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代中期後半と考えられる。 （佐藤）

F-7（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 y 45 **規模** 0.54×0.42／0.10 m

特徴 H-7住居跡のⅡ層で検出した。平面形は不明。
断面形はレンズ状で、層厚は約10cm。焼成は漸移的ではなく、廃棄されたものと考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代中期後半と考えられる。 （佐藤）

F-8（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 w 45 **規模** 0.58×0.46／0.10 m

特徴 H-7住居跡のⅡ層で検出した。平面形は楕円形。層厚は約10cm。焼成は漸移的ではなく、廃棄されたものと考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代中期後半と考えられる。 （佐藤）

F-9（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 m 52 **規模** 0.52×0.36／0.04 m

特徴 標高14 m付近の緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅱ層中で検出された。

時期 不明 （皆川）

F-10（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 n 52 **規模** 0.66×0.44／0.06 m

特徴 標高14 m付近の緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅲ層中で検出された。平面は不整の楕円形を呈する。近くにはP-33が位置している。

時期 不明 （皆川）

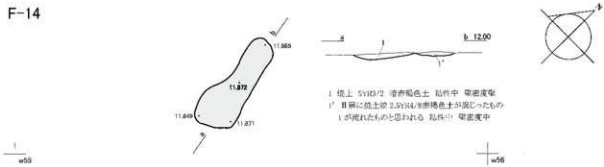
F-11（図Ⅱ-36、表Ⅴ-2・3）

位置 n 45 **規模** 0.78×0.36／0.10 m

特徴 H-7住居跡近くのⅡ層で検出した。平面形は不整楕円。層厚は約10cm。焼成は漸移的ではなく、廃棄されたものと考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代前期後半と考えられる。 （佐藤）

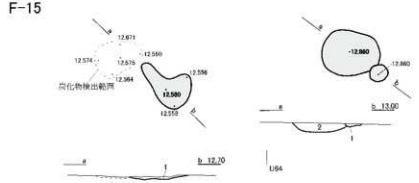
F-14



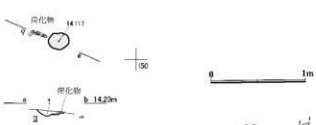
F-17

F-18

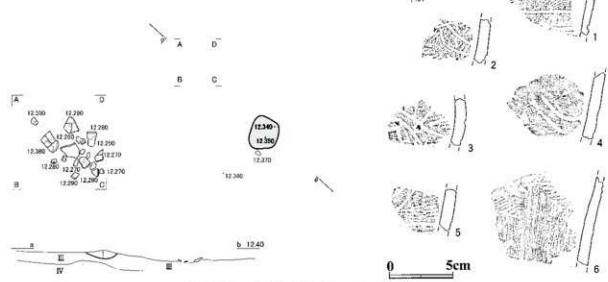
F-15



F-19



F-16



図II-37 F-14・15・16・17・18・19

F-12（図Ⅱ-36、表V-2・3・6、図版34）

位置 x 45　**規模** 1.28×0.22／0.10m

特徴 H-7住居跡のⅡ層で検出した。平面形は不整楕円。層厚は約10cm。焼成は漸移的で、上部に炭化物の層がある。この場で焼成されたものと考えられる。

遺物 1・2はⅢ群b類土器の口縁部と胴部片である。1は角形の口唇断面を有するもので平行沈線文と刺突文列が器面に施され、地紋の斜行縄文は口唇部にも施されている。H-9のHF-1に配されていた土器口縁部（図Ⅱ-15-1）と同一固体と考えられる。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代中期後半と考えられる。（佐藤、皆川）

F-13（図Ⅱ-36、表V-2・3）

位置 n 52　**規模** 0.80×0.64／0.10m

特徴 標高14m付近の緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅲ層中で検出された。平面は不整の楕円形を呈する。近くにはP-33が位置している。

時期 不明（皆川）

F-14（図Ⅱ-37、表V-2・3）

位置 n 52　**規模** 1.10×0.44／0.06m

特徴 標高13～14m付近の緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅱ層中で検出された。平面は南北に延びた不整の長楕円形を呈する。

時期 不明（皆川）

F-15（図Ⅱ-37、表V-2・3）

位置 n 52　**規模** 0.60×0.40／0.02m

特徴 標高14mの緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅱ層中で検出された。平面は不整形を呈する。西側には炭化物の範囲が検出されている。

時期 不明（皆川）

F-16（図Ⅱ-37、表V-2・3・6、図版34）

位置 i 50　**規模** 0.36×0.34／0.08m

特徴 標高13～14mの緩斜面で検出された極小規模な焼土である。Ⅲ層で検出された。平面は不整形を呈する。西側の同じレベルからは土器片の集中が検出されている。

遺物 1～5はⅣ群a類の同一個体の土器片である。沈線文と細い無節の原体による縄文が施されている。底部に近い6の器面には器面の調整と考えられる縦位の条痕も認められる。

時期 付近の土器から縄文時代後期前葉の可能性がある。（皆川）

F-17（図Ⅱ-37、表V-2・3）

位置 h 55・56　**規模** 0.62×0.48／0.10m

特徴 標高13～14mの緩斜面で検出された小規模な焼土である。平面は不整形を呈する。直ぐ東側の同じレベルからは炭化物の集中が検出されている。

時期 不明（皆川）

F-18（図Ⅱ-37、表V-2・3）

位置 w 56　**規模** 0.76×0.68／0.12m

特徴 標高13～14mの緩斜面で検出された一部が欠失した焼土である。Ⅱ層で検出され、平面は不整の長楕円形と推測される。

時期 不明（皆川）

F-19（図Ⅱ-37、表Ⅴ-2・3）

位置　k 49　　**規模**　0.22×0.18／0.06 m

特徴　標高14 m付近の緩斜面で検出された小規模な焼土である。平面は不整の円形を呈する。直ぐ西側の同じレベルからは炭化物の集中が検出されている。

時期　不明　（皆川）

F-20（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　r 65　　**規模**　0.64×0.38／0.10 m

特徴　標高14～15 m付近で検出された小規模な焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。南西側2 mにFL-31が検出されており関連する可能性がある。

時期　不明　（皆川）

F-21（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　r 62　　**規模**　0.52×0.40／0.06 m

特徴　標高12 m付近で検出された小規模な焼土である。Ⅲ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。北～北西側に隣接してFL-30が検出されており関連する可能性がある。

時期　縄文時代の可能性がある。　（皆川）

F-22（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　R 63　　**規模**　0.94×0.66／0.12 m

特徴　標高12 m付近で検出された焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。

時期　縄文時代の可能性がある。　（皆川）

F-23（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　R 63・64　　**規模**　0.92×0.68／0.16 m

特徴　標高12 m付近で検出された焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。この場で生成された可能性がある。

時期　縄文時代の可能性がある。　（皆川）

F-24（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　R 63・64　　**規模**　0.50×0.34／0.06 m

特徴　標高18 m付近で検出された小型の焼土である。Ⅲ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。

時期　不明　（皆川）

F-25（図Ⅱ-38、表Ⅴ-2・3）

位置　Q 67　　**規模**　0.96×0.82／0.20 m

特徴　標高13～14 m付近で検出された焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。

時期　縄文時代の可能性がある。　（皆川）

F-26（図Ⅱ-39、表Ⅴ-2・3）

位置　N 70　　**規模**　1.30×0.80／—m

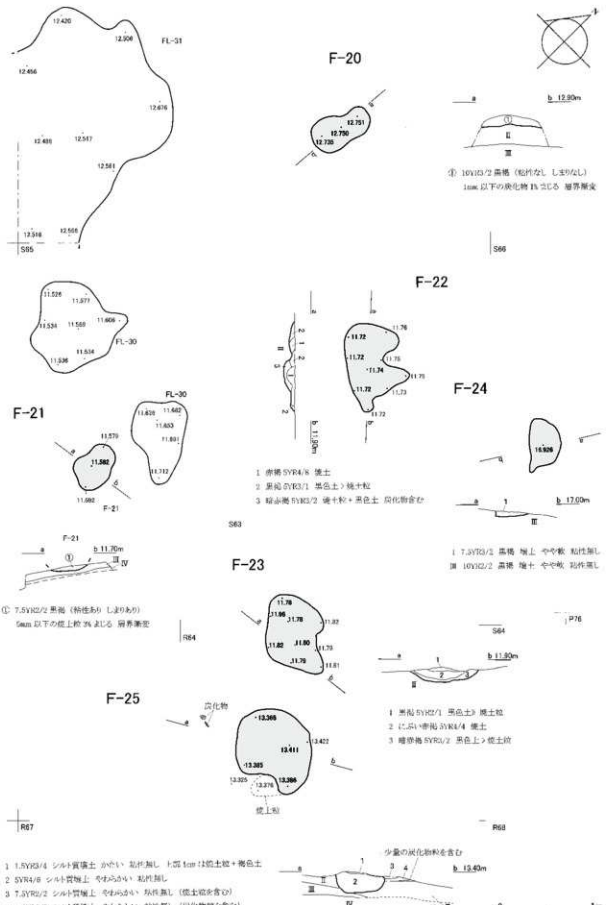
特徴　標高15 m付近で検出された焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。F-27と並んで検出されている。

時期　不明。　（皆川）

F-27（図Ⅱ-39、表Ⅴ-2・3）

位置　N 70　　**規模**　2.30×1.04／—m

特徴　標高15 m付近で検出された大型の焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈す



図Ⅱ-38　F-20・21・22・23・24・25

る。F-26と並んで検出されている。
時期　不明。　（皆川）

F-28（図Ⅱ-39、表Ⅴ-2・3）
位置　Q 72　　**規模**　0.44×0.38／0.08 m
特徴　標高16m付近で検出された小型の焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。
時期　不明。　（皆川）

F-29（図Ⅱ-39、表Ⅴ-2・3）
位置　O 70・71　　**規模**　2.97×1.38／0.12 m
特徴　標高21 m付近で検出された大型の焼土である。Ⅲ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。人為的なものではない可能性がある。
時期　不明。　（皆川）

F-30（図Ⅱ-39、表Ⅴ-2・3）
位置　L 88　　**規模**　0.96×0.50／0.34 m
特徴　標高21 m付近で検出された小型の焼土である。Ⅲ～Ⅳ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。攪乱を受けており人為的なものではない可能性がある。
時期　不明。　（皆川）

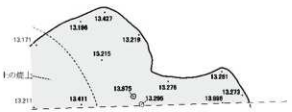
F-31（図Ⅱ-40、表Ⅴ-2・3・6、図版34）
位置　H 69・70　　**規模**　6.86×1.12／0.36 m
特徴　標高15～16 m付近で検出された南南西-北北東に長く伸びる大型の焼土である。Ⅱ～Ⅲ層で検出されたもので平面は不整形を呈する。複数の剥片集中の範囲と重複し関連すると考えられる。
遺物　1は沈線文が施されたⅢ群b類土器である。
時期　縄文時代中期後半の可能性が考えられる。　（皆川）

F-32（図Ⅱ-41、表Ⅴ-2・3）
位置　K 80　　**規模**　0.66×0.54／0.18 m
特徴　標高20～21 m付近で検出された焼土である。Ⅱ層で検出されたもので平面は不整の楕円形を呈する。
時期　縄文時代。　（皆川）

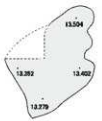
F-33（図Ⅱ-41、表Ⅴ-2・3）
位置　L 88　　**規模**　2.76×1.00／0.20 m
特徴　標高17～18 m付近の斜面で検出された比較的大型の焼土である。平面は不整形を呈する。人為的なものではない可能性がある。
時期　不明。　（皆川）

F-34（図Ⅱ-41、表Ⅴ-2・3）
位置　E 69、D 69・70　　**規模**　1.10×0.64／0.10 m
特徴　標高18 m付近の斜面で検出された焼土である。平面は不整形を呈する。人為的なものではない可能性がある。
時期　不明。　（皆川）

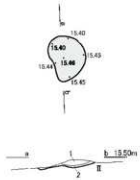
F-27



F-26

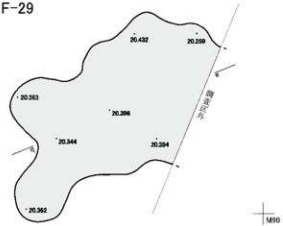


F-28

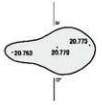


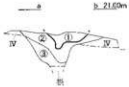
1 赤褐 5YR4/6 壁土 炭化物
2 暗赤褐 5YR3/2 Ⅱ層も主 炭化物

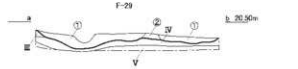
F-29



F-30





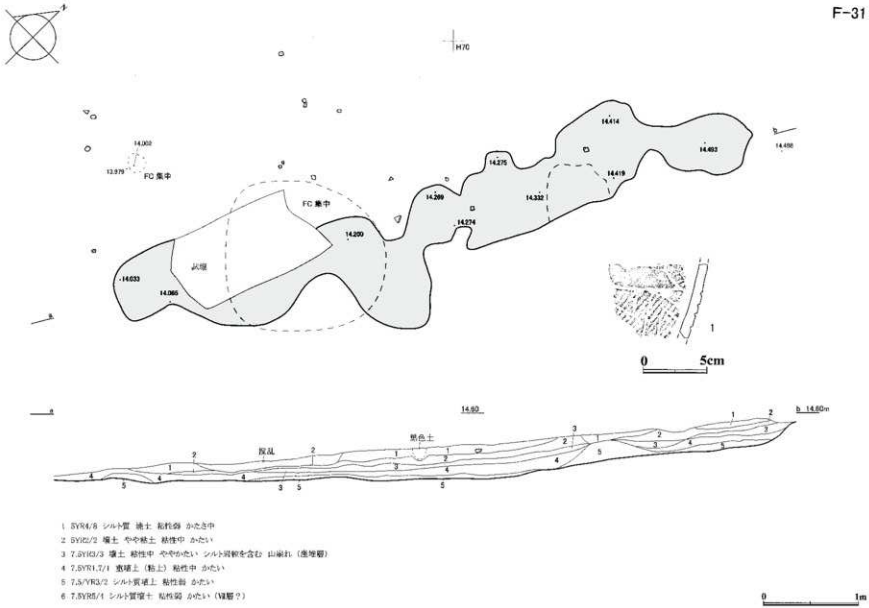


② 5YR2/2 黒褐（やや粘性あり ややしまりあり）1mm 以下の炭化物 1% 以下まじる 層界漸変
② 7.5YR2/2 黒褐（やや粘性あり しまりなし）Ⅱ層の粒子 3% 含むいも 層界漸変

① 5YR3/2 暗赤褐（粘性なし しまりあり（硬い）5mm 以下の炭・骨片 3% まじる 層界漸変
② 10YR2/3 黒褐（粘性なし しまりあり（硬い）5cm 以下のローム粒 2% まじる 層界漸変
③ 10YR2/3 黒褐（粘性なし しまりあり（硬い）10cm 以下のローム粒 7% まじる 層界やや漸変

0 1m

図Ⅱ-39 F-26・27・28・29・30

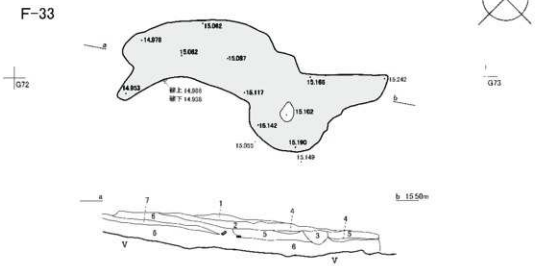


1 5YR4/8 シルト質 埴土 粘性弱 かたさ中
2 5YR2/2 壌土 やや粘土 粘性中 かたい
3 7.5YR3/3 壌土 粘性中 ややかたい シルト同粒を含む 山崩れ（焦地層）
4 7.5YR1.7/1 重埴土（粘土）粘性中 かたい
5 7.5/YR3/2 シルト質埴土 粘性弱 かたい
6 7.5YR5/1 シルト質壌土 粘性弱 かたい（Ⅷ層？）

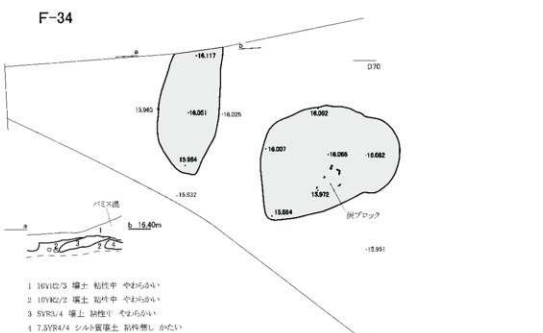
図Ⅱ-40 F-31

F-32

F-33



F-34



図Ⅱ-41 F-32・33・34

5　剥片集中（図Ⅱ-42～51、表Ⅴ-2・3・6・7、図版23・24・34～40）

FL-17～31の15か所が検出された。全て頁岩の剥片である。

FL-17（図Ⅱ-42、表Ⅴ-2・3、図版23）

位置　u 56　　**規模**　0.72×0.36 m

特徴　標高13～14 m付近の緩斜面で検出された小規模な剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので平面は不整形を呈する。剥片52点が検出されている。

遺物　掲載遺物なし

時期　縄文時代早期～前期の可能性がある。　（皆川）

FL-18（図Ⅱ-42、表Ⅴ-2・3・7、図版23・34）

位置　u 56　　**規模**　3.12×1.10 m

特徴　標高13～14 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。南東側の範囲は未検出である。Ⅱ層中で検出されたもので、つまみ付ナイフ1点、スクレイパー2点、両面調整石器1点、剥片502点が検出されている。

遺物　1は厚みのある縦長剥片を使用した尖頭部を有するつまみ付ナイフである。縄文時代前期前半のものと考えられる。2は両面調整石器あるいは剥片石核、3・4はスクレイパーである。

時期　縄文時代前期前半と考えられる。　（皆川）

FL-19（図Ⅱ-44、表Ⅴ-2・3・7、図版23・35）

位置　v 61・62　　**規模**　1.80×1.18 m

特徴　標高14 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので、両面調整石器1点、剥片861点が検出されている。

遺物　1は厚味のある縦長剥片を使用した両面調整石器で上半部が欠損している。

時期　縄文時代前期の可能性がある。　（皆川）

FL-20（図Ⅱ-43、表Ⅴ-2・3・7、図版35）

位置　t 61・62　　**規模**　3.70×1.50 m

特徴　標高14 m付近の緩斜面で検出された規模の大きな剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので、つまみ付ナイフ2点、スクレイパー3点、両面調整石器2点、Rフレイク1点、Uフレイク1点、剥片2,716点、たたき石1点、礫2点が検出されている。

遺物　1は小型のつまみ付ナイフで縄文時代早期後葉のものと考えられる。2はRフレイク、3～5はスクレイパー、6は両面調整石器である。7は小型のたたき石である。

時期　縄文時代早期後葉の可能性がある。　（皆川）

FL-21（図Ⅱ-44・45、表Ⅴ-2・3・7、図版23・35）

位置　u 58・59　　**規模**　5.04×2.60 m

特徴　標高13～14 m付近の緩斜面で検出された規模の大きな剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので、部分的に攪乱を受けている。石槍1点、スクレイパー2点、両面調整石器3点、Rフレイク1点、Uフレイク1点、剥片4,564点、たたき石1点、礫2点が検出されている。

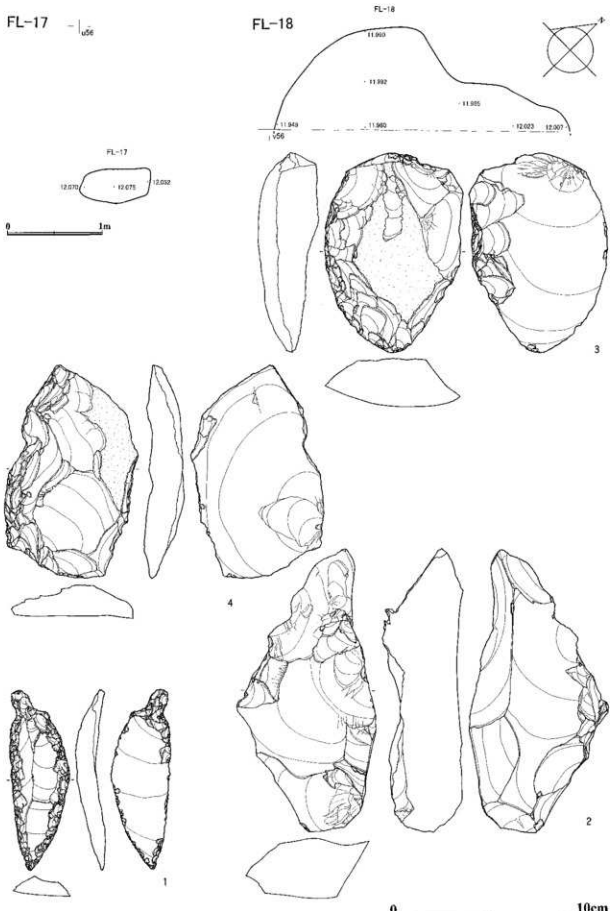
遺物　1は石槍の尖頭部、2～4は両面調整石器、5・6はスクレイパーである。7は小型のたたき石である。

時期　縄文時代前期前半の可能性が考えられる。　（皆川）

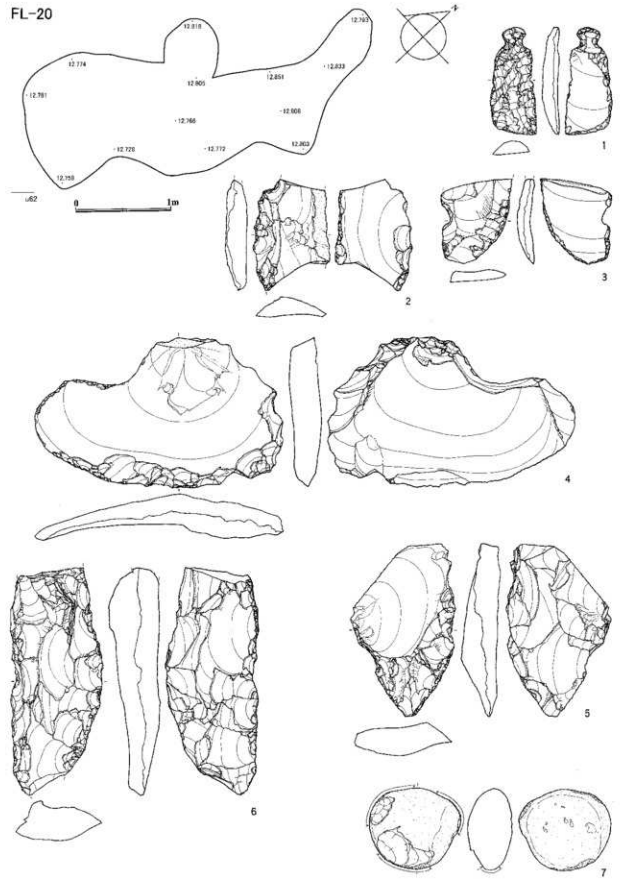
FL-22（図Ⅱ-46、表Ⅴ-2・3・7、図版23・36）

位置　v 56　　**規模**　1.62×0.98 m

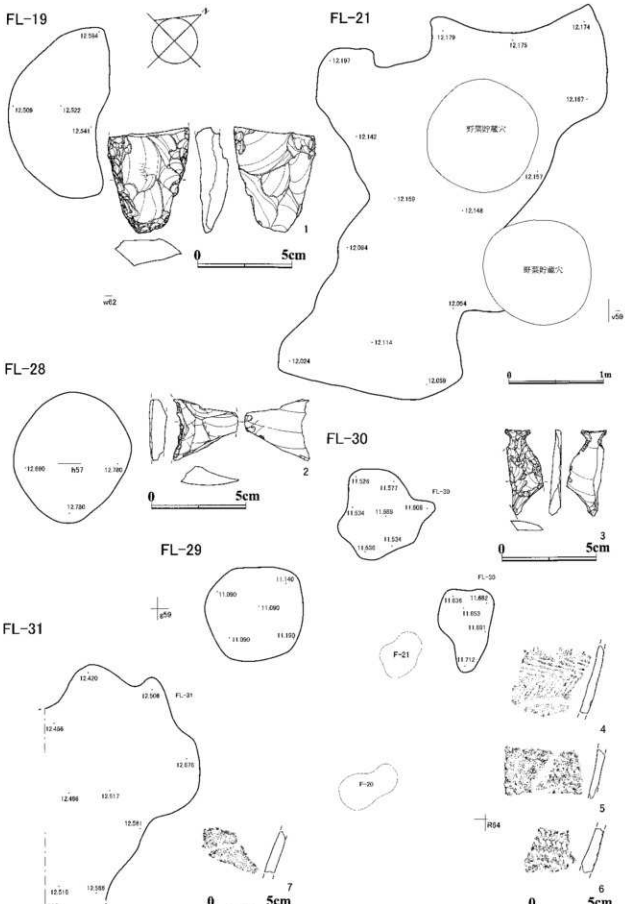
特徴　標高13～14 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので、部分



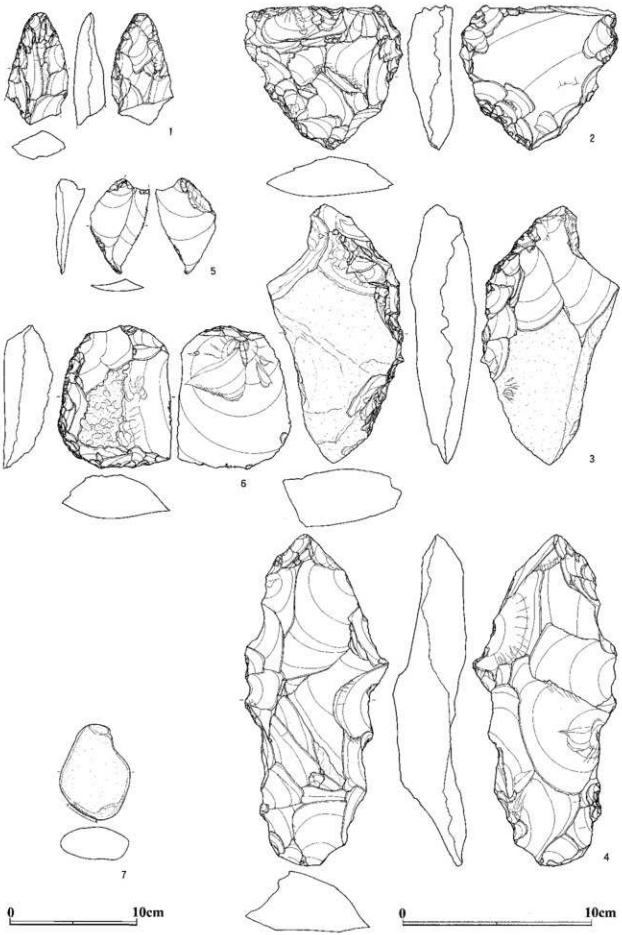
図Ⅱ-42 FL-17・18


FL-20
12.818
12.793
12.774
12.833
12.851
12.905
12.781
12.808
12.766
12.803
12.720
12.772
12.758
0
1m
1
2
3
4
5
6
7
0
10cm
0
10cm

図Ⅱ-43 FL-20

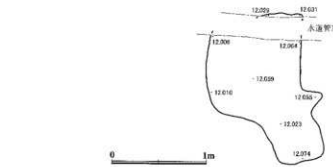


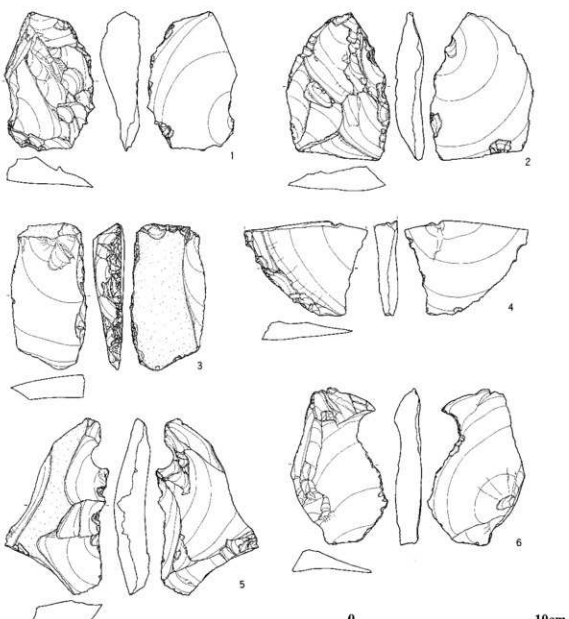
図Ⅱ-44 FL-19・21・28・29・30・31



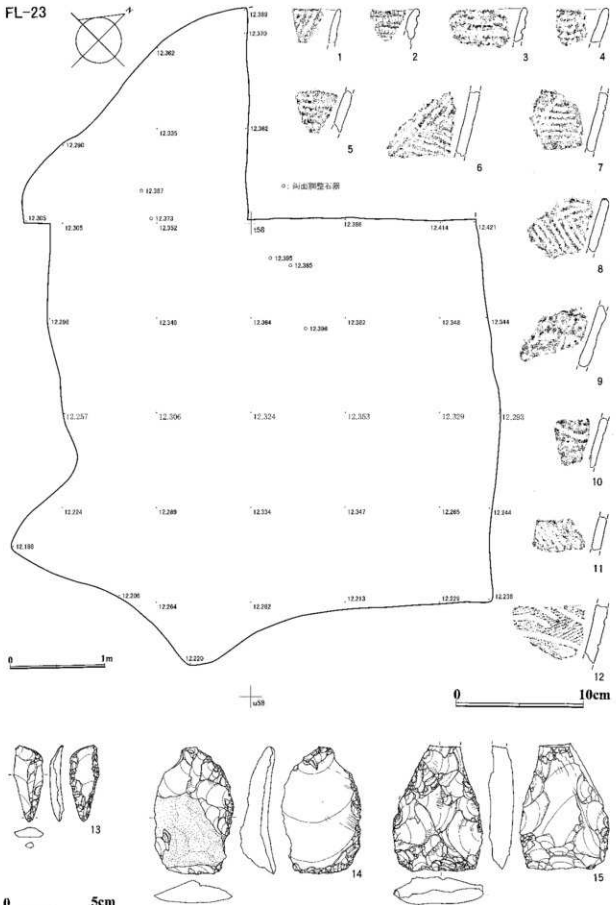
図Ⅱ-45　FL-21の遺物

FL-22

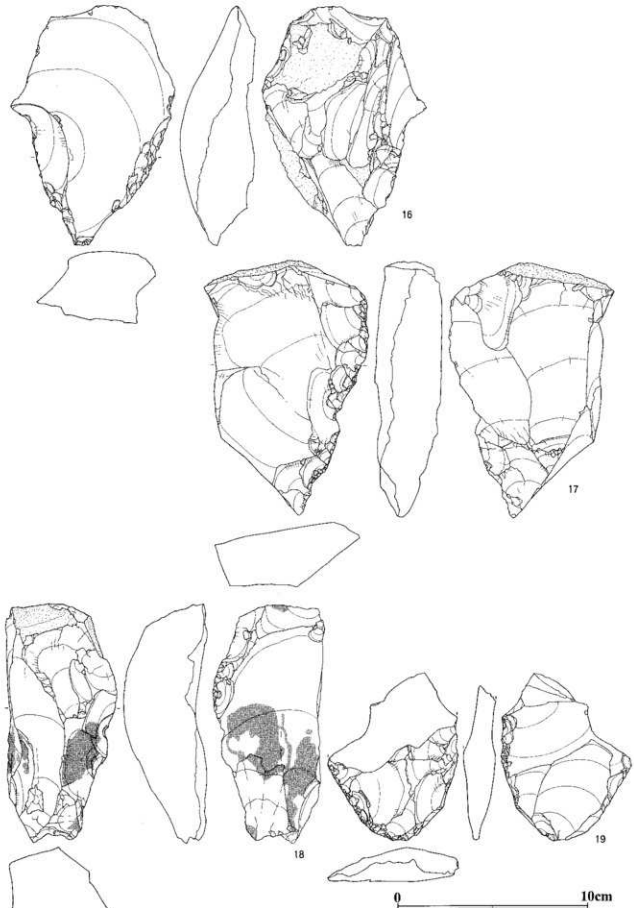




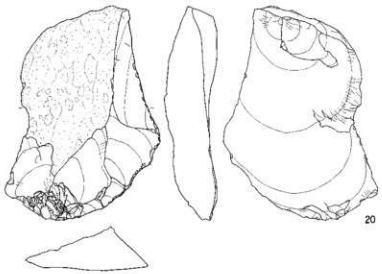
図Ⅱ-46 FL-22

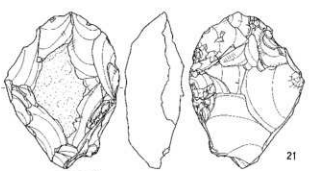


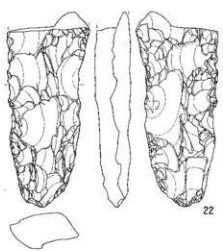
図Ⅱ-47　FL-23と遺物

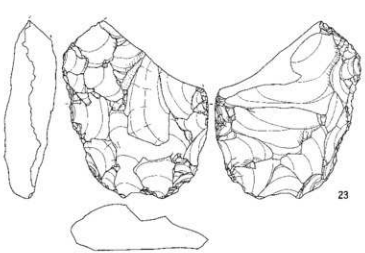


図Ⅱ-48 FL-23の遺物(2)



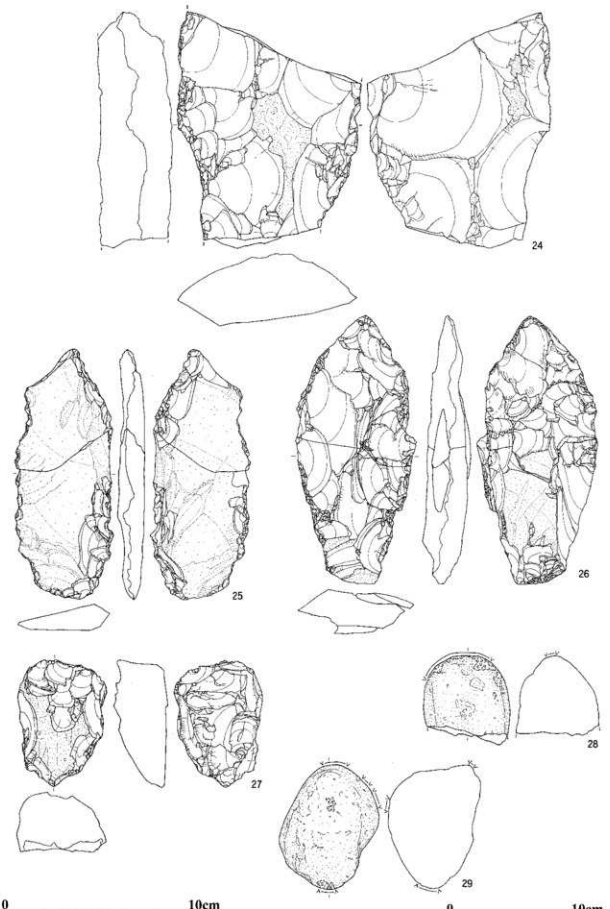




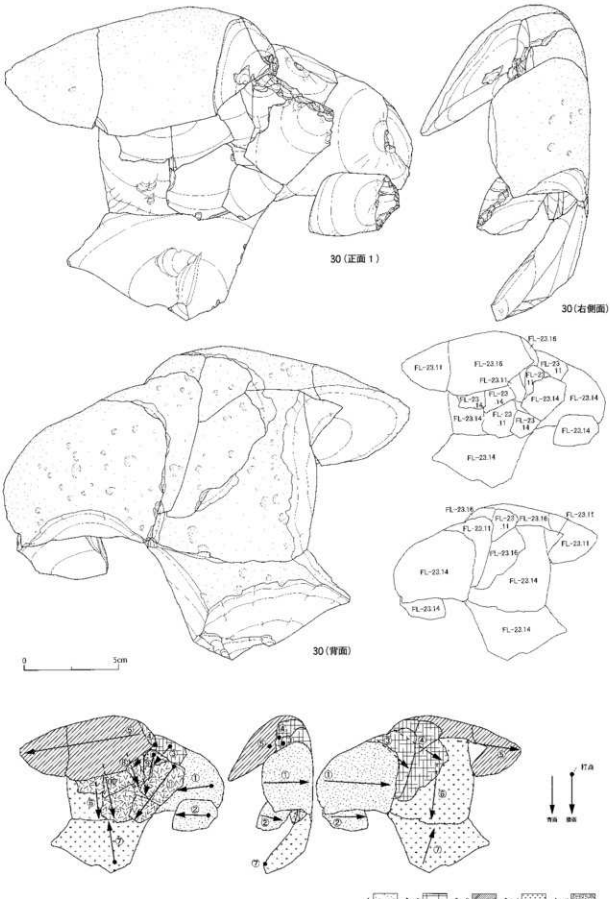


0 10cm

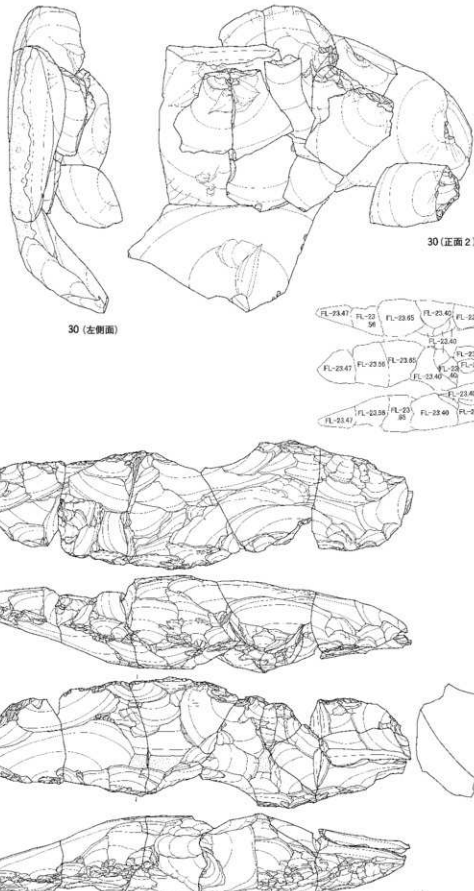
図Ⅱ-49 FL-23の遺物(3)



図Ⅱ-50 FL-23の遺物(4)



図Ⅱ-51　FL-23の遺物（５）



図Ⅱ-52 FL-23の遺物（６）

的に攪乱を受けている。スクレイパー４点、Rフレイク２点、Uフレイク１点、剥片2,017点、礫１点が検出されている。

遺物　１～４はスクレイパー、５がRフレイク、６がUフレイクである。

時期　縄文時代前期前半の可能性が考えられる。　（皆川）

FL-23（図Ⅱ-47～52、表Ⅴ-２・３・６・７、図版23・36～39）

位置　ｓ57・58、ｔ57・58　　**規模**　6.92×5.08ｍ

特徴　標高13～14ｍ付近の緩斜面で検出された大規模な剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので、一部検出に至らなかった部分がある。石槍１点、両面調整石器15点、石錐１点、スクレイパー11点、Rフレイク６点、Uフレイク４点、剥片15,033点、石核５点、たたき石２点、打製石器１点、礫・礫片11点が検出されている。また、同範囲からはⅡ群ａ類土器225点も検出されている。

フレイクなどの遺物類と供に出土した炭化物に関してはサンプリングし放射性炭素年代の測定を行っている（Ⅳ-１、10：IAAA-122257）。その結果、暦年校正年代（１σ）で436～536calBCの値が示されたが、これは想定される年代に対し大幅に新しい。

遺物　１～11はⅡ群ａ類土器である。１～３は口縁部で、２・３には半裁竹管の丸い側を連続して押しつけた文様が横位に施されている。１・４～11の器面には太い原体による羽状の縄文が施されている。12はⅣ群ａ類土器の胴部片である。13は石錐、14～20はスクレイパー、21～26は両面調整石器で25と26は各接合している。27はRフレイクもしくは石核、28・29はたたき石である。30、31は接合資料である。30は円礫状の原石から剥片を採取した様子が分かる資料で、接合する両面調整石器は認められないことから持ち出された可能性がある。31は両面調整石器で複数の破片からなる。30とは違う個体である。

時期　Ⅱ群ａ類土器から縄文時代前期前半と考えられる。　（皆川）

FL-24（図Ⅱ-53、表Ⅴ-２・３・７、図版24・37）

位置　ｑ59・60　　**規模**　3.88×2.28ｍ

特徴　標高14ｍ付近の緩斜面で検出された比較的大きな規模の剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。両面調整石器２点、スクレイパー２点、剥片2,717点が検出されている。

遺物　１は両面調整石器、２・３はスクレイパーである。

時期　縄文時代前期前半の可能性がある。　（皆川）

FL-25（図Ⅱ-53、表Ⅴ-２・３、図版24）

位置　ｋ52　　**規模**　0.86×0.76ｍ

特徴　標高14ｍ付近の緩斜面で検出された小規模な剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。剥片175点が検出されている。

遺物　掲載遺物なし

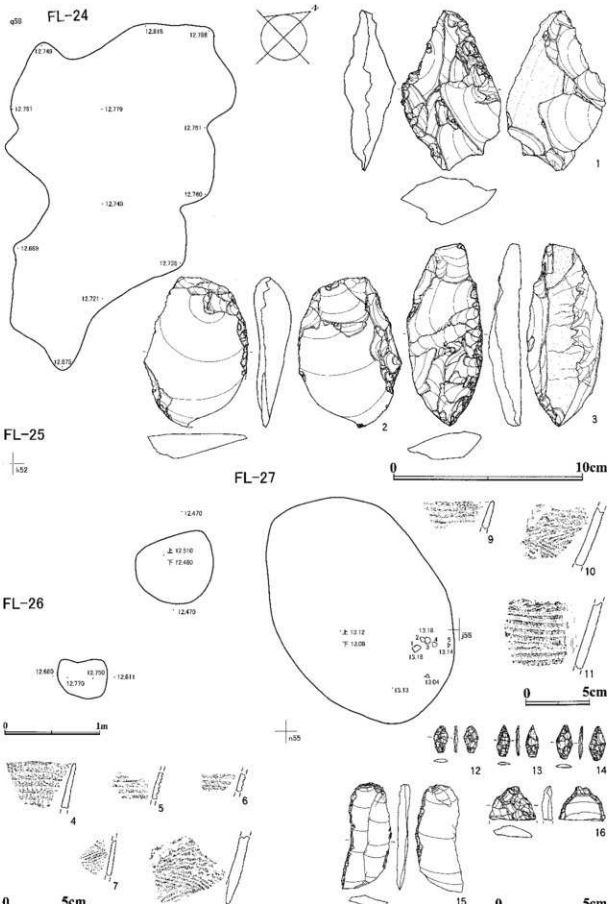
時期　縄文時代前期前半の可能性がある。　（皆川）

FL-26（図Ⅱ-53、表Ⅴ-２・３・６、図版40）

位置　ｍ54　　**規模**　0.56×0.46ｍ

特徴　標高14ｍ付近の緩斜面で検出された小規模な剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。剥片87点が検出され、同範囲からはⅠ群ｂ-４類土器が44点出土している。

遺物　４～８はⅠ群ｂ-４類土器で、４が口縁部、５～７が胴部、８が底部近くの胴部片である。４は折り返した縄文原体の端部を連続して押捺している。５～８には自縄自巻の原体による撚糸文風の文様が施されている。８には綾絡文も認められる。



図Ⅱ-53 FL-24・25・26・27

時期　縄文時代早期後葉のⅠ群b-4類土器の時期と考えられる。（皆川）

FL-27（図Ⅱ-53、表Ⅴ-2・3・6・7、図版40）

位置　i 57・j 57　　**規模**　3.48×1.76 m

特徴　標高14～15 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。石鏃3点、スクレイパー2点、剥片2,011点、礫・礫片19点が検出されている。同範囲内からはⅠ群b-4類土器27点も出土している。

遺物　9～11はⅠ群b-4類土器で、9が口縁部、10・11が胴部片である。9は折り返した縄文原体の端部を連続して押捺している。同じ文様と綾絡文が11の器面にも施されている。10には綾絡文と自縄自巻の原体による撚糸文風の文様が施されている。12～14は黒曜石製の五角形鏃でⅠ群b-4類土器に伴う物である。15・16は頁岩製のスクレイパーである。

時期　縄文時代早期後葉のⅠ群b-4類土器の時期と考えられる。（皆川）

FL-28（図Ⅱ-44、表Ⅴ-2・3・7、図版35）

位置　g 56・57、h 56・57　　**規模**　1.40×1.20 m

特徴　標高14 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。スクレイパー片1点、剥片482点が検出されている。

遺物　2は頁岩製のスクレイパー片である。

時期　縄文時代早期後葉～前期前半の可能性がある。（皆川）

FL-29（図Ⅱ-44、表Ⅴ-2・3）

位置　f 59、g 59　　**規模**　1.10×1.04 m

特徴　標高15 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。剥片373点、が検出されている。

遺物　掲載遺物無し。

時期　縄文時代早期後葉～前期前半の可能性がある。（皆川）

FL-30（図Ⅱ-44、表Ⅴ-2・3・6・7、図版24・35）

位置　Q 63・64　　**規模**　0.94×0.98 m　0.90×0.56 m

特徴　標高12 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出された。つまみ付ナイフ1点、石核1点、剥片20点、礫15点が検出されている。同範囲内からはⅠ群b-4類土器77点も出土している。

遺物　3は破損したつまみ付ナイフ、4～6はⅠ群b-4類土器である。4は自縄自巻の原体による撚糸文風の文様が施された胴部片、5・6は底部に近い胴部で折り返した縄文原体の端部の押捺文が施されている。

時期　縄文時代早期後葉のⅠ群b-4類土器の時期と考えられる。（皆川）

FL-31（図Ⅱ-44、表Ⅴ-2・3・6、図版24・35）

位置　r 65　　**規模**　2.64×1.80 m

特徴　標高14～15 m付近の緩斜面で検出された剥片集中である。Ⅱ層中で検出されたもので一部が未検出である。剥片721点、礫24点が検出されている。同範囲内からは土器3点も出土している。

遺物　7は無文の胴部片である。

時期　縄文時代早期後葉～前期前半の可能性がある。（皆川）

Ⅲ 遺　物

1　土器（図Ⅲ-1～5・17～20、表Ⅲ-4・8、図版42～46）

土器はⅠ群b-4類、Ⅱ群a・b類、Ⅲ群b類、Ⅳ群a類、Ⅴ群c類、Ⅵ群、Ⅶ群が出土している。この中ではⅣ群a類の沈線文が施されたものが最も多く、竪穴式住居跡に伴うものが多かったⅢ群b類がそれに次ぐ。その他は出土量が少ない。

Ⅰ群b-4類（1～4）：（図Ⅲ-1、表Ⅲ-4・8、図版42）

自縄自巻の原体による撚糸文風の羽状縄文が施されたものである。1は口縁に近い胴部で、器面の上位に折り返した原体のループ状になった部分を押捺している。4は丸底の底部に1と同様の押捺文を同心円状に施している。

Ⅱ群a類（5～9）：（図Ⅲ-1、表Ⅲ-4・8、図版42）

5～8は胎土に繊維と砂粒が混和された土器で、器面には半裁竹管状の施文具を使った短い間隔で連続的に押引した文様が施されている。7には斜行縄文も施されている。8の施文具には先端がやや幅広で扁平気味の物が使われている。9は口唇断面が角形で器壁の厚い平縁の口縁部で、器面には同一の原体の施文方向を変えて重複させた縄文が施されている。胎土の繊維も混入量が多い。

Ⅱ群b類（10～14）：（図Ⅲ-1、表Ⅲ-4・8、図版42）

10～12は器壁が厚く胎土に繊維が多く混入された土器である。1、2は地紋に反撚の原体による縄文が施されたもので、10が口縁部、11が頸部に横環する大柄な貼付帯を有する口縁近くの胴部である。12は胴部片で器面には三段複節の縄文が施されている。13は口唇の外側に刻みが施された口縁部で、14は器面に横位の刺突列が施された底部である。13，14はⅢ群b類の可能性もある。

Ⅲ群b類（15～59）：（図Ⅲ-1・2、表Ⅲ-4・8、図版42・43）

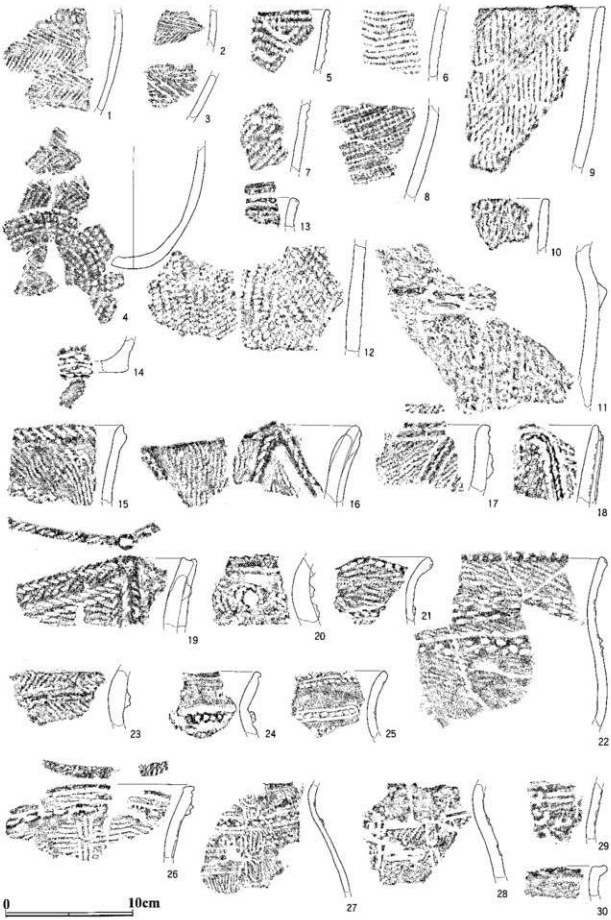
15は肥厚した口縁部の口唇上に縄の斜めの刻みが施された口縁部で、器面には斜行縄文と綾絡文が施されている。16～20、23は大柄な貼付帯と縄縁文が施されたもので、16～19が口縁部、20、23が頸部片である。17，19は口唇上にも縄文が施されている。21、22、24、26～28は低い貼付帯が施されたものである。21、22は口唇部などに斜めの刺突文が施されている。26～29には沈線文も施されている。25は刺突文と沈線文が施された口縁部、30は口唇の外側が大きくせり出した口縁部でこれはⅣ群の可能性がある。19、26は「滑石土器」である。31～36、38～43は口縁部周辺に縄縁文が複数本施されたものである。32、35、38、39は口唇上にも地紋が施されている。37、45～49は地紋だけの口縁部、50、51は無文の口縁部、52の口縁には円形刺突文が施されている。53～58は底部で、53、54の底面には地紋と同じ縄文が施されている。

Ⅳ群a類（59～119）：（図Ⅲ-2～5、表Ⅲ-4・8、図版43～46）

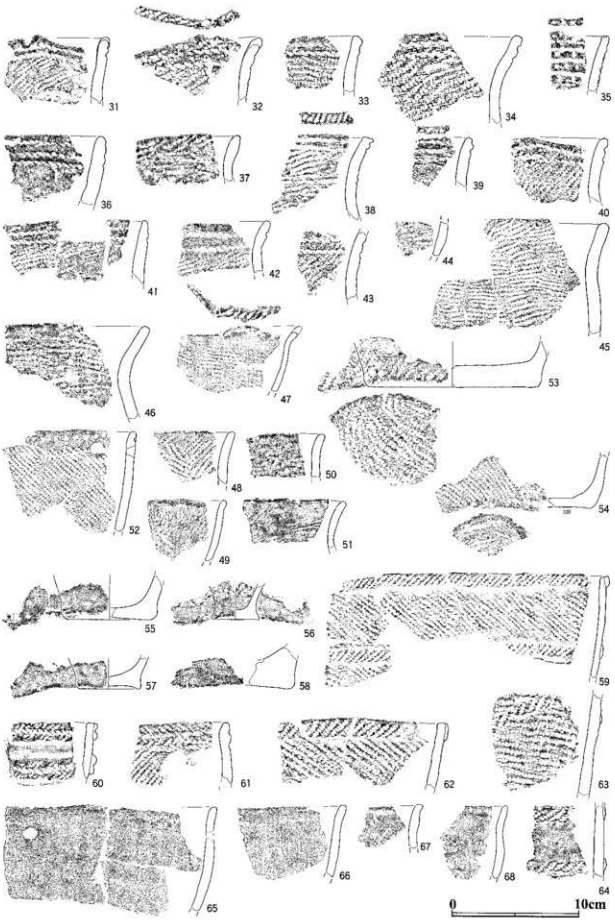
59～64は横環するバンド状の貼付帯を有する土器で、60、61の貼付帯上には縄縁文も施されている。65～69は無文の口縁部である。70～99、106～119は沈線文の施されたものである。70は小型の深鉢で器面と底面に沈線文が施されている。72、74は太い沈線文が施された口縁部である。78、79、81～84、87にはクランク状の沈線文が施されている。84は口縁の内面側にも地紋と沈線文が施されている。78、79、88は沈線文で区画された部分に擦痕が認められる。89～92、96、106～119は磨消縄文も施されている。101～105は沈線文が施される底部である。89、91、109～111は口唇部にも縄文が施されている。

Ⅴ群c類（120、121）：（図Ⅲ-5、表Ⅲ-4・8、図版46）

120は鉢形土器の口縁部である。小突起と刻みの施された口唇部を有し口縁直下は狭い無文帯と浅

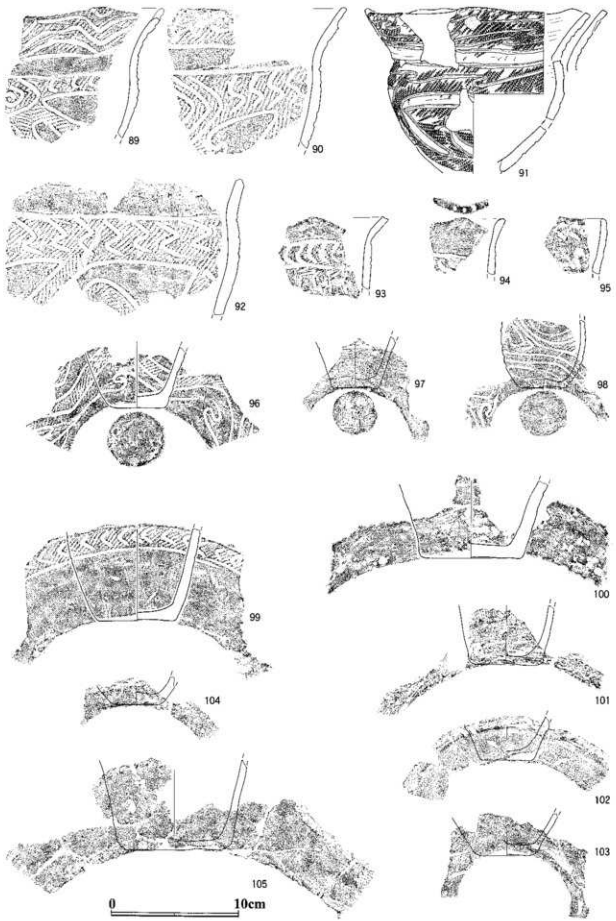

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
10cm

図Ⅲ-1　包含層の土器(1)

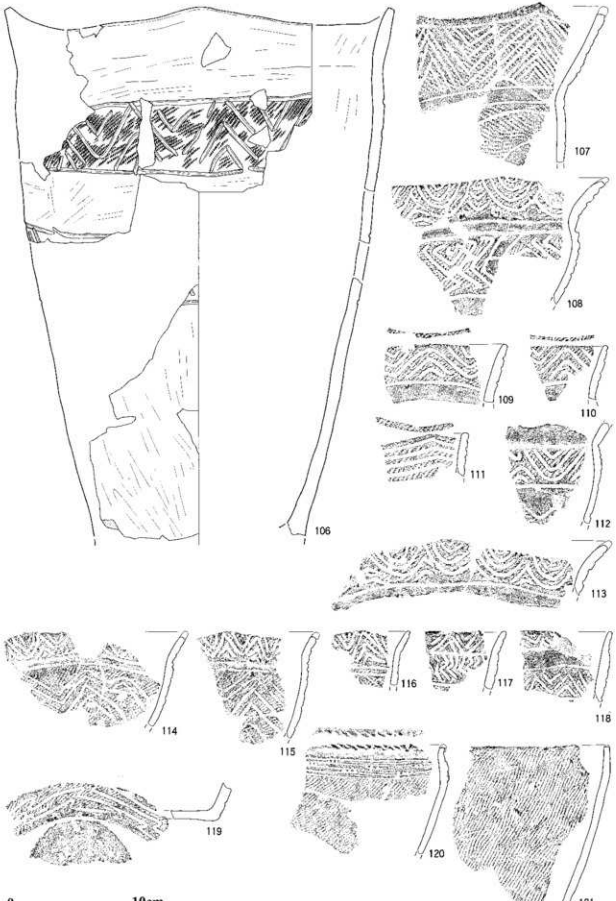

31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
53
48
50
52
49
51
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
65
66
67
68
64
0
10cm

図Ⅲ-2　包含層の土器（2）

図Ⅲ-3　包含層の土器(3)



図Ⅲ-4　包含層の土器(4)


106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
0
10cm

図Ⅲ-5　包含層の土器(5)

い並行沈線文が施されている。121は地紋の施された簡素な口縁部である。口唇の一部には刻みも施される。

Ⅵ、Ⅶ群は出土量が極めて少なく小破片で文様も不鮮明であることから掲載を見合わせた。（皆川）

2 石器（図Ⅲ-6～11・21～28、表Ⅲ-5・9、図版47～53）

有舌尖頭器（1）：（図Ⅲ-6、表Ⅲ-5・9、図版47）

1は尖頭部と舌部が欠失した有舌尖頭器である。舌部根元右側のかえし部分には若干の摩滅と光沢が認められる。

石槍・ナイフ・両面調整石器（2～9）：（図Ⅲ-6・7、表Ⅲ-5・9、図版47）

2は薄身のもので、左右非対称である。3は表面に凹凸が見られ、背面には主剥離面が残っている。未製品と考えられる。4は石鋸の可能性がある。6～9は未製品で縄文時代前期のものと考えられる。6～8は破損品を接合したもので、廃棄されたと考えられる。

石鏃（10～28）：（図Ⅲ-7、表Ⅲ-5・9、図版47）

10～12は、おおよそ五角形を呈する小形で薄身の石鏃で縄文時代早期後葉のものと考えられる。13～18は三角鏃で、13～16が平基、17、18が凹基である。19～26が有茎鏃、27、28が未製品である。使用された石材は11、13が黒曜石製で、その他は頁岩製である。

石錐（29～32）：（図Ⅲ-7、表Ⅲ-5・9、図版47）

29が全面に加工を施したもので、30～32は剥片の一部に最低限の加工を施して使用している。

つまみ付ナイフ（33～46）：（図Ⅲ-7・8、表Ⅲ-5・9、図版48）

33～45は縄文時代早期後葉、46は同前期の可能性が高い。33はメノウ製の非常に小さなつまみ付ナイフで非実用品と考えられる。34、35も小形のもので、これらも使用の痕跡が明瞭ではない。40、41は右側縁の刃部が良く使い込まれている。43の背面には明瞭な光沢が認められる。

箆状石器（47～49）：（図Ⅲ-8、表Ⅲ-5・9、図版48）

47、48が比較的大形のもの、49が小形のものである。48は両面加工、47、49は表面と背面の左右側縁に加工を加えている。

スクレイパー（50～78）：（図Ⅲ-8～10、表Ⅲ-5・9、図版48・49）

50～54は下端部に加工を施した削器である。55、56は両面に加工を施した小型のスクレイパーである。57～78は縦長剥片の一部に刃部を作出したものである。59、63、64、66、68、70、71、75は刃部の背面側に光沢が認められる。

Rフレイク（79～88）：（図Ⅲ-10・11、表Ⅲ-5・9、図版49・50）

79～88は剥片の一部にリタッチを施したものである。82は刃部の背面側に光沢が認められる。85～88はフレイクコアーの可能性もある。

石核（89、90）：（図Ⅲ-11、表Ⅲ-5・9、図版50）

89、90は小形の石核である。

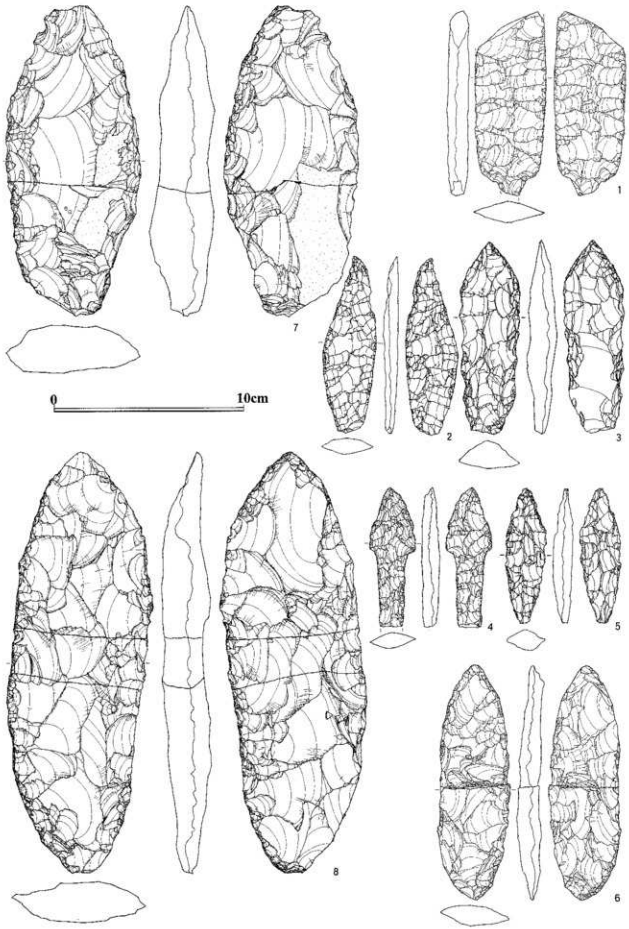
石斧（91～98）：（図Ⅲ-12、表Ⅲ-5・9、図版50）

91、92は縄文時代早期のもので蛇紋岩製である。97はたたき石としても使われている。98は石のみの可能性がある。

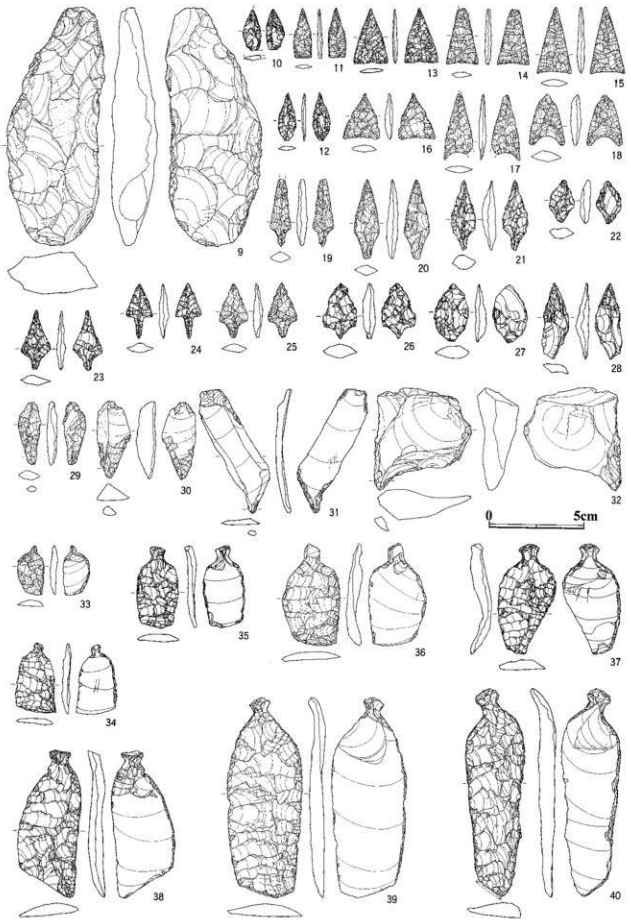
礫器（99）：（図Ⅲ-12、表Ⅲ-5・9、図版50）

不整の長楕円礫の一端に直線状の刃部を作出している。

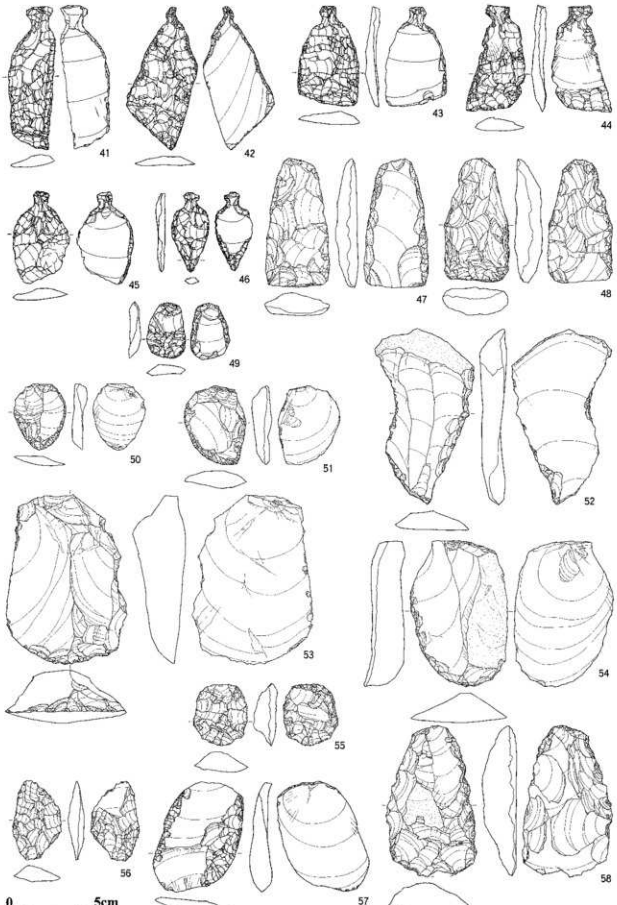
たたき石（100～111）：（図Ⅲ-12・13、表Ⅲ-5・9、図版50・51）



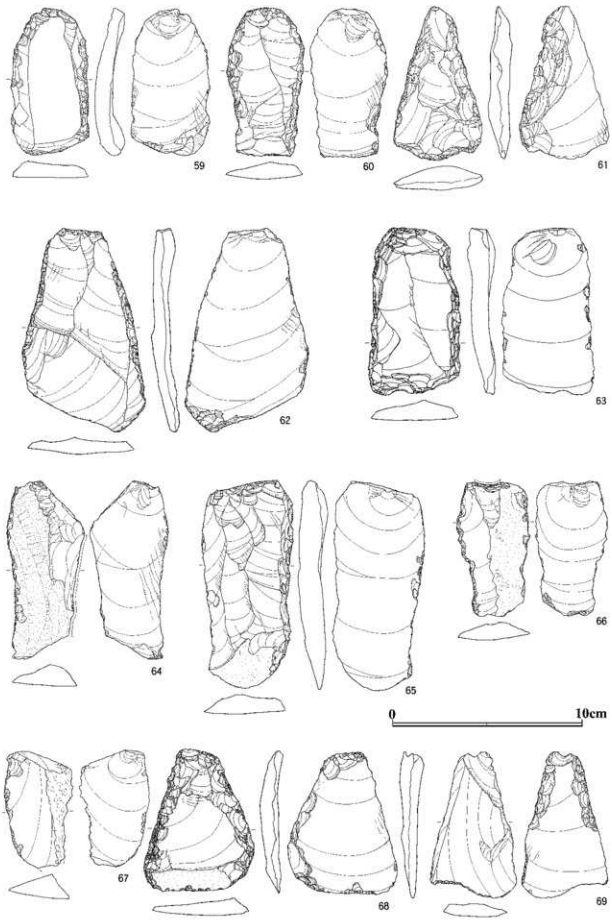
図Ⅲ-6　包含層の石器（1）


9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
5cm
33
34
35
36
37
38
39
40

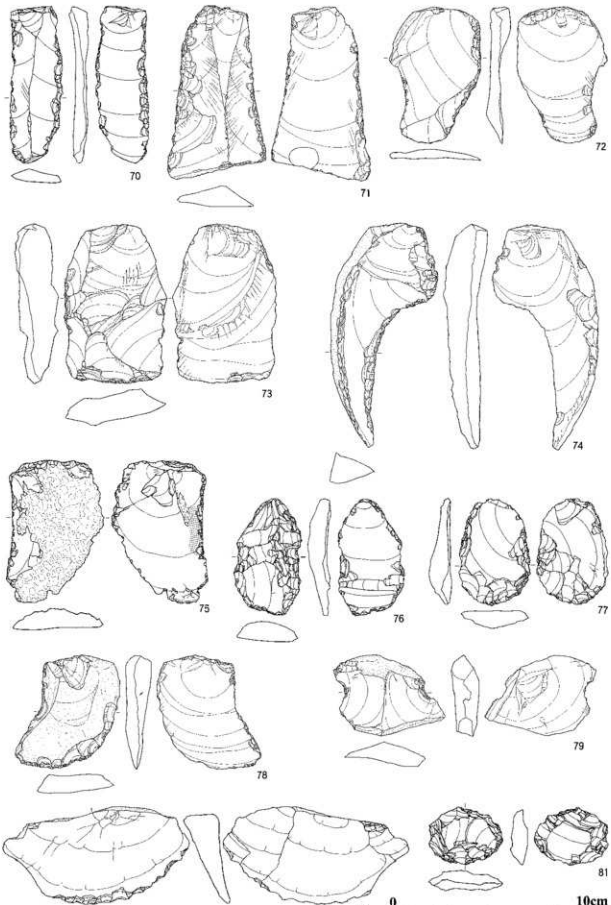
図Ⅲ-7　包含層の石器（2）



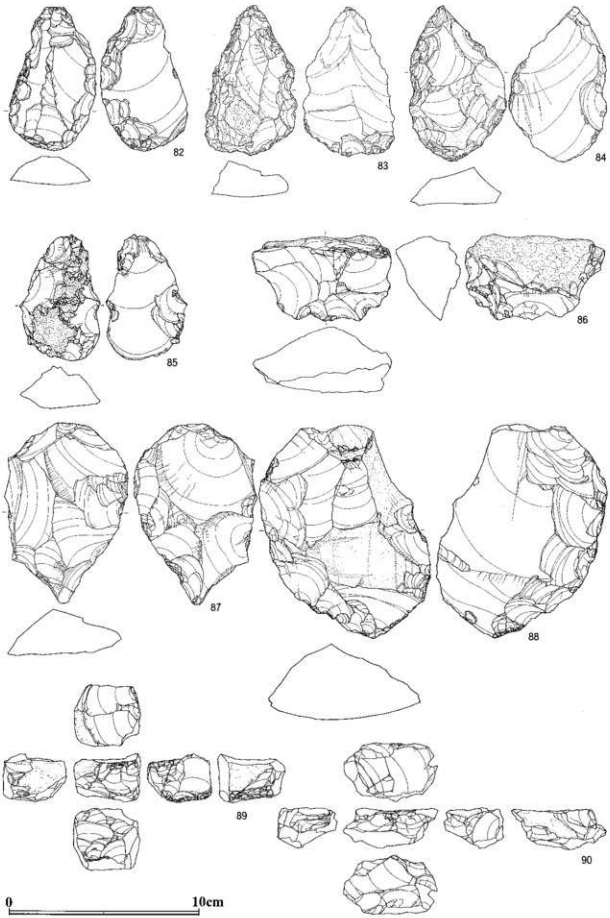
図Ⅲ-8　包含層の石器(3)



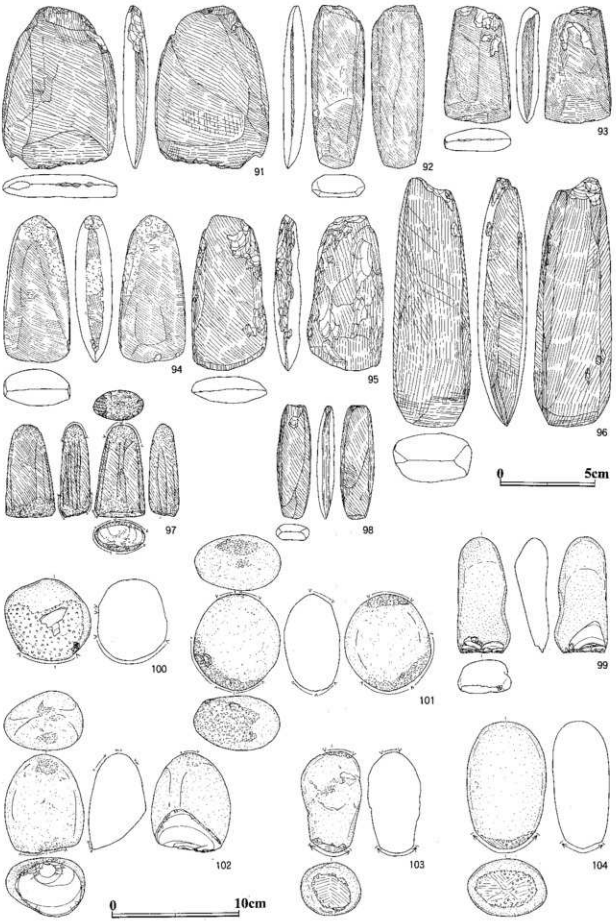
図Ⅲ-9　包含層の石器（4）



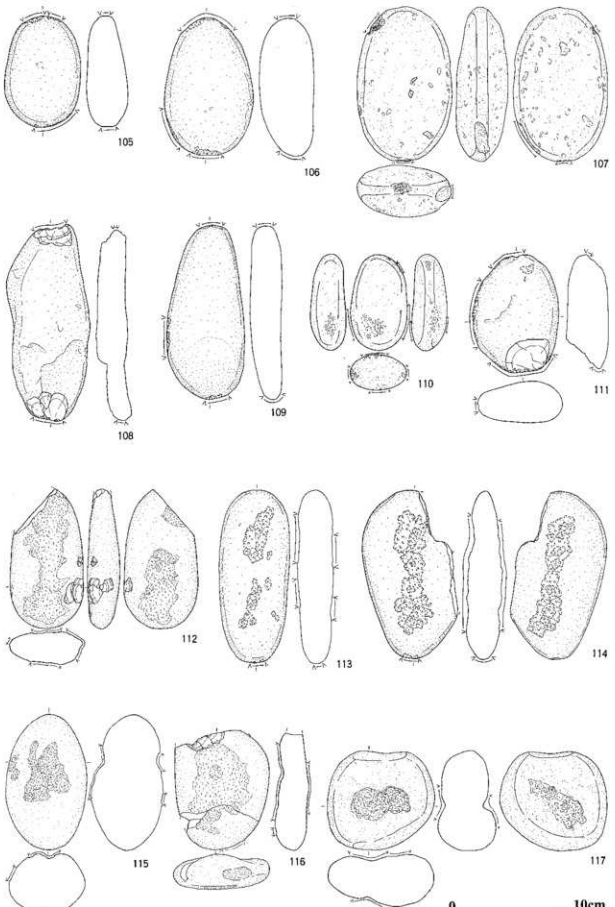
図Ⅲ-10　包含層の石器（5）



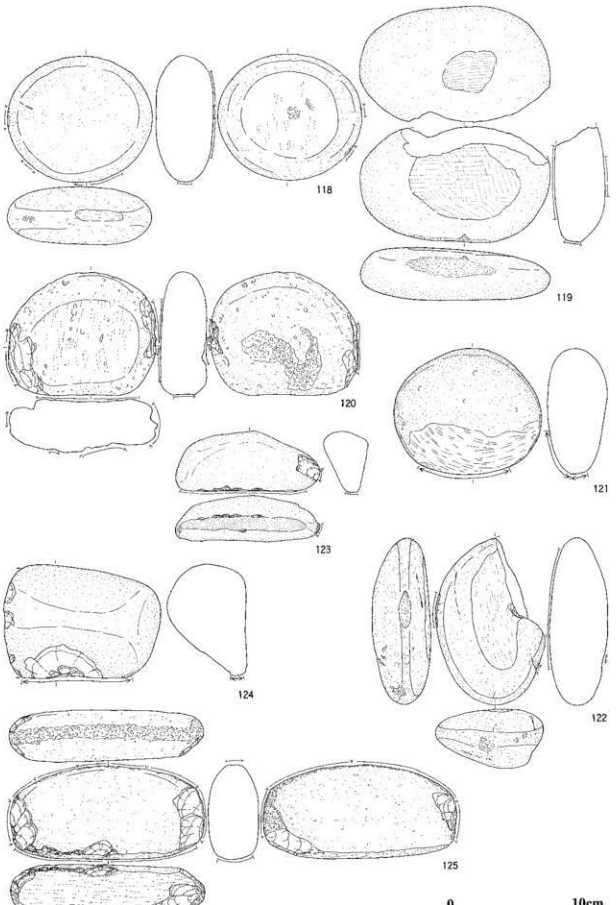
図Ⅲ-11 包含層の石器(6)



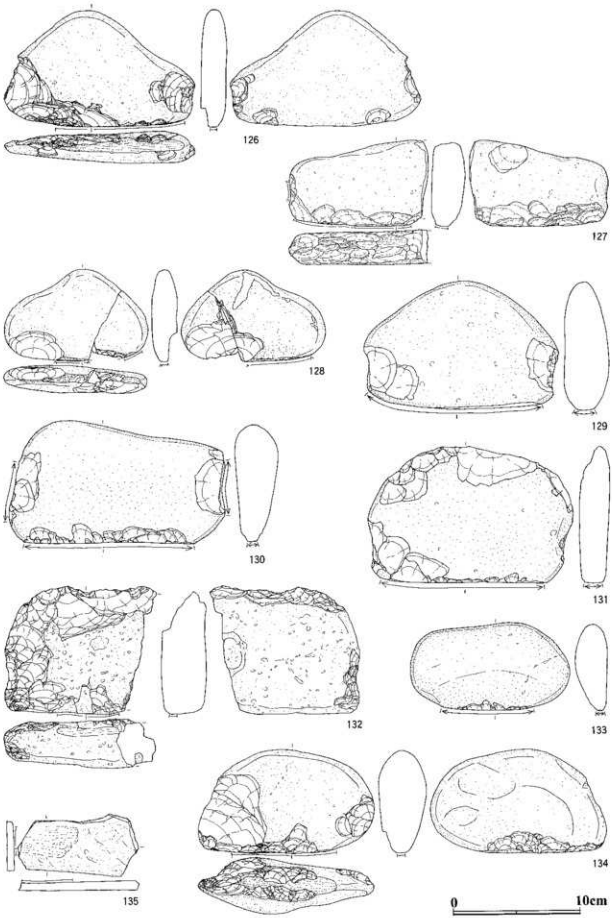
図Ⅲ-12　包含層の石器(7)



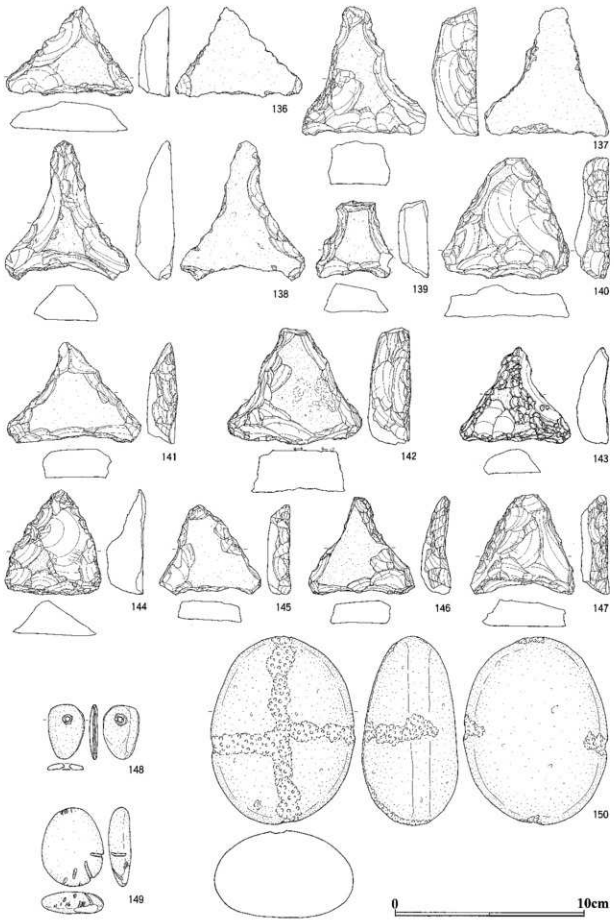
図Ⅲ-13 包含層の石器(8)



図Ⅲ-14　包含層の石器(9)



図Ⅲ-15 包含層の石器(10)



図Ⅲ-16　包含層の石製品

100、101は円礫を使用したもので、たたき痕が広い範囲に認められる。102～111は楕円礫を使用したもので、主に長軸の端部使用している。

くぼみ石（112～117）：（図Ⅲ-13、表Ⅲ-5・9、図版51）

112～117は表背面が使用された凹石である。

すり石（118～122）：（図Ⅲ-14、表Ⅲ-5・9、図版51）

118～122は礫の扁平面を使用したすり石である。119は使用した平滑面が光沢を放っている。

断面三角形のすり石（123、124）：（図Ⅲ-14、表Ⅲ-5・9、図版52）

123、124は縄文時代早期のものである。123は小形のもの、124は破壊もしくは加工された痕跡が認められる。

半円状扁平打製石器（125～134）：（図Ⅲ-14・15、表Ⅲ-5・9、図版52）

125は主にすり石として使用されている。126～128、134は下端部のすり面に打撃あるいは加工がなされている。132は破損品で、使用した痕跡が見られないことから廃棄されたと考えられる。

砥石（135）：（図Ⅲ-15、表Ⅲ-5・9、図版52）

135は薄身の砂岩を使用した小形の砥石である。（皆川）

3 石製品（図Ⅲ-16、表Ⅲ-5・9、図版52・53）

三角形石製品（136～147）：（図Ⅲ-16、表Ⅲ-5・9、図版53）

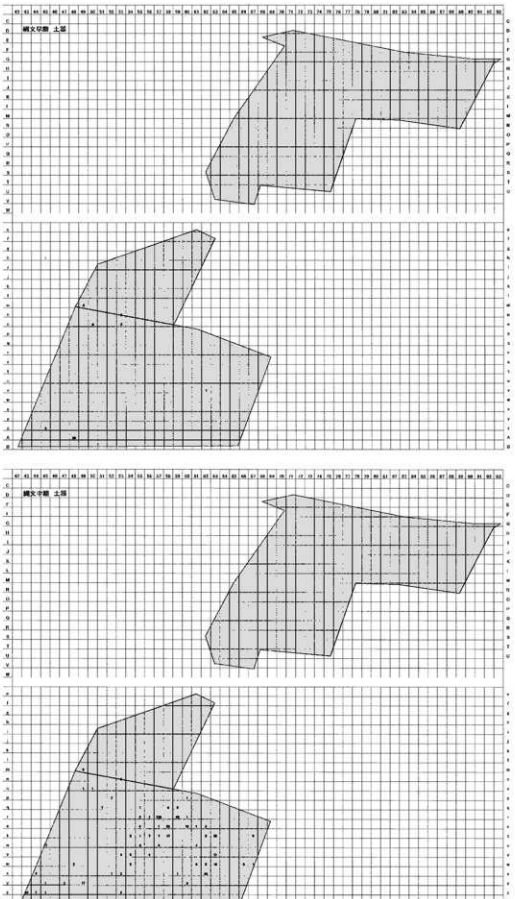
136～147は三角形石製品である。辺の部分が使用で抉れている物が多い。

垂飾（148）：（図Ⅲ-16、表Ⅲ-5・9、図版52）

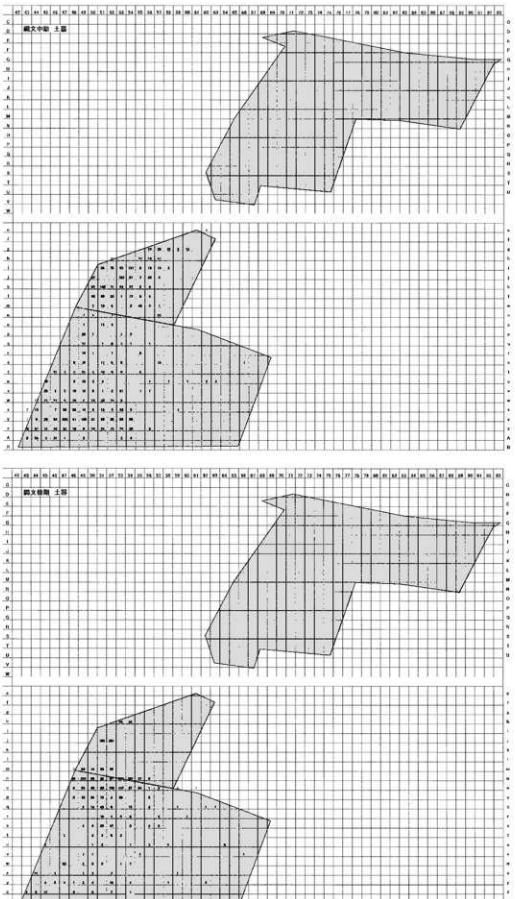
148は小さな石片に研磨を施した後に表背面両側から穿孔した薄身の垂飾である。

石製品（149、150）：（図Ⅲ-16、表Ⅲ-5・9、図版52）

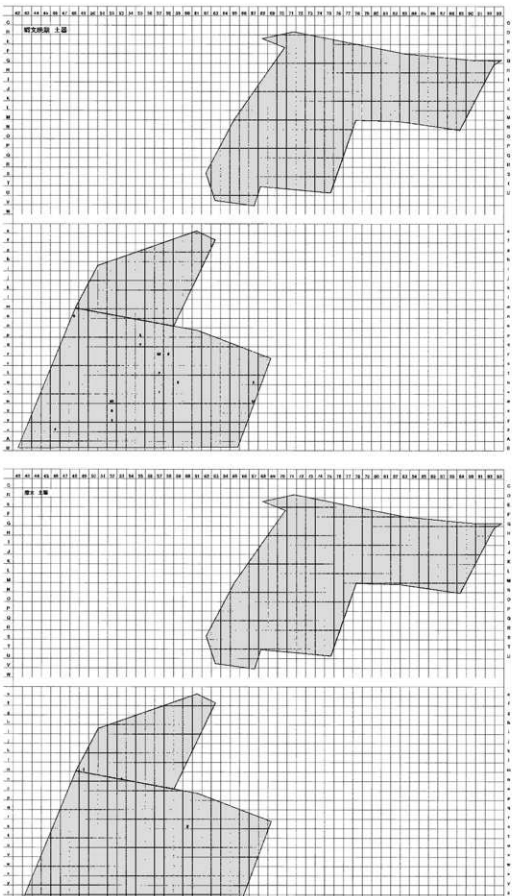
149は小型の礫に短い線刻２本を掘ったもので、用途不明である。150は大型の円礫の片面に敲打で十字の浅い溝を作出したものである。石錘の可能性がある。（皆川）



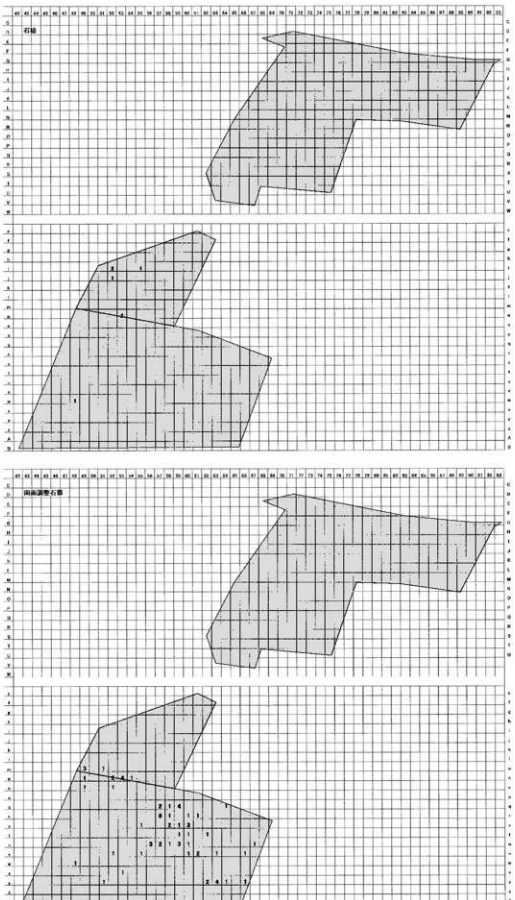
図Ⅲ-17　土器の分布（1）



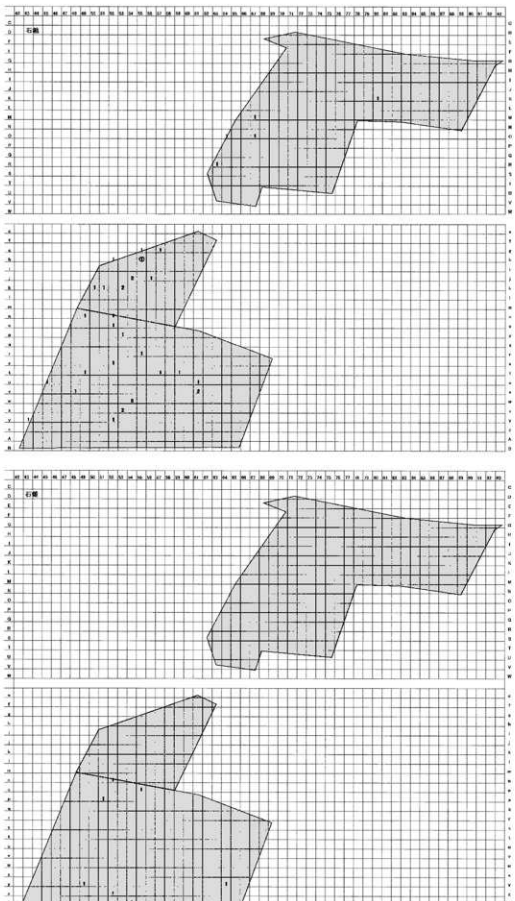
図Ⅲ-18 土器の分布（2）



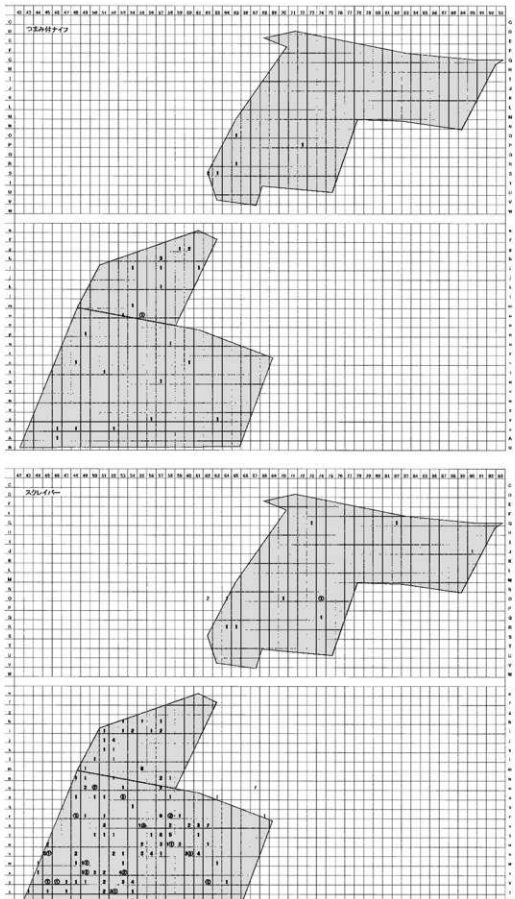
図Ⅲ-19　土器の分布（3）



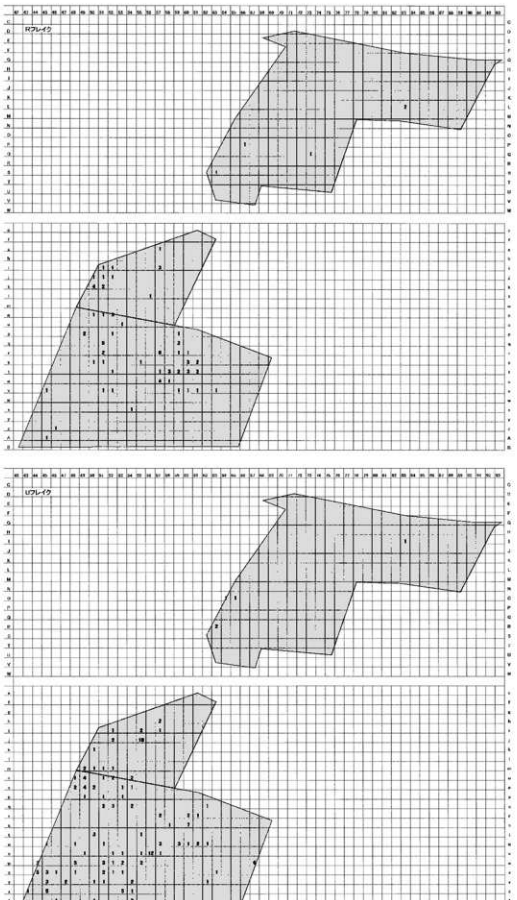
図Ⅲ-20 石器の分布（1）



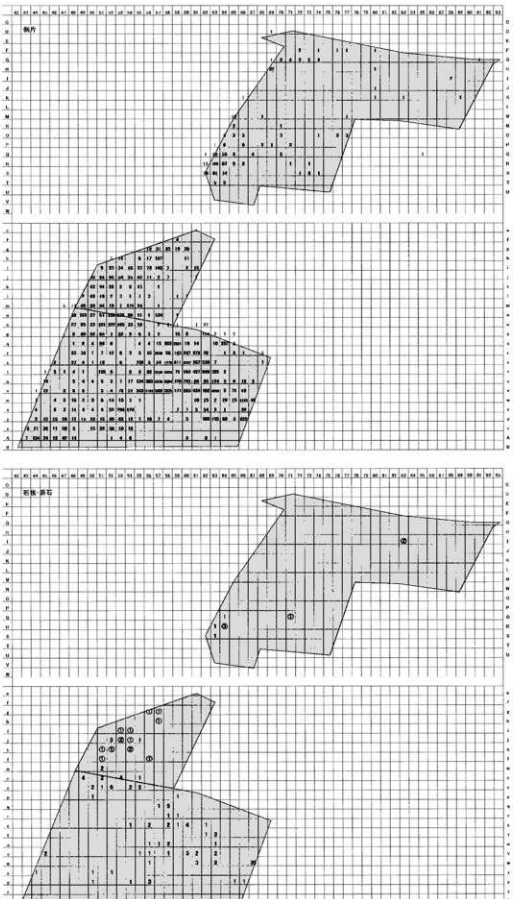
図Ⅲ-21　石器の分布（2）



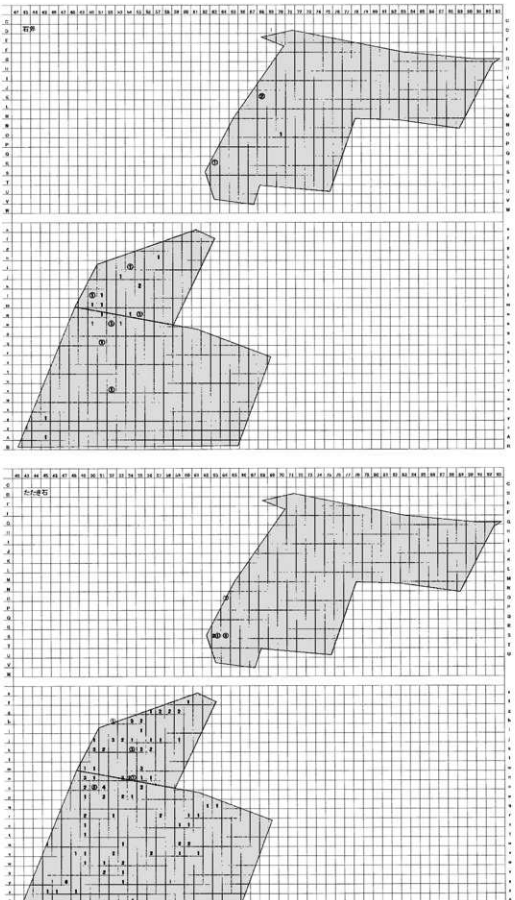
図Ⅲ-22 石器の分布（3）



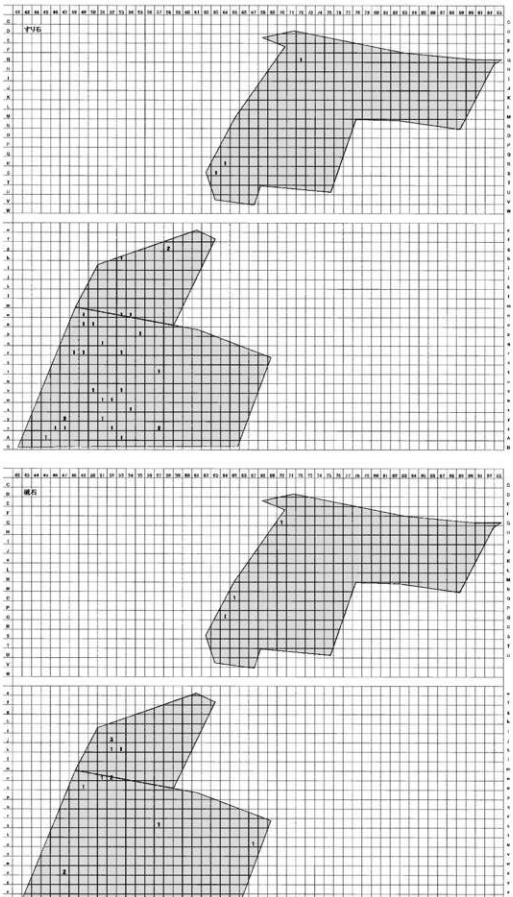
図Ⅲ-23　石器の分布（4）



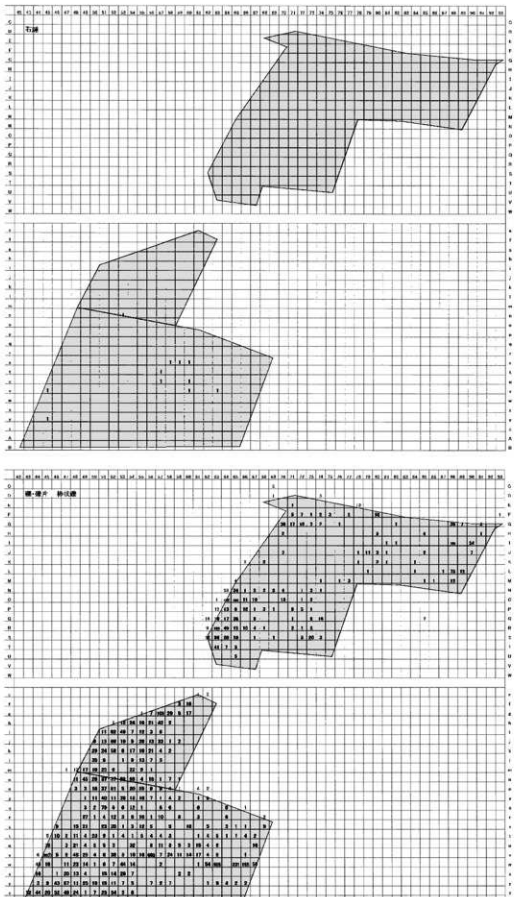
図Ⅲ-24 石器の分布（5）



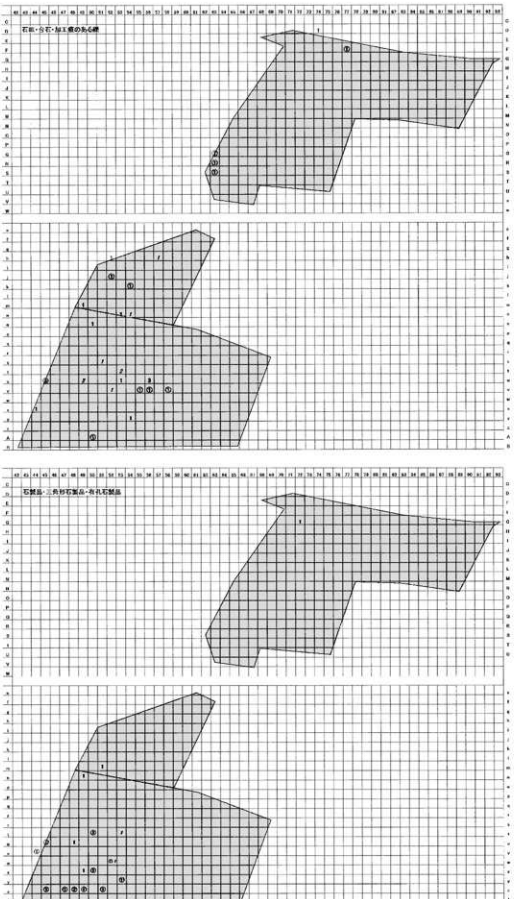
図Ⅲ-25　石器の分布（6）



図Ⅲ-26 石器の分布（7）



図Ⅲ-27　石器の分布（8）



図Ⅲ-28 石器の分布（9）

Ⅳ　自然科学的分析

1　大平４遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）：平成24年度

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

大平４遺跡は、北海道木古内町字大平60-33ほか（北緯41° 41′ 30″、東経140° 26′ 58″）に所在し、海岸段丘上に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡H-３ HF-１炉跡焼土出土炭化物（１：IAAA-122248）、竪穴住居跡H-４炉跡焼土上出土炭化物（２：IAAA-122249）、竪穴住居跡H-５地床炉跡焼土上出土炭化物（３：IAAA-122250）、竪穴住居跡H-６ HF地床炉跡焼土上出土炭化物（４：IAAA-122251）、竪穴住居跡H-７ HF-１炉跡焼土出土炭化物（５：IAAA-122252）、同HF-２炉跡焼土出土炭化物（６：IAAA-122253）、竪穴住居跡H-８炉跡焼土出土炭化物（７：IAAA-122254）、竪穴住居跡H-９ HF-１炉跡焼土出土炭化物（８：IAAA-122255）、竪穴住居跡H-10炉跡焼土上出土炭化物（９：IAAA-122256）、剥片集中FL-23覆土出土炭化物（10：IAAA-122257）の合計10点である（表Ⅳ-１-１）。試料は、調査現場において採取された土壌の中から水洗選別によって回収された。

試料１～９は竪穴住居跡炉跡上部から出土した。竪穴住居跡は縄文時代中期後葉に位置づけられている。試料10が出土した剥片集中は縄文時代前期後葉と考えられている。

2　測定の意義

試料が出土した遺構の年代を推定する。

3　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と表Ⅳ-１-１に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C /^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C /^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx

Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表Ⅳ-1-1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表Ⅳ-1-1に、補正していない値を参考値として表Ⅳ-1-2に示した。^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表Ⅳ-1-1に、補正していない値を参考値として表Ⅳ-1-2に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表Ⅳ-1-2に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

試料の^{14}C 年代は、竪穴住居跡H-3 HF-1炉跡焼土出土炭化物1が4120±20yrBP、竪穴住居跡H-4炉跡焼土上出土炭化物2が4160±20yrBP、竪穴住居跡H-5地床炉跡焼土上出土炭化物3が4120±20yrBP、竪穴住居跡H-6 HF地床炉跡焼土上出土炭化物4が4120±20yrBP、竪穴住居跡H-7 HF-1炉跡焼土出土炭化物5が4170±20yrBP、同HF-2炉跡焼土出土炭化物6が4110±20yrBP、竪穴住居跡H-8炉跡焼土出土炭化物7が4130±30yrBP、竪穴住居跡H-9 HF-1炉跡焼土出土炭化物8が4110±30yrBP、竪穴住居跡H-10炉跡焼土上出土炭化物9が4160±20yrBP、剥片集中FL-23覆土出土炭化物10が1570±20yrBPである。竪穴住居跡H-7から出土した2点の値は、誤差（±1σ）の範囲では重ならないが、ある程度近い値となっている。

暦年較正年代（1σ）は、1が2856～2630cal BC、2が2872～2681cal BC、3が2852～2621cal BC、4が2852～2622cal BC、5が2875～2698cal BC、6が2840～2581cal BC、7が2859～2631cal BC、8が2848～2581cal BC、9が2873～2696cal BC、10が436～536cal ADの間に各々複数の範囲で示される。

1～9はいずれも縄文時代中期後葉頃に相当する値で（小林編2008）、推定される竪穴住居跡の時期と整合的である。10は続縄文時代に当たる年代値となっており（臼杵編2007）、試料が出土した剥片集中が縄文時代前期後葉と考えられているのに対して、大幅に新しい値を示した。

試料の炭素含有率はすべて60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表Ⅳ－１－１　放射性炭素年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}C$補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-122248	1	竪穴住居跡H-3　HF-1　炉跡焼土	炭化物	**AAA**	**-24.95 ± 0.35**	**4,120 ± 20**	**59.85 ± 0.17**
IAAA-122249	2	竪穴住居跡H-4　炉跡焼土上	炭化物	**AAA**	**-26.16 ± 0.27**	**4,160 ± 20**	**59.57 ± 0.17**
IAAA-122250	3	竪穴住居跡H-5　地床炉跡焼土上	炭化物	**AAA**	**-25.72 ± 0.36**	**4,120 ± 20**	**59.91 ± 0.17**
IAAA-122251	4	竪穴住居跡H-6 HF　地床炉跡焼土上	炭化物	**AAA**	**-24.72 ± 0.32**	**4,120 ± 20**	**59.91 ± 0.18**
IAAA-122252	5	竪穴住居跡H-7 HF-1　炉跡焼土	炭化物	**AAA**	**-25.88 ± 0.28**	**4,170 ± 20**	**59.51 ± 0.17**
IAAA-122253	6	竪穴住居跡H-7 HF-2　炉跡焼土	炭化物	**AAA**	**-26.83 ± 0.25**	**4,110 ± 20**	**59.99 ± 0.18**
IAAA-122254	7	竪穴住居跡H-8　炉跡焼土	炭化物	**AAA**	**-30.65 ± 0.63**	**4,130 ± 30**	**59.81 ± 0.19**
IAAA-122255	8	竪穴住居跡H-9 HF-1　炉跡焼土	炭化物	**AAA**	**-27.89 ± 0.31**	**4,110 ± 30**	**59.98 ± 0.19**
IAAA-122256	9	竪穴住居跡H-10　炉跡焼土上	炭化物	**AAA**	**-26.54 ± 0.24**	**4,160 ± 20**	**59.55 ± 0.18**
IAAA-122257	10	剥片集中FL-23　覆土	炭化物	**AAA**	**-25.17 ± 0.33**	**1,570 ± 20**	**82.24 ± 0.20**

［#5453］

表Ⅳ－１－２　放射性炭素年代測定結果（１）

測定番号	$\delta^{13}C$補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-122248	4,120 ± 20	59.85 ± 0.17	4,124 ± 23	2856calBC-2831calBC (13.7%) 2821calBC-2812calBC (4.8%) 2747calBC-2725calBC (11.8%) 2698calBC-2630calBC (37.9%)	2866calBC-2804calBC (26.4%) 2774calBC-2770calBC (0.4%) 2761calBC-2617calBC (63.4%) 2611calBC-2581calBC (5.2%)
IAAA-122249	4,180±20	59.43±0.17	4,161±22	2872calBC-2851calBC (11.9%) 2813calBC-2799calBC (7.6%) 2794calBC-2743calBC (27.3%) 2728calBC-2695calBC (19.8%) 2684calBC-2681calBC (1.6%)	2877calBC-2835calBC (19.3%) 2817calBC-2666calBC (75.3%) 2644calBC-2640calBC (0.9%)
IAAA-122250	4,130±20	59.82±0.17	4,115±23	2852calBC-2813calBC (20.0%) 2744calBC-2726calBC (7.9%) 2696calBC-2621calBC (40.3%)	2861calBC-2807calBC (25.1%) 2757calBC-2718calBC (13.8%) 2705calBC-2579calBC (56.5%)
IAAA-122251	4,110±20	59.94±0.17	4,116±23	2852calBC-2813calBC (20.0%) 2744calBC-2726calBC (8.1%) 2696calBC-2622calBC (40.1%)	2862calBC-2807calBC (25.3%) 2758calBC-2718calBC (14.3%) 2706calBC-2579calBC (55.9%)

表Ⅳ－１－２　放射性炭素年代測定結果（２）

測定番号	$\delta^{13}C$補正なし		暦年較正用	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)	(yrBP)		
IAAA-122252	4,180 ± 20	59.41 ± 0.17	4,169 ± 23	2875calBC-2856calBC(11.5%) 2812calBC-2747calBC(40.0%) 2725calBC-2698calBC(16.8%)	2880calBC-2835calBC(19.7%) 2816calBC-2668calBC(75.7%)
IAAA-122253	4,140 ± 20	59.76 ± 0.17	4,105 ± 23	2840calBC-2814calBC(16.1%) 2678calBC-2617calBC(37.6%) 2611calBC-2581calBC(14.5%)	2859calBC-2809calBC(23.3%) 2752calBC-2722calBC(8.9%) 2701calBC-2577calBC(63.2%)
IAAA-122254	4,220 ± 20	59.12 ± 0.17	4,129 ± 25	2859calBC-2832calBC(13.7%) 2821calBC-2810calBC(5.1%) 2752calBC-2722calBC(14.7%) 2701calBC-2631calBC(34.7%)	2871calBC-2802calBC(26.8%) 2780calBC-2617calBC(64.9%) 2610calBC-2583calBC(3.7%)
IAAA-122255	4,150 ± 30	59.62 ± 0.18	4,106 ± 25	2848calBC-2814calBC(17.1%) 2737calBC-2735calBC(1.0%) 2692calBC-2690calBC(1.0%) 2678calBC-2617calBC(36.0%) 2610calBC-2581calBC(13.1%)	2861calBC-2808calBC(23.4%) 2756calBC-2719calBC(10.5%) 2704calBC-2576calBC(61.5%)
IAAA-122256	4,190 ± 20	59.36 ± 0.17	4,163 ± 23	2873calBC-2852calBC(11.6%) 2813calBC-2744calBC(38.3%) 2726calBC-2696calBC(18.3%)	2878calBC-2835calBC(19.4%) 2817calBC-2666calBC(75.2%) 2644calBC-2640calBC(0.8%)
IAAA-122257	1,570 ± 20	82.21 ± 0.19	1,570 ± 19	436calAD-491calAD(51.7%) 509calAD-518calAD(8.9%) 528calAD-536calAD(7.6%)	430calAD-540calAD(95.4%)

[参考値]

文献

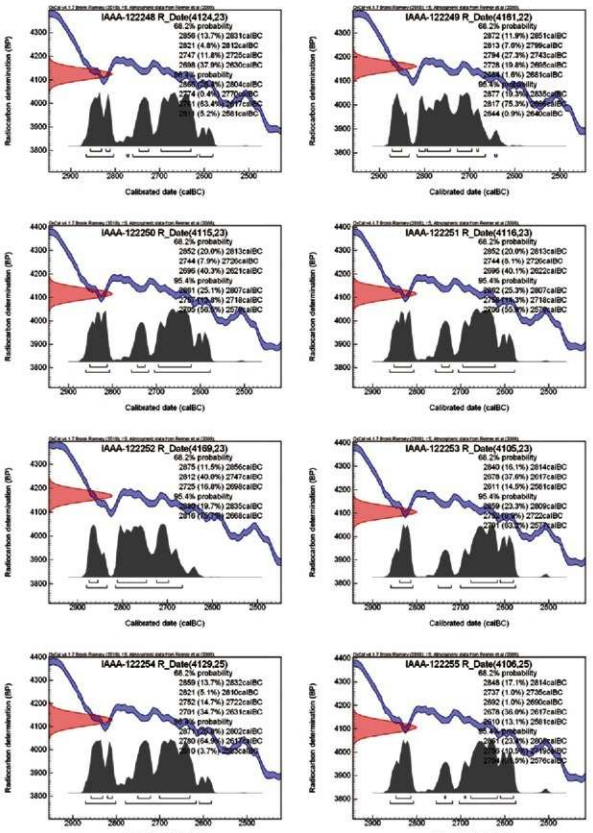
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(１), 337-360

小林達雄編　2008　総覧縄文土器. 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

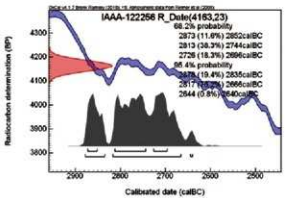
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 51(４), 1111-1150

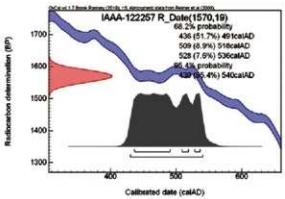
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon 19(３), 355-363

臼杵勲編　2007科学研究費補助金基盤研究(B)(２)　北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書. 札幌学院大学人文学部



図Ⅳ-１-１　暦年較正年代グラフ（１）





［参考］暦年較正年代グラフ

図Ⅳ-１-２　暦年較正年代グラフ（２）

2　大平４遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）：平成26年度

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

大平４遺跡は、北海道上磯郡木古内町字大平60-５、15、114、194～198（北緯41° 41′ 27″、東経140° 27′ 9″）に所在する。測定対象試料は、土坑Ｐ-48から出土した枝、葉、木製品の合計４点である（表Ⅳ-２-１）。同じ土坑から函館戦争（西暦1869年）時の銃弾が出土している。

2　測定の意義

土坑の時期を明らかにする。

3　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と表Ⅳ-２-１に記載する。
（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（１）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表Ⅳ-２-１）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（０yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表Ⅳ-２-１に、補正していない値を参考値として表Ⅳ-２-２に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。
（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。

pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表Ⅳ-2-1に、補正していない値を参考値として表Ⅳ-2-2に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表Ⅳ-2-2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

測定結果を表Ⅳ-2-1・2に示す。

試料の^{14}C年代は、OHIRA4-14が210±20yrBP、OHIRA4-15が700±20yrBP、OHIRA4-16が1090±20yrBP、OHIRA4-17が540±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、最も古いOHIRA4-16が901～991cal ADの間に2つの範囲、最も新しいOHIRA4-14が1654～1799cal ADの間に2つの範囲と、1943cal AD以降の範囲で示される。なお、OHIRA4-14の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある（表Ⅳ-2-2下の警告参照）。

同じ土坑の同じ層から出土した4点の試料の間には、明瞭な年代差が認められる。同種の木製品と見なされたOHIRA4-16とOHIRA4-17の間にも年代差があり、全体的に変異が大きい。同じ土坑から函館戦争（西暦1869年）時の銃弾が出土しており、これに最も近い年代値を示したのはOHIRA4-14であるが、その較正年代に1869年は含まれない。この試料は枝と考えられる細い木片であるため、古木効果も考えにくい。このように、試料の種類に基づく検討を行うとともに、試料の出土状況、遺構の構築、埋没過程等の吟味も踏まえた考察が必要である。

試料の炭素含有率を確認すると、OHIRA4-15を除く3点はいずれも50%を超える適正な値であるが、OHIRA4-15は9%という低い値であった。OHIRA4-15は、土塊の表面に葉と見られる厚さ1㎜以下の黒色部があり、この部分を採取したが、土を完全に除去できなかったことが観察されているため、測定された炭素の由来に注意を要する。

表Ⅳ－２－１　放射性炭素年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$(‰)(AMS)	$\delta^{13}C$補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-142037	OHIRA4-14	土杭P-48　覆土7層	出土木(枝)	**AAA**	**-28.17 ± 0.22**	**210 ± 20**	**97.39 ± 0.29**
IAAA-142038	OHIRA4-15	土杭P-48　覆土7層	出土木(葉)	**AaA**	**-24.55 ± 0.25**	**700 ± 20**	**91.60 ± 0.28**
IAAA-142039	OHIRA4-16	土杭P-48　覆土7層	出土木製品(軸)	**AAA**	**-23.64 ± 0.24**	**1,090 ± 20**	**87.35 ± 0.26**
IAAA-142040	OHIRA4-17	土杭P-48　覆土7層	出土木製品(軸)	**AAA**	**-23.79 ± 0.22**	**540 ± 20**	**93.51 ± 0.29**

[#6966]

表Ⅳ－２－２　放射性炭素年代測定結果

測定番号	$\delta^{13}C$補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-142037	260 ± 20	96.76 ± 0.28	212 ± 23	1654calAD-1670calAD(22.5%)* 1779calAD-1799calAD(32.4%)* 1943calAD-...(13.3%)*	1647calAD-1682calAD(32.5%)* 1738calAD-1753calAD(4.0%)* 1762calAD-1804calAD(42.8%)* 1937calAD-...(16.1%)*
IAAA-142038	700 ± 20	91.69 ± 0.27	704 ± 24	1273calAD-1292calAD(68.2%)	1265calAD-1300calAD(88.0%) 1368calAD-1381calAD(7.4%)
IAAA-142039	1,060 ± 20	87.60 ± 0.26	1,086 ± 24	901calAD-921calAD(22.1%) 951calAD-991calAD(46.1%)	894calAD-930calAD(30.7%) 938calAD-1015calAD(64.7%)
IAAA-142040	520 ± 20	93.75 ± 0.28	538 ± 24	1399calAD-1426calAD(68.2%)	1320calAD-1350calAD(21.4%) 1391calAD-1435calAD(74.0%)

[参考値]

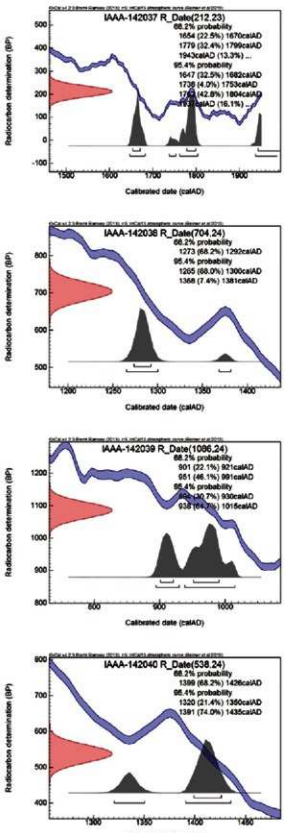
*Warning! Date may extend out of range
(この警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の^{14}C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51（1）, 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55（4）, 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon 19（3）, 355-363



［図版］暦年較正年代グラフ（参考）

図Ⅳ-２-１　暦年較正年代グラフ

Ⅴ　資料一覧

表Ⅴ-1　遺構一覧

遺構種	遺構番号	図版番号	位置	規　模
住居跡(H)				上面長軸×上面短軸／底面長軸×底面短軸／深さm
	H-3	図Ⅱ-1	y45, z45	4.37×3.13／4.10×2.84／0.52m
	H-4	図Ⅱ-3	V47	3.27×3.20／2.26×2.24／0.21m
	H-5	図Ⅱ-5	x52, y52	4.00×3.65／3.00×2.65×0.4m
	H-6	図Ⅱ-6	x50, x51, y52	4.00×3.00／3.65×2.65／0.4m
	H-7	図Ⅱ-8	v45, w45, v46, w46	3.46×2.70／3.06×2.07／0.43m
	H-8	図Ⅱ-13	x47	4.17×4.03／1.93×1.90／0.42m
	H-9	図Ⅱ-15	v45, w45, v46, w46	3.46×2.70／3.06×2.07／0.43m
	H-10	図Ⅱ-17	x49, y49	4.00×3.65／3.00×2.65／0.4m
	H-11	図Ⅱ-19	v44	2.69×(0.71)／2.38×(0.55)／0.46m
	H-12	図Ⅱ-20	h53, h54, i53	4.06×2.48／3.74×2.26／0.4m
	H-13	図Ⅱ-23	h53, h54, i53	3.24×2.76／2.90×2.50／0.6m
	H-14	図Ⅱ-24	h53, h54, i53	2.60×2.08／2.30×1.82／0.32m
土坑(P)				上面長軸×上面短軸／底面長軸×底面短軸／深さm
	P-30	図Ⅱ-25	y46, z46	3.14×2.12／2.42×1.70／0.84m
	P-31	図Ⅱ-25	y46, z46	1.24×1.28／1.0×1.0／0.8m
	P-32	図Ⅱ-25	k52	0.50×(0.25)／0.80×(0.50)／0.26m
	P-33	図Ⅱ-25	n52, n53, o52, o53	0.88×0.76／0.70×0.58／0.28m
	P-34	図Ⅱ-27	m49, n49	0.84×(0.82)／0.90×(0.84)／0.24m
	P-35	図Ⅱ-27	y46, w46, y47, w47	1.54×1.24／1.32×0.94／0.16m
	P-36	図Ⅱ-27	W47	0.40×0.40／0.15×0.13／0.30m
	P-37	図Ⅱ-28	j51	1.02×0.8／0.78×0.64／0.34m
	P-38	図Ⅱ-30	g58	0.86×0.64／0.64×0.52／0.38m
	P-39	図Ⅱ-30	f59	0.70×0.64／0.44×0.52／0.20m
	P-40	図Ⅱ-30	f59, f60, g59, g60	1.20×0.96／1.14×0.86／0.40m
	P-41	図Ⅱ-30	j53	2.08×1.82／1.86×1.54／0.22m
	P-42	図Ⅱ-31	i56, j56	1.84×1.40／1.40×1.04／1.18m
	P-43	図Ⅱ-31	j56	1.12×0.80／1.14×0.90／0.42m
	P-44	図Ⅱ-30	j56	0.90×(0.88)／0.74×(0.62)／0.28m
	P-45	図Ⅱ-32	Q76, R76	0.56×0.50／0.32×0.40／0.48m
	P-46	図Ⅱ-32	P76	0.74×0.54／0.28×0.30／0.18m
	P-47	図Ⅱ-32	F80	1.54×0.86／1.36×0.64／0.28m
	P-48	図Ⅱ-32	E78	1.90×1.04／1.40×0.62／0.54m
	P-49	図Ⅱ-32	E78	(0.68)×0.72／(0.64)×0.60／0.14m
Tピット(TP)				上面長軸×上面短軸／底面長軸×底面短軸／深さm
	TP-1	図Ⅱ-35	u58・59	2.58×0.50／2.65×0.24／0.70m
	TP-2	図Ⅱ-35	H85	1.28×0.48／1.20×0.20／0.30m
	TP-3	図Ⅱ-35	H82・83	2.88×0.52／2.96×0.20／1.02m
	TP-4	図Ⅱ-35	I79・89	2.22×0.24／2.40×0.16／0.54m
焼土(F)				長軸×短軸／深さm
	F-4	図Ⅱ-36	w50	0.26×0.22／0.06m
	F-5	図Ⅱ-36	z44	0.74×0.60／0.06m

遺構種	遺構番号	図版番号	位置	規模
	F-6	図Ⅱ-36	y44	0.62×0.56／0.06m
	F-7	図Ⅱ-36	y45	0.54×0.42／0.10m
	F-8	図Ⅱ-36	w45	0.58×0.46／0.10m
	F-9	図Ⅱ-36	m52	0.52×0.36／0.04m
	F-10	図Ⅱ-36	n52	0.66×0.44／0.06m
	F-11	図Ⅱ-36	n45	0.78×0.36／0.10m
	F-12	図Ⅱ-36	x45	1.28×0.22／0.10m
	F-13	図Ⅱ-36	n52	0.80×0.64／0.10m
	F-14	図Ⅱ-37	n52	1.10×0.44／0.06m
	F-15	図Ⅱ-37	n52	0.60×0.40／0.02m
	F-16	図Ⅱ-37	i50	0.36×0.34／0.08m
	F-17	図Ⅱ-37	h55·56	0.62×0.48／0.10m
	F-18	図Ⅱ-37	w56	0.76×0.68／0.12m
	F-19	図Ⅱ-37	k49	0.22×0.18／0.06m
	F-20	図Ⅱ-38	r65	0.64×0.38／0.10m
	F-21	図Ⅱ-38	r62	0.52×0.40／0.06m
	F-22	図Ⅱ-38	R63	0.94×0.66／0.12m
	F-23	図Ⅱ-38	R63·64	0.92×0.68／0.16m
	F-24	図Ⅱ-38	R63·64	0.50×0.34／0.06m
	F-25	図Ⅱ-38	Q67	0.96×0.82／0.20m
	F-26	図Ⅱ-39	N70	1.30×0.80／－m
	F-27	図Ⅱ-39	N70	2.30×1.04／－m
	F-28	図Ⅱ-39	Q72	0.44×0.38／0.08m
	F-29	図Ⅱ-39	O70·71	2.97×1.38／0.12m
	F-30	図Ⅱ-39	L88	0.96×0.50／0.34m
	F-31	図Ⅱ-40	H69·70	6.86×1.12／0.36m
	F-32	図Ⅱ-41	K80	0.66×0.54／0.18m
	F-33	図Ⅱ-41	L88	2.76×1.00／0.20m
	F-34	図Ⅱ-41	E69,D69·70	1.10×0.64／0.10m
剥片集中(FL)				長軸×短軸m
	FL-17	図Ⅱ-42	u56	0.72×0.36m
	FL-18	図Ⅱ-42	u56	3.12×1.10m
	FL-19	図Ⅱ-44	v61·62	1.80×1.18m
	FL-20	図Ⅱ-43	t61·62	3.70×1.50m
	FL-21	図Ⅱ-44	u58·59	5.04×2.60m
	FL-22	図Ⅱ-46	v56	1.62×0.98m
	FL-23	図Ⅱ-47	s57·58,t57·58	6.92×5.08m
	FL-24	図Ⅱ-53	q59·60	3.88×2.28m
	FL-25	図Ⅱ-53	k52	0.86×0.76m
	FL-26	図Ⅱ-53	m54	0.56×0.46m
	FL-27	図Ⅱ-53	i57·j57	3.48×1.76m
	FL-28	図Ⅱ-44	g56·57,h56·57	1.40×1.20m
	FL-29	図Ⅱ-44	f59,g59	1.10×1.04m
	FL-30	図Ⅱ-44	Q63·64	0.94×0.98m0.90×0.56m
	FL-31	図Ⅱ-44	r65	2.64×1.80m

表Ⅴ-2　遺構別出土土器一覧

調査区 遺構名	層位	Ⅰb-4	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳc	Ⅵ	土製品	不明	土器合計(点)
H-3	覆土層			1		6					7
	覆土3層				2	1					3
	覆土4層				3						3
	覆土5層			5	11	2					18
	覆土5床下			1		1					2
	床直		5								5
H-4	覆土層				6						6
H-5	Ⅰ層				2						2
	覆土1層				3						3
	覆土2層				3						3
	覆土3層				4						4
	覆土下				14				2		16
	床				5						5
H-6	覆土層				1						1
H-6	覆土1層				6						6
	覆土2層				6						6
	覆土カベ				1						1
	覆土下				15						15
	覆土床				23						23
H-7	覆土層				45						45
	Ⅰ層				10						10
	覆土Ⅰ層上				41						41
	Ⅱ層				113						113
	Ⅱ層下				678						678
	覆土1層				163						163
	床直				18						18
	焼土				3						3
H-8	Ⅱ層				57						57
	覆土層				126						126
	床面				11						11
H-9	Ⅱ層				5						5
	覆土層				67						67
	床				14						14
	床直				11						11
H-10	覆土層				11						11
	覆土1層				13						13
	覆土2層				14						14
	覆土カベ				5						5
	覆土層下				14				3		17
	焼土上				3						3
	床				70						70
H-12	覆土層上					20					20
	覆土層中					6					6
	覆土壁					1					1
	床				158						158
H-14	覆土層						5				5
	覆土壁				1						1
P-29	覆土上					9					9
	覆土中					3					3
	覆土下					2					2
P-30	覆土層				144						144
	焼土				1						1
P-31	覆土下				9						9
	床直				1						1
P-36	覆土1層				174						174
P-37	焼土					5					5
	焼土上					51				1	52
	焼土下					4					4
	焼土中					11					11
	炭化物層									3	3
	覆土8層					1					1
	不明					38					38
P-41	覆土層					1					1
F-12	焼土1				2						2
F-16	Ⅲ層					75					75
F-30	上面					9					9
F-31	Ⅱ層					4		1			5
	焼土上					1					1
	不明					2					2
FL-20	Ⅱ層中					2					2
FL-23	Ⅱ層		9								9
	Ⅱ層中		216		21				4		241
FL-26	Ⅱ層中	44									44
FL-27	Ⅱ層	27									27
FL-28	Ⅱ層					22					22
FL-29	Ⅱ層					1					1
FL-30	Ⅱ層	77									77
FL-31	Ⅱ層					3					3
合計(点)		148	230	6	2108	275	5	1	9	4	2786

表Ⅴ-３　遺構別出土石器・石製品一覧

調査区 遺構名	付属遺構	層位	石槍	両面調整石器	石鏃	石錐	つまみ付ナイフ	スクレイパー	Rフレイク	Lフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たたき石	磨石	すり石	扁平打製石器	打製石器	礫石	石皿・台石	炉石・炉石片	礫片	礫	石製品	石器合計
H-3		覆土3層									1															1
		覆土4層				1																		1		1
		覆土5層								1	8				2								1	8		20
		焼土																						2		2
		床面									1															1
		床直						1		2	2													1		5
		覆土5層下									1													2		3
		覆土5層床下																						8		8
	石組炉	石組炉																						12		12
	HP-9	覆土層																						1		1
H-4		覆土層		1		1					5													4		9
H-5		覆土1層									13													2		15
		覆土3層									23												1			24
		覆土カベ									4													1		5
		覆土2層こげ茶									4															4
		覆土下				1		2		2	17												1	6		26
		床							1		6													1		8
		Ⅰ層									11												1			12
	HP-3	覆土																						1		1
H-6	HP-1	覆土層									3													3		6
		焼土上																						1		1
		覆土1層						2		1	6													4	1	12
		覆土2層									6													6		12
		覆土3層									1															1
		覆土カベ								1	3												1	3		8
		覆土層下						2		1	10			1	1						1		1	6	1	37
		覆土床			1			3		1	3													2		6
H-7	HF-1	床																		1				36		37
	HP-1	覆土層						3		1	18						1						1	36		57
	集中礫-1	覆土1層						3			6			1		2		2			1			31		43
		床直			3			1	1	2	3													18		24
		床面									1															1
		Ⅰ層										6												4		10
		Ⅱ層					2		2		2	19	1		1	1	1				2		12	68		107
		Ⅱ層下																						1		1
		焼土			1																			3		3
H-8	HF-1	床直																					9	13		22
	HP-2	覆土層							1	1	35						1							48		86
		Ⅱ層								4	37													34		75
		床面								2	2												12			16
H-9	HF-1	床																					2	7		9
	PO-1	Ⅱ層																						10		10
		覆土層			1				2	3	8													13		26
H-10	HF-1	床																						9		9
	HP-1	覆土層									7												1	2		10
		覆土カベ								1	2			1										7		11
		覆土1層						1																3		3
		覆土2層							1		1													9		10
		覆土層下			1			2		4	8			2			1							12		27
H-11		Ⅱ層																						4		4
		覆土層									4				1									4		9
H-12	HP一1	床			2			2		1	55	1	1	1	1						1			17		78
		覆土層上					1	1			73		1		1									17		92
		覆土壁									4															4
		覆土層中									8															8
H-13		覆土層													1											1
		床									1													1		2
		覆土層上																						22		22
H-14		覆土層下									3			1							1					5
		覆土層中								1	2													3		6
		覆土床									1													1		2
		覆土壁									2															2
		覆土層									3												3			6
		不明																					131			132
P-30		覆土層			1			1			4								1					6	29	1	41
		焼土																							1	1
		床直	1												2									4		6
P-31		床直																						1		1
		覆土層下						1			1													14		15
P-32		覆土層																						1		1
P-33		覆土層									1															1
P-35		溝					2																			0
P-37		焼土上									16			1	2									6	5	30
		焼土下									2				1											3
		Ⅲ層									5															5
		焼土									1													5	1	7
		焼土中									22													11	4	37
		炭化物層									3															3

調査区 遺構名	付属遺構	層位	石槍	両面調整石器	石鏃	石錐	つまみ付ナイフ	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石核	原石	石斧	たたき石	磨器	すり石	扁平打製石器	打製石器	礫石	石皿・台石	炉石・炉石片	礫片	礫	石製品	石器合計
P-37		縄土6層									1															1
		炉上									1															1
P-42		縄土層									4													11		15
P-44		縄土層									1													2		3
TP-1		縄土層									8															8
F-12		焼土1									1															1
F-16		焼土									2												3	2		7
F-18		焼土中									1													2		3
F-19		焼土様																						1		1
F-20		上面								1																1
F-23		Ⅱ層									2													1		3
F-29		上面																						1		1
F-30		上面																						14		14
F-31		Ⅱ層									272													11		283
FL-17		Ⅱ層									52															52
FL-18		Ⅱ層		1			1	2			502															502
FL-19		Ⅱ層中		1							861															861
FL-20		Ⅱ層中		2			2	3	1	1	2716	1			1									2		2722
FL-21		Ⅱ層中	1	3				2	1	1	4564				1									2		4569
FL-22		Ⅱ層中						4	2	1	2017													1		2021
FL-23		Ⅱ層中	1	15		1		11	6	4	15033	5			2					1			2	9		15062
FL-24		Ⅱ層中		2				2			2717															2717
FL-25		Ⅱ層									175													1		176
FL-26		Ⅱ層中									87															87
FL-27		Ⅱ層			3			2			2011												7	12		2030
FL-28		Ⅱ層						1			482															482
FL-29		Ⅱ層									373															373
FL-30		Ⅱ層					1				20	2												15		37
FL-31		Ⅱ層									721													24		745
合計			3	25	13	6	7	54	16	39	33110	16	2	9	16	3	4	3	2	1	5	134	88	689	3	34140

表Ⅴ－4　包含層出土土器・土製品一覧

分類	Ⅰb-4	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴb	Ⅴc	Ⅵ	Ⅶ	土製品	不明	土器合計
点数	280	24	502	118	57	2002	5174	46	17	65	134	8	3	189	5	8629

表Ⅴ－5　包含層出土石器・石製品一覧

分類	石槍	両面調整石器	石鏃	石錐	つまみ付ナイフ	異状石器	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石斧	たたき石	磨器	石核	原石	断面三角形のすり石	すり石	くぼみ石	半円状扁平打製石器	礫石	石錘	石皿・台石	加工痕のある礫	打製石器	礫・礫片	石製品	不明	石器合計
合計 （点）	7	72	40	8	31	30	195	84	167	40650	25	110	10	127	20	2	32	7	45	17	11	26	7	8	7255	18	147	49149

表Ⅴ-6　遺構掲載土器一覧

図版番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	付属遺構	層位	分類	小計	合計	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)
図Ⅱ-2	1	H-3	4		覆土5	Ⅲb		1			
	2	H-3	6		覆土4	Ⅲb		1			
	3	H-3	2		覆土5	Ⅲb		1			
	4	H-3	2		覆土5	Ⅲb		1			
	5	H-3	11		覆土床	Ⅲb		1			
	6	H-3	8		覆土5	Ⅲb		1			
	7	H-3	12	HP-1	覆土	Ⅲb		1			
	8	H-3	3	HP-9	覆土	Ⅲb		1			
	9	H-3	10		覆土5	Ⅲb		1			
	10	H-3	8		覆土5	Ⅲb		1			
図Ⅱ-3	1	H-4	1		覆土	Ⅲb	1				
			4	HP-2	覆土	Ⅲb	2	3			
	2	H-4	3	HP-2	覆土	Ⅲb		1			
図Ⅱ-4	1	H-5	20		床	Ⅲb		1			
	2	H-5	3		覆土5	Ⅲb		1			
	3	H-5	6		覆土下	Ⅲb		1			
	4	H-5	9		覆土下	Ⅲb		1			
	5	H-5	12		覆土下	Ⅲb	2				
図Ⅱ-7	1	H-6	12		覆土下	Ⅲb	3				
			21		覆土床	Ⅲb	1				
			22		覆土床	Ⅲb	1				
			23		覆土床	Ⅲb	1	6			
	2	H-6	10		覆土下	Ⅲb		1			
	3	H-6	4		覆土2	Ⅲb		2			
	4	H-6	14		覆土下	Ⅲb		3			
	5	H-6	16		覆土下	Ⅲb		1			
	6	H-6	18		覆土床	Ⅲb		1			
	7	H-6	24		覆土床	Ⅲb		1			
	8	H-6	27		覆土床	Ⅲb		1			
	9	H-6	2		覆土2	Ⅲb		1			
図Ⅱ-10	1	H-7	27	PO-1	Ⅱ層下	Ⅲb	26		(17.0)	(13.0)	(13.5)
図Ⅱ-11	2	H-7	40		床面	Ⅲb		1			
	3	H-7	32		床	Ⅲb	1				
			35		床	Ⅲb	1	2			
	4	H-7	24		覆土1	Ⅲb		1			
	5	H-7	24		覆土1	Ⅲb		1			
	6	H-7	24		覆土1	Ⅲb		1			
	7	H-7	1		覆土	Ⅲb	1				
			7		覆土	Ⅲb	1				
			26		覆土1	Ⅲb	1	3			
	8	H-7	27		Ⅱ層下	Ⅲb		4			
	9	H-7	21		覆土1上	Ⅲb		1			
	10	H-7	21		覆土1上	Ⅲb		1			
	11	H-7	21		覆土1上	Ⅲb		1			
	12	H-7	27		Ⅱ層下	Ⅲb		7			
	13	H-7	25		Ⅱ層	Ⅲb		2			
	14	H-7	23		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	15	H-7	5		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	16	H-7	8		Ⅱ層	Ⅲb		2			
	17	H-7	17		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	18	H-7	23		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	19	H-7	6		Ⅰ層	Ⅲb		1			
	20	H-7	23		Ⅱ層	Ⅲb		1			
図Ⅱ-14	1	H-8	6		覆土	Ⅲb		3			
	2	H-8	3		Ⅱ層	Ⅲb		4			
	3	H-8	4		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	4	H-8	4		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	5	H-8	7		覆土	Ⅲb		1			
	6	H-8	1		覆土	Ⅲb		1			
	7	H-8	5		覆土	Ⅲb		1			
	8	H-8	1		Ⅱ層	Ⅲb	1				
			15		Ⅱ層	Ⅲb	1	2			
	9	H-8	4		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	10	H-8	10		覆土	Ⅲb		1			
	11	H-8	6		覆土	Ⅲb		1			
	12	H-8	2		覆土	Ⅲb		3			
	13	H-8	5		覆土	Ⅲb		1			
	14	H-8	7		覆土	Ⅲb		1			
	15	H-8	12		床面	Ⅲb		1			
	16	H-8	11		床面	Ⅲb		5			
図Ⅱ-15	1	H-9	28	HF-1	床	Ⅲb		3			
	2	H-9	21	HF-1	床	Ⅲb		1			
	3	H-9	26	HF-1	床	Ⅲb		1			
	4	H-9	23		床	Ⅲb	1				
			24	HF-1	床	Ⅲb	1				
			25		床	Ⅲb	1	3			
図Ⅱ-16	5	H-9	12		床直	Ⅲb		1			
	6	H-9	27	HF-1	床	Ⅲb		1			
	7	H-9	16		床直	Ⅲb		2			
	8	H-9	2		覆土	Ⅲb	1				
			11		覆土	Ⅲb	18	19			
	9	H-9	2		覆土	Ⅲb	1				
			4		覆土	Ⅲb	4				
			11		覆土	Ⅲb	5	10			

図版番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	付属遺構	層位	分類	小計	合計	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)
図Ⅱ-16	10	H-9	4		覆土	Ⅲb		1			
	11	H-9	6		覆土	Ⅲb		1			
	12	H-9	6		覆土	Ⅲb		1			
	13	H-9	5		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	14	H-9	9		Ⅱ層	Ⅲb		1			
	15	H-9	10	HP-1	覆土	Ⅲb		2			
図Ⅱ-18	1	H-10	31		床	Ⅲb		31	(13.1)	6.9	(10.0)
図Ⅱ-19	2	H-10	30		床	Ⅲb		2			
	3	H-10	5		覆土2	Ⅲb		1			
	4	H-10	23	HP-3	覆土	Ⅲb		1			
	5	H-10	19		覆土下	Ⅲb		1			
図Ⅱ-21	1	H-12	1-2	HP-1	床	Ⅲb		50	12.9	(6.5)	19.5
	2	H-12	1-2	HP-2	床	Ⅲb		47	23.8	(16.6)	(21.7)
図Ⅱ-22	3	H-12	44		覆土上	Ⅳa	1				
			6		覆土中	Ⅳa	2	3			
	4	H-12	20		覆土上	Ⅳa		1			
	5	H-12	14		覆土上	Ⅳa		1			
	6	H-12	19		覆土上	Ⅳa		1			
図Ⅱ-24	1	H-14	15		覆土壁	Ⅲb		1			
図Ⅱ-26	1	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	2	P-30	5		覆土	Ⅲb		6			
	3	P-30	1		覆土	Ⅲb		2			
	4	P-30	7		覆土	Ⅲb		2			
	5	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	6	P-30	7		覆土	Ⅲb		1			
	7	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	8	P-30	8		覆土	Ⅲb		1			
	9	P-30	1		覆土	Ⅲb		1			
	10	P-30	7		覆土	Ⅲb		1			
	11	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	12	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	13	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	14	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	15	P-30	1		覆土	Ⅲb		1			
	16	P-30	1		覆土	Ⅲb		1			
	17	P-30	3		覆土	Ⅲb		1			
	18	P-30	4		覆土	Ⅲb	1	1			
	25	P-31	5		覆土下	Ⅲb		1			
	26	P-31	4		覆土下	Ⅲb		1			
	27	P-31	7		覆土下	Ⅲb		1			
図Ⅱ-27	3	P-36	1		覆土1	Ⅲb		31			
	4	P-36	1		覆土1	Ⅲb		2			
図Ⅱ-29	1	P-37	1-2-5-7-10		覆土6	Ⅳa		16	(34.7)	(15.6)	(44.8)
	2	P-37	81		焼土中	Ⅳa		2			
	3	P-37	28		焼土上	Ⅳa		1			
	4	P-37	8		焼土下	Ⅳa		1			
	5	P-37	16		焼土上	Ⅳa		1			
	6	P-37	22		焼土上	Ⅳa		1			
	7	P-37	63		焼土上	Ⅳa		1			
	8	P-37	17		焼土上	Ⅳa		1			
図Ⅱ-30	1	P-41	1		覆土	Ⅲb		1			
図Ⅱ-36	1	F-12	1		焼土1	Ⅲb		1			
	2	F-12	1		焼土1	Ⅲb		1			
図Ⅱ-37	1	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		3			
	2	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		1			
	3	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		2			
	4	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		1			
	5	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		1			
	6	F-16	2		Ⅲ層	Ⅳa		3			
図Ⅱ-40	1	F-31	8		Ⅱ層	Ⅳa		1			
図Ⅱ-44	4	FL-30	4		Ⅱ層	Ⅰb-4		1			
	5	FL-30	4		Ⅱ層	Ⅰb-4	1	1			
		Q63	10		Ⅲ層	Ⅰb-4	1	2			
	6	FL-30	4		Ⅱ層	Ⅰb-4		1			
図Ⅱ-47	1	FL-23	26		Ⅱ層中	Ⅲb		1			
	2	FL-23	9		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	3	FL-23	9		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	4	FL-23	13		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	5	FL-23	33		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	6	FL-23	14		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	7	FL-23	13		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	8	FL-23	17		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	9	FL-23	19		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	10	FL-23	13		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	11	FL-23	17		Ⅱ層中	Ⅱa		1			
	12	FL-23	33		Ⅱ層中	Ⅳa		1			
図Ⅱ-53	4	FL-26	3		Ⅱ層中	Ⅰb-4		2			
	5	FL-26	3		Ⅱ層中	Ⅰb-4		1			
	6	FL-26	3		Ⅱ層中	Ⅰb-4		1			
	7	FL-26	3		Ⅱ層中	Ⅰb-4		1			
	8	FL-26	3		Ⅱ層中	Ⅰb-4		1			
	9	FL-27	23		Ⅱ層	Ⅰb-4		1			
	10	FL-27	22		Ⅱ層	Ⅰb-4		1			
	11	FL-27	19		Ⅱ層	Ⅳa		1			

表Ⅴ-7　遺構掲載石器・石製品一覧

図版番号	掲載番号	遺構名 調査区	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質
図Ⅱ-2	11	H-3	覆土5層	スクレイパー	7.05	3.21	0.79	14.7	頁岩
	12	H-3	床直	スクレイパー	7.45	4.31	1.36	40.9	頁岩
	13	H-3	床直	Uフレイク	7.07	4.14	1.62	46.1	頁岩
	14	H-3	床直	Uフレイク	4.24	2.20	0.63	5.3	頁岩
	15	H-3	覆土4層	石錐	4.25	4.45	0.78	8.7	頁岩
	16	H-3	覆土5層	たたき石	17.80	8.15	5.40	1144.9	安山岩
	17	H-3	覆土5層	たたき石	16.90	7.34	5.94	958.0	安山岩
図Ⅱ-3	3	H-4	覆土層	石槍	9.49	3.38	1.68	49.7	頁岩
図Ⅱ-4	6	H-5	覆土層下	石錐	4.23	1.92	0.99	6.7	頁岩
図Ⅱ-7	10	H-6	床	石錐	3.75	1.69	0.31	1.7	頁岩
	11	H-6	覆土1層	スクレイパー	3.80	1.97	1.09	4.6	黒曜石
	12	H-6	床	スクレイパー	6.38	2.00	0.90	8.8	頁岩
	13	H-6	床	スクレイパー	10.84	3.60	2.37	75.7	頁岩
	14	H-6	床	Uフレイク	9.88	5.81	1.54	84.2	頁岩
	15	H-6	覆土層下	スクレイパー	7.71	4.38	1.36	41.4	頁岩
	16	H-6	覆土1層	スクレイパー片	(4.45)	5.55	1.15	20.3	頁岩
	17	H-6	覆土1層	三角形石製品	5.41	6.87	1.59	43.1	凝灰岩
	18	H-6	覆土層下	たたき石	14.57	6.51	4.15	743.5	安山岩
	19	H-6	覆土層下	石皿片	(9.68)	(15.77)	5.76	(967.9)	安山岩
図Ⅱ-11	21	H-7	床直	石錐	(4.06)	1.94	0.49	(2.6)	黒曜石
	22	H-7	床直	石錐	4.75	2.02	0.68	4.2	頁岩
	23	H-7	床直	石錐	5.38	(2.43)	0.65	(6.0)	黒曜石
	24	H-7	Ⅱ層	石錐	3.62	1.16	0.55	2.1	頁岩
	25	H-7	覆土層	スクレイパー	4.37	2.87	1.01	11.1	頁岩
	26	H-7	覆土1層	スクレイパー	7.04	3.62	0.98	28.7	頁岩
	27	H-7	覆土1層	スクレイパー	8.37	5.14	1.84	60.6	頁岩
図Ⅱ-12	28	H-7HP-2	覆土層	スクレイパー	6.70	3.43	0.94	21.8	頁岩
	29	H-7	床直	スクレイパー	6.89	3.72	1.40	32.4	頁岩
	30	H-7	床直	Uフレイク	6.97	3.65	0.42	13.2	頁岩
	31	H-7	覆土層	スクレイパー	7.75	5.29	1.05	53.4	頁岩
	32	H-7	覆土1層	礫器	11.26	9.10	4.82	(580.6)	泥岩
	33	H-7	Ⅱ層	たたき石	8.86	6.18	3.09	234.0	頁岩
	34	H-7	覆土層	すり石	10.27	(10.46)	3.92	(547.5)	安山岩
	35	H-7	覆土1層	扁平打製石器	7.07	14.75	1.36	(168.6)	凝灰岩
	36	H-7P-30	覆土1・覆土層	扁平打製石器	11.07	14.95	3.91	735.3	安山岩
	37	H-7	Ⅱ層	石鏃	4.46	7.03	1.21	43.0	凝灰岩
	38	H-7	Ⅱ層	台石	19.70	24.70	9.02	6000.0	頁岩
図Ⅱ-16	16	H-9	覆土層	石錐	2.65	1.36	0.41	1.7	頁岩
	17	H-9	覆土層	Rフレイク	5.95	2.80	0.90	11.4	頁岩
	18	H-9	覆土壁	Uフレイク	7.62	4.55	0.63	19.6	頁岩
	19	H-9	覆土層	Uフレイク	8.38	4.58	1.14	46.1	頁岩
図Ⅱ-19	6	H-10	覆土層下	石錐	1.69	1.15	0.41	0.1	頁岩
	7	H-10	覆土層下	スクレイパー	5.79	3.81	1.08	25.6	頁岩
	8	H-10	覆土層下	スクレイパー	7.12	3.91	1.27	44.9	頁岩
	9	H-10	覆土層下	Uフレイク	9.56	3.48	0.78	25.4	頁岩
	10	H-10	覆土壁	石斧	8.06	3.73	1.07	55.4	頁岩
	11	H-10	覆土層下	すり石	8.75	15.71	4.01	808.3	頁岩
図Ⅱ-22	7	H-12	床	石錐	4.04	1.52	0.36	2.0	頁岩
	8	H-12	床	石錐	4.41	1.64	0.58	3.3	頁岩
	9	H-12	覆土層上	つまみ付ナイフ	8.71	5.11	1.82	70.4	頁岩
	10	H-12	床	スクレイパー	7.65	3.65	1.02	32.8	頁岩
	11	H-12	床	スクレイパー	6.34	4.42	0.99	34.4	頁岩
	12	H-12	床	石核	4.32	8.14	3.01	88.1	頁岩
	13	H-12	床	石斧	(9.56)	3.88	2.51	(182.4)	泥岩
	14	H-12	床	砥石	13.17	10.49	2.17	413.3	砂岩
図Ⅱ-24	2	H-14	覆土層下	石斧	10.97	5.09	2.00	151.4	緑色泥岩
図Ⅱ-26	19	P-30	覆土層	石錐	2.41	1.32	0.29	0.8	頁岩
	20	P-30	床直	石槍	6.55	1.93	0.95	12.0	頁岩
	21	P-30	覆土層	スクレイパー	8.21	3.64	1.78	49.3	頁岩
	22	P-30	床直	たたき石	9.84	8.42	4.56	558.2	砂岩

図版番号	掲載番号	遺構名 調査区	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質
	23	P-30	床直	たたき石	5.65	4.99	2.82	116.6	珪岩
	24	P-30	覆土層	三角形石製品	5.45	5.55	2.28	53.1	凝灰岩
	28	P-31	覆土層下	スクレイパー	7.92	3.53	0.79	28.8	頁岩
図Ⅱ-27	1	P-35	底	つまみ付ナイフ	9.27	4.17	0.76	29.4	頁岩
	2	P-35	底	つまみ付ナイフ	11.48	3.87	0.65	33.2	頁岩
図Ⅱ-29	9	P-37	覆土層上	たたき石	7.25	5.45	3.64	215.3	泥岩
図Ⅱ-42	1	FL-18	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	9.44	3.08	1.03	26.0	頁岩
	2	FL-18	Ⅱ層	両面調整石器	14.96	7.31	4.10	339.1	頁岩
	3	FL-18	Ⅱ層	スクレイパー	10.44	7.24	3.08	235.7	頁岩
	4	FL-18	Ⅱ層	スクレイパー	11.29	6.75	1.69	138.3	頁岩
図Ⅱ-44	1	FL-19	Ⅱ層中	両面調整石器	(5.20)	4.36	1.35	(28.6)	頁岩
図Ⅱ-43	1	FL-20	Ⅱ層中	つまみ付ナイフ	5.70	2.39	0.77	11.3	頁岩
	2	FL-20	Ⅱ層中	スクレイパー	(5.85)	4.01	1.06	(23.4)	頁岩
	3	FL-20	Ⅱ層中	スクレイパー	(4.40)	3.78	0.65	(12.1)	頁岩
	4	FL-20	Ⅱ層中	スクレイパー	7.87	13.15	1.62	157.7	頁岩
	5	FL-20	Ⅱ層中	スクレイパー	9.04	5.62	1.76	73.7	頁岩
	6	FL-20	Ⅱ層中	両面調整石器	(12.15)	4.78	2.66	(138.4)	頁岩
	7	FL-20	Ⅱ層中	たたき石	6.37	7.22	3.64	216.2	頁岩
図Ⅱ-45	1	FL-21	Ⅱ層中	両面調整石器	(5.92)	3.11	1.61	(22.9)	珪岩
	2	FL-21	Ⅱ層中	両面調整石器	7.51	8.29	2.17	132.2	頁岩
	3	FL-21	Ⅱ層中	両面調整石器	6.99	13.56	2.87	247.0	頁岩
	4	FL-21	Ⅱ層中	両面調整石器	18.02	7.51	3.36	339.8	頁岩
	5	FL-21	Ⅱ層中	スクレイパー	(4.86)	2.78	0.92	(9.8)	頁岩
	6	FL-21	Ⅱ層中	スクレイパー	7.67	6.01	2.49	110.9	頁岩
	7	FL-21	Ⅱ層中	たたき石	7.52	5.48	2.77	143.7	頁岩
図Ⅱ-46	1	FL-22	Ⅱ層中	スクレイパー	7.32	4.68	1.50	43.2	頁岩
	2	FL-22	Ⅱ層中	スクレイパー	7.75	5.36	1.33	55.4	頁岩
	3	FL-22	Ⅱ層中	スクレイパー	7.58	3.91	1.54	50.6	頁岩
	4	FL-22	Ⅱ層中	スクレイパー	(4.98)	6.50	1.02	(31.5)	頁岩
	5	FL-22	Ⅱ層中	Rフレイク	9.28	5.07	1.54	61.4	頁岩
	6	FL-22	Ⅱ層中	Uフレイク	8.27	4.66	1.35	35.1	頁岩
図Ⅱ-47	13	FL-23	Ⅱ層中	石錐	3.99	1.54	0.56	3.8	頁岩
	14	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	6.69	4.19	1.40	37.5	頁岩
	15	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	(6.71)	4.68	1.33	(49.0)	頁岩
図Ⅱ-48	16	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	12.63	8.58	3.99	304.7	頁岩
	17	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	13.44	8.70	3.48	334.8	頁岩
	18	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	12.55	5.87	3.85	301.3	頁岩
	19	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	8.73	7.02	1.79	82.4	頁岩
図Ⅱ-49	20	FL-23	Ⅱ層中	スクレイパー	11.34	8.12	2.35	176.3	頁岩
	21	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器	8.25	6.06	3.11	126.9	頁岩
	22	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器	(10.29)	4.38	1.89	(80.9)	頁岩
	23	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器	(9.38)	7.74	2.40	(152.1)	頁岩
図Ⅱ-50	24	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器片	(12.15)	9.68	4.12	(441.2)	頁岩
	25	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器	13.16	5.18	1.43	88.9	頁岩
	26	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器	14.15	6.28	2.38	172.0	頁岩
	27	FL-23	Ⅱ層中	半円状扁平打製石器	10.00	6.96	4.54	336.3	頁岩
	28	FL-23	Ⅱ層中	たたき石	(6.91)	6.78	6.51	(393.3)	珪岩
	29	FL-23	Ⅱ層中	たたき石	10.24	7.51	7.66	604.8	珪岩
図Ⅱ-51	30	FL-23	Ⅱ層中	接合資料	16.50	21.40	8.90	1225.0	珪岩
図Ⅱ-52	31	FL-23	Ⅱ層中	両面調整石器接合資料	23.40	6.90	5.10	590.0	珪岩
図Ⅱ-53	1	FL-24	Ⅱ層中	両面調整石器	8.39	5.22	2.63	68.5	頁岩
	2	FL-24	Ⅱ層中	スクレイパー	7.92	5.38	1.66	63.4	頁岩
	3	FL-24	Ⅱ層中	スクレイパー	9.61	4.04	1.56	55.1	頁岩
	12	FL-27	Ⅱ層	石錐	1.42	0.77	0.19	0.2	頁岩
	13	FL-27	Ⅱ層	石錐	1.61	0.7	0.16	0.2	頁岩
	14	FL-27	Ⅱ層	石錐	1.77	0.86	0.19	0.3	頁岩
	15	FL-27	Ⅱ層	スクレイパー	5.59	2.20	0.67	7.0	頁岩
	16	FL-27	Ⅱ層	スクレイパー	1.76	2.41	0.48	2.3	頁岩
図Ⅱ-44	2	FL-28	Ⅱ層	スクレイパー	3.17	3.42	0.88	7.8	頁岩
	3	FL-30	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	(4.48)	(2.02)	(0.56)	(4.2)	頁岩

表Ⅴ-8　包含層掲載土器一覧

図版番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	層位	分類	小計	合計	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)
図Ⅲ-1	1	Q63	10	Ⅲ層	Ⅰb-4		2			
	2	i36	5	Ⅱ層	Ⅰb-4		1			
	3	h54	6	撹乱	Ⅰb-4		1			
	4	m49	4	Ⅱ層	Ⅰb-4	4				
		m49	3	Ⅱ層	Ⅰb-4	1				
		m49	1	Ⅱ層	Ⅰb-4	7	12			
	5	t63	2	Ⅱ層	Ⅱa		3			
	6	y48	3	Ⅱ層	Ⅱa		1			
	7	v63	2	Ⅱ層	Ⅱa		1			
	8	s60	3	Ⅱ層	Ⅱa		3			
	9	x62	1	Ⅱ層	Ⅱa		5			
	10	x62	1	Ⅱ層	Ⅱb		1			
	11	z43	4	Ⅱ層	Ⅱb		4			
	12	A45	1	Ⅱ層	Ⅱb		2			
	13	u55	1	Ⅱ層	Ⅱb		1			
	14	x44	2	Ⅰ層	Ⅱb		1			
	15	H57	4	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	16	y48	3	Ⅱ層	Ⅲb		2			
	17	z45	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	18	v48	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	19	v47	1	Ⅱ層	Ⅲb		2			
	20	z49	2	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	21	w47	1	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	22	y47	4	Ⅱ層	Ⅲb	5				
		y46	3	Ⅱ層	Ⅲb	2	7			
	23	y47	4	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	24	u45	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	25	y47	5	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	26	y48	4	風倒木	Ⅲb	1				
		y49	2	Ⅰ層	Ⅲb	2				
		s53	1	Ⅱ層	Ⅲb	1	4			
	27	w46	2	Ⅱ層	Ⅲb		7			
	28	y47	4	Ⅱ層	Ⅲb		5			
	29	z43	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	30	A46	1	Ⅱ層	Ⅲb		1			
図Ⅲ-2	31	A44	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	32	A46	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	33	z44	5	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	34	p55	1	Ⅱ層	Ⅲb		3			
	35	x53	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	36	z50	1	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	37	y54	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	38	u50	2	Ⅱ層	Ⅲb		2			
	39	z51	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	40	A46	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	41	A44	3	Ⅱ層	Ⅲb		3			
	42	S62	11	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	43	x47	2	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	44	R65	7	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	45	w47	5	Ⅱ層	Ⅲb		3			
	46	v45	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	47	Q64	14	Ⅱ層	Ⅲb		3			
	48	q50	1	Ⅰ層	Ⅲb		1			
	49	R63	15	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	50	y51	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	51	z46	2	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	52	n49	6	Ⅱ層	Ⅲb	4				
		o49	2	Ⅱ層	Ⅲb	1	5			
	53	z52	1	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	54	n49	5	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	55	A45	1	Ⅱ層	Ⅲb		2			
	56	F75	1	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	57	z54	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	58	v53	3	Ⅱ層	Ⅲb		1			
	59	j54	1	Ⅱ層	Ⅳa	3				
		j54	5	Ⅱ層	Ⅳa	2	5			
	60	j52	4	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	61	j53	3	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	62	i54	3	Ⅱ層	Ⅳa	1				

図版番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	層位	分類	小計	合計	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)
図Ⅲ-2	62	i54	2	Ⅱ層	Ⅳa	1				
		t52	1	Ⅱ層	Ⅳa	1	3			
	63	i54	2	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	64	j53	8	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	65	R63	15	Ⅱ層	Ⅳa		3			
	66	o52	9	Ⅰ層	Ⅳa		1			
	67	R63	15	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	68	q59	1	Ⅱ層	Ⅳa		1			
図Ⅲ-3	69	S63	24	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	70	n50	1	Ⅱ層	Ⅳa		13	(12.0)	(4.8)	9.7
	71	R64	8	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	72	R64	8	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	73	R64	5	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	74	S63	24	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	75	R63	29	Ⅲ層	Ⅳa		2			
	76	R64	5	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	77	k51	2	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	78	j52	6	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	79	j52	6	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	80	H69	7	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	81	o49	4	Ⅰ層	Ⅳa		3			
	82	n53	8	Ⅰ層	Ⅳa		1			
	83	j51	1	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	84	o49	2	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	85	n50	8	Ⅱ層	Ⅳa		31	(27.6)	10.9	(29.8)
	86	j51	1	Ⅱ層	Ⅳa		3			
	87	j52	6	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	88	i53	4	Ⅱ層	Ⅳa	3				
		j56	1	Ⅱ層	Ⅳa	2	5			
図Ⅲ-4	89	n49	5	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	90	n53	8	Ⅰ層	Ⅳa		2			
	91	m・n49	3・8	Ⅱ層	Ⅳa		17	(17.3)	(12.9)	(4.9)
	92	n54	2	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	93	S63	24	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	94	Q63	9	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	95	R63	30	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	96	r52	3	Ⅲ層	Ⅳa		1			
	97	n51	8	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	98	z52	3	Ⅱ層	Ⅳa		3			
	99	m49	8	Ⅲ層	Ⅳa		1			
	100	n52	4	Ⅰ層	Ⅳa	1				
		p50	3	Ⅱ層	Ⅳa	2	3			
	101	j51	3	Ⅱ層	Ⅳa	1				
		r51	10	Ⅱ層	Ⅳa	1	2			
	102	j52	3	Ⅱ層	Ⅳa	3				
		j53	3	Ⅱ層	Ⅳa	2	5			
	103	R64	4	Ⅱ層	Ⅳa		3			
	104	R63	30	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	105	g58	3	Ⅱ層	Ⅳa		16			
図Ⅲ-5	106	n53・54	2・5	Ⅱ層	Ⅳa		25	(30.4)	(16.8)	(41.9)
	107	i54	2	Ⅱ層	Ⅳa		4			
	108	n49	5	Ⅱ層	Ⅳa		5			
	109	j52	7	Ⅲ層	Ⅳa		1			
	110	j51	3	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	111	k50	2	Ⅱ層	Ⅳa		1			
	112	o53	2	Ⅰ層	Ⅳa	1				
		o54	2	Ⅱ層	Ⅳa	1	2			
	113	n49	4	Ⅰ層	Ⅳa	3				
		n49	5	Ⅱ層	Ⅳa	1	4			
	114	n56	1	Ⅰ層	Ⅳa	3				
		o53	2	Ⅰ層	Ⅳa	4	7			
	115	n53	17	Ⅱ層	Ⅳa		2			
	116	o53	2	Ⅰ層	Ⅳa		3			
	117	n53	1	撹乱	Ⅳa		1			
	118	n53	8	Ⅰ層	Ⅳa		1			
	119	j52	7	Ⅲ層	Ⅳa	1				
		j53	6	Ⅱ層	Ⅳa	1	2			
	120	w52	4	Ⅱ層	Ⅴb		6			
	121	Q66	1	Ⅱ層	Ⅳc		2			

表V－9　包含層掲載石器・石製品一覧

挿図番号	掲載番号	遺構名 調査区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
図Ⅲ-6	1	y56	2	Ⅲ層	有舌尖頭器	(9.70)	3.73	1.09	(45.9)	頁岩
	2	J52	12	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	9.29	2.80	0.78	17.6	頁岩
	3	J52	18	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	10.04	3.19	1.32	42.5	頁岩
	4	w48	4	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	7.34	2.41	0.92	14.2	頁岩
	5	J55	4	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	7.01	2.13	0.98	13.5	頁岩
	6	y64	6	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	16.78	7.05	2.78	374.0	頁岩
	7	y64	6	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	12.37	3.70	1.15	54.5	頁岩
	8	u67v66	1・2	Ⅱ・Ⅰ層	石槍・両面調整石器	22.22	7.28	2.11	381.7	頁岩
	9	v57	22	Ⅱ層	石槍・両面調整石器	12.52	4.77	2.34	152.0	頁岩
図Ⅲ-7	10	O63	1	近世流路跡	石錐	2.14	0.89	0.23	0.4	頁岩
	11	v55	3	Ⅱ層	石錐	2.61	0.95	0.20	0.6	黒曜石
	12	k53	4	Ⅱ層	石錐	2.53	0.94	0.23	0.5	頁岩
	13	M67	1	Ⅱ層	石錐	2.81	1.73	0.24	0.9	黒曜石
	14	v48	14	Ⅱ層	石錐	2.93	1.73	0.32	1.4	頁岩
	15	n49	35	Ⅱ層	石錐	3.53	1.83	0.37	1.7	頁岩
	16	x53	17	Ⅱ層	石錐	2.44	1.95	0.36	1.4	頁岩
	17	y52	4	Ⅱ層	石錐	3.53	1.48	0.35	1.5	頁岩
	18	v61	31	Ⅱ層	石錐	2.65	1.83	0.54	2.0	頁岩
	19	v61	28	Ⅱ層	石錐	3.55	1.11	0.50	1.6	頁岩
	20	w54	5	Ⅱ層	石錐	4.12	1.32	0.56	2.0	頁岩
	21	J54	9	Ⅱ層	石錐	3.62	1.32	0.70	2.5	頁岩
	22	k53	3	Ⅱ層	石錐	2.27	1.32	0.54	1.5	頁岩
	23	k50	9	Ⅱ層	石錐	3.08	1.57	0.45	1.2	頁岩
	24	k51	13	Ⅱ層	石錐	2.88	1.38	0.52	1.1	頁岩
	25	t59	1	Ⅰ層	石錐	2.89	1.48	0.47	1.3	頁岩
	26	J54	13	Ⅱ層	石錐	2.91	1.80	0.65	2.9	頁岩
	27	J56	2	Ⅱ層	石錐	2.98	1.80	0.56	2.8	頁岩
	28	k55	3	Ⅱ層	石錐未成品	3.96	1.36	0.63	2.4	頁岩
	29	v63	11	Ⅱ層	石錐	3.29	1.20	0.49	1.7	頁岩
	30	s60	10	Ⅱ層	石錐	4.05	1.80	1.01	5.8	頁岩
	31	o55	27	Ⅰ層	石錐	6.74	1.95	0.56	7.2	頁岩
	32	p51	23	Ⅱ層	石錐	5.19	4.97	2.10	40.0	頁岩
	33	n55	8	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	2.61	1.43	0.31	1.2	メノウ
	34	q60	7	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	3.68	2.05	0.39	3.2	頁岩
	35	h57	2	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	4.37	2.24	0.47	4.7	頁岩
	36	u57	31	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	5.41	3.02	0.51	8.5	メノウ
	37	x57	3	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	5.78	2.96	0.72	10.4	頁岩
	38	P72	1	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	7.73	3.31	0.74	15.6	頁岩
	39	p49	6	Ⅰ層	つまみ付ナイフ	10.58	3.99	0.75	30.4	頁岩
	40	A46	9	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	11.11	3.17	0.82	27.8	頁岩
図Ⅲ-8	41	t57	3	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	7.52	2.37	0.51	12.1	頁岩
	42	l61	2	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	5.21	3.23	0.63	10.8	頁岩
	43	R65	4	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	7.51	3.15	0.45	10.5	頁岩
	44	O65	10	Ⅰ層	つまみ付ナイフ	5.61	3.12	0.64	10.5	頁岩
	45	q59	9	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	4.87	2.99	0.64	7.6	頁岩
	46	q60	6	Ⅱ層	つまみ付ナイフ	4.14	1.98	0.45	3.5	頁岩
	47	y51	11	Ⅱ層	篦状石器	6.77	3.34	1.16	28.5	頁岩
	48	y62	7	Ⅱ層	篦状石器	6.47	3.48	1.45	33.9	頁岩
	49	S62	9	Ⅱ層	篦状石器	2.97	2.04	0.60	4.7	頁岩
	50	x53	27	Ⅱ層	スクレイパー	3.47	2.77	0.71	6.1	頁岩
	51	r59	11	Ⅱ層	スクレイパー	4.23	3.14	0.94	12.8	頁岩
	52	J54	2	Ⅱ層	スクレイパー	9.26	4.91	1.36	56.1	頁岩
	53	v56	29	Ⅱ層	スクレイパー	9.03	6.32	2.77	135.5	頁岩
	54	y54	4	Ⅱ層	スクレイパー	7.91	5.11	1.72	74.5	頁岩
	55	o49	9	Ⅱ層	スクレイパー	3.25	2.85	1.14	10.3	頁岩
	56	m49	4	Ⅱ層	スクレイパー	4.18	2.58	0.93	7.4	頁岩
	57	J90	1	Ⅱ層	スクレイパー	5.73	4.78	1.10	22.0	頁岩
	58	x58	3	Ⅱ層	スクレイパー	(7.77)	4.57	1.81	65.1	頁岩
図Ⅲ-9	59	y51	1	Ⅱ層	スクレイパー	7.79	4.12	1.27	40.7	頁岩
	60	x53	2	Ⅱ層	スクレイパー	7.80	4.02	1.10	35.9	頁岩
	61	v44	1	Ⅱ層	スクレイパー	8.01	4.64	1.07	36.6	頁岩
	62	x50	7	不明	スクレイパー	10.50	6.17	1.08	6.3	頁岩
	63	J54	12	Ⅱ層	スクレイパー	8.72	4.80	1.42	61.0	頁岩
	64	u45	25	Ⅱ層	スクレイパー	9.41	4.11	1.12	42.9	頁岩
	65	z45	4	Ⅰ層	スクレイパー	10.86	4.81	1.38	86.9	頁岩
	66	z52	22	Ⅱ層	スクレイパー	7.10	3.79	0.87	26.3	頁岩
	67	u45	23	Ⅱ層	スクレイパー	(8.26)	3.72	1.47	29.6	頁岩
	68	O70	2	Ⅱ層	スクレイパー	7.46	5.78	0.44	40.4	頁岩
	69	z43	4	Ⅱ層	スクレイパー	7.69	4.49	0.99	28.0	頁岩
図Ⅲ-10	70	n55	4	Ⅱ層	スクレイパー	8.18	2.74	0.73	18.2	頁岩
	71	v48	13	Ⅱ層	スクレイパー	9.17	5.30	1.37	61.6	頁岩
	72	y48	4	Ⅱ層	スクレイパー	7.15	4.72	1.02	31.6	頁岩
	73	y64	5	Ⅱ層	スクレイパー	8.35	5.52	2.15	76.0	頁岩
	74	v45	7	Ⅱ層	スクレイパー	11.86	4.87	1.97	76.8	頁岩
	75	t50	6	Ⅱ層中	スクレイパー	4.80	7.61	1.72	54.0	頁岩

挿図番号	掲載番号	遺構名 調査区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
図Ⅲ-10	76	J52	47	Ⅱ層	スクレイパー	6.02	3.47	0.99	23.2	頁岩
	77	J51	8	Ⅱ層	スクレイパー	3.77	5.56	1.18	22.5	頁岩
	78	x48	12	Ⅱ層	スクレイパー	6.05	4.15	1.09	36.1	頁岩
	79	y49	19	Ⅱ層	Rフレイク	4.33	6.18	0.99	26.3	頁岩
	80	J52	41	Ⅱ層	Rフレイク	5.32	9.73	2.06	85.1	ガラス質安山岩
	81	t50	4	Ⅱ層	Rフレイク	3.03	3.89	0.93	11.7	頁岩
図Ⅲ-11	82	G73	2	撹乱	Rフレイク	7.53	4.57	1.54	54.0	頁岩
	83	y62	3	Ⅱ層	Rフレイク	7.83	4.87	1.97	68.5	頁岩
	84	r57	20	Ⅱ層	Rフレイク	8.18	5.14	1.92	70.9	頁岩
	85	x53	12	Ⅱ層	Rフレイク	9.89	6.33	3.26	175.1	頁岩
	86	t57	17	Ⅱ層	Rフレイク	6.77	10.91	4.80	31.0	頁岩
	87	r57	10	Ⅱ層	Rフレイク	9.50	6.55	2.74	139.9	頁岩
	88	x60	3	Ⅱ層	Rフレイク	11.48	9.37	4.15	341.7	頁岩
	89	J52	2	Ⅱ層	石核	2.46	3.50	3.38	38.4	頁岩
	90	J52	11	Ⅱ層	石核	2.12	4.96	3.08	21.4	頁岩
図Ⅲ-12	91	h57	26	Ⅱ層	石斧	8.42	6.02	1.29	104.5	泥岩
	92	n54	12	Ⅱ層	石斧	8.58	2.84	1.18	46.3	蛇紋岩
	93	o50	13	Ⅱ層	石斧	6.15	3.49	1.17	42.5	緑色泥岩
	94	m50	1	Ⅱ層	石斧	7.73	3.50	1.93	80.8	砂岩
	95	k55	8	Ⅱ層	石斧	8.08	3.88	1.42	69.3	蛇紋岩
	96	k55	7	Ⅱ層	石斧	13.20	4.02	2.61	252.3	泥岩
	97	k50	8	Ⅱ層	石斧	7.26	3.96	2.36	109.9	泥岩
	98	m51	3	Ⅱ層	石斧	5.91	1.79	0.92	18.3	泥岩
	99	z48	13	Ⅱ層	礫器	9.17	4.15	2.67	107.5	頁岩
	100	m50	3	Ⅱ層	たたき石	6.45	6.79	5.61	357.3	頁岩
	101	k51	5	Ⅱ層	たたき石	7.56	6.83	4.40	303.4	泥岩
	102	j50	5	Ⅱ層	たたき石	7.87	6.28	4.55	288.1	頁岩
	103	r49	11	Ⅰ層	たたき石	7.92	4.69	4.19	213.4	チャート
	104	p54	5	Ⅱ層	たたき石	10.02	6.27	4.52	393.4	頁岩
図Ⅲ-13	105	p51	7	Ⅱ層	たたき石	8.79	6.91	3.31	236.2	頁岩
	106	u59	5	Ⅱ層	たたき石	10.83	6.96	4.28	455.1	安山岩
	107	k55	9	Ⅱ層	たたき石	11.88	7.49	3.86	500.1	安山岩
	108	z52	12	Ⅱ層	たたき石	15.52	6.31	3.32	388.6	安山岩
	109	z46	9	Ⅱ層	たたき石	13.69	6.17	2.49	316.3	砂岩
	110	q56	6	Ⅱ層	たたき石	7.48	4.49	2.79	131.6	泥岩
	111	y64	3	Ⅱ層	たたき石	9.22	6.78	3.34	288.2	安山岩
	112	S63	18	Ⅱ層	くぼみ石	(10.92)	5.78	2.62	(168.3)	凝灰岩
	113	u46	3	Ⅱ層	くぼみ石	13.65	5.49	2.97	312.3	安山岩
	114	x53	18	Ⅱ層	くぼみ石	13.25	(7.06)	2.90	(273.6)	凝灰岩
	115	O64	16	Ⅱ層	くぼみ石	10.64	6.30	5.65	343.6	凝灰岩
	116	S64	8	Ⅱ層	くぼみ石	9.38	7.49	2.63	(196.4)	凝灰岩
	117	k50	18	Ⅱ層	くぼみ石	7.69	8.48	4.65	319.6	凝灰岩
図Ⅲ-14	118	m55	5	Ⅱ層	すり石	11.85	7.01	3.09	297.0	安山岩
	119	R64	2	Ⅱ層	すり石	14.98	(9.10)	4.13	(866.6)	安山岩
	120	k54	1	撹乱	すり石	9.59	11.53	3.66	644.0	安山岩
	121	x53	3	Ⅱ層	すり石	9.96	11.85	4.71	799.1	安山岩
	122	g59	6	Ⅱ層	すり石	13.02	8.21	4.62	595.7	安山岩
	123	G72	6	粘土下	断面三角形のすり石	4.71	11.32	3.51	228.0	安山岩
	124	t57	21	Ⅰ層	断面三角形のすり石	8.95	12.36	6.39	938.1	砂岩
	125	h53	15	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	7.35	15.08	4.04	790.5	砂岩
	126	J52	34	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	9.04	14.90	2.42	371.6	安山岩
	127	D69	2	Ⅰ層	半円状扁平打製石器	6.68	(10.88)	2.64	(298.4)	安山岩
	128	g59	8	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	7.15	11.15	2.15	153.2	凝灰岩
	129	n49	43	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	10.13	15.31	3.58	769.0	安山岩
図Ⅲ-15	130	z57	1	Ⅱ層下	半円状扁平打製石器	10.65	16.10	2.40	767.4	安山岩
	131	z57	2	Ⅱ層下	半円状扁平打製石器	9.78	16.97	3.41	848.8	砂岩
	132	i53	9	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	10.35	10.56	3.72	585.3	安山岩
	133	x50	1	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	6.93	12.45	2.57	344.6	砂岩
	134	g58	10	Ⅱ層	半円状扁平打製石器	13.80	8.11	4.45	562.8	安山岩
	135	k52	13	Ⅱ層	礫石	9.45	4.87	0.73	41.4	凝灰岩
図Ⅲ-16	136	u44	5	Ⅱ層	三角形石製品	4.70	6.69	1.44	32.0	凝灰岩
	137	z47	3	Ⅱ層	三角形石製品	6.77	6.29	2.33	74.9	凝灰岩
	138	w52	5	Ⅱ層	三角形石製品	7.23	6.55	1.93	46.1	頁岩
	139	z48	3	Ⅱ層	三角形石製品	4.19	3.98	1.48	20.0	凝灰岩
	140	u45	19	Ⅱ層	三角形石製品	6.37	6.64	1.68	60.3	泥岩
	141	z49	2	Ⅰ層	三角形石製品	13.70	6.20	2.50	316.7	凝灰岩
	142	z48	4	Ⅱ層	三角形石製品	6.15	7.05	2.28	77.9	凝灰岩
	143	y53	1	Ⅰ層	三角形石製品	5.10	5.80	1.35	28.9	泥岩
	144	z51	20	Ⅱ層	三角形石製品	5.58	4.97	1.88	35.9	頁岩
	145	t50	1	Ⅰ層	三角形石製品	4.66	5.31	1.01	25.1	泥岩
	146	x50	1	Ⅰ層	三角形石製品	5.11	5.65	1.29	26.8	凝灰岩
	147	z45	18	Ⅱ層	三角形石製品	5.32	5.42	1.35	35.3	凝灰岩
	148	t53	1	Ⅰ層	垂飾	2.85	1.88	0.36	2.2	泥岩
	149	u48	6	Ⅱ層	石製品	4.14	3.22	1.10	14.3	泥岩
	150	n49	6	Ⅱ層	石製品	9.86	7.62	4.95	489.5	安山岩

表Ⅴ-10　P-48掲載金属製品一覧

図番号	遺物名称	出土遺構	層位	取上番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
Ⅲ-33-1	銃弾	P-48	坑底	22	22.60	1.43	1.44	29.77	

表Ⅴ-11　P-48掲載木製品一覧

図番号	遺物名称	出土遺構	層位	取上番号	木取	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
Ⅲ-33-2	マッチ軸？	P-48	坑底	14	割材	モミ属	4.89	0.26	0.22	0.28	
Ⅲ-33-3	マッチ軸？	P-48	覆土7層		割材	モミ属	4.97	0.26	0.23	0.27	
Ⅲ-33-4	マッチ軸？	P-48	覆土7層		割材	モミ属	4.99	0.29	0.22	0.31	
Ⅲ-33-5	マッチ軸？	P-48	覆土7層		割材	モミ属	(4.02)	0.22	0.22	(0.18)	
Ⅲ-33-6	マッチ軸？	P-48	覆土7層		割材	モミ属	(3.02)	0.24	0.20	(0.14)	
Ⅲ-33-7	杭状木製品	P-48	覆土5層	1	心持	クリ	(48.60)	4.30	3.70	未計測	
Ⅲ-33-8	切片	P-48	覆土7層		—	ハンノキ	(3.80)	(0.90)	(0.70)	未計測	
Ⅲ-33-9	切片	P-48	坑底	8	—	広葉樹散孔材	10.80	2.20	1.10	未計測	
Ⅲ-34-10	枝切痕	P-48	坑底	2	枝	広葉樹散孔材	(34.10)	(2.80)	1.50	未計測	
Ⅲ-34-11	枝切痕	P-48	坑底	5	枝	ノリウツギ	(40.80)	(0.90)	0.80	未計測	
Ⅲ-34-12	枝切痕	P-48	坑底	3	枝	ノリウツギ	(37.10)	(4.30)	1.40	未計測	
Ⅲ-34-13	枝切痕	P-48	坑底	7	枝	ノリウツギ	(43.80)	(8.80)	1.30	未計測	
Ⅲ-34-14	枝切痕	P-48	坑底	4	枝	ノリウツギ	(74.30)	(17.30)	1.60	未計測	

Ⅵ 総　括

遺構は竪穴式住居跡12軒（H-3～14）、土坑19基（P-30～49）、Tピット4基（TP-1～4）、剥片集中15か所（FL-17～31）、焼土31か所（F-4～34）が検出されている。

竪穴式住居跡の時期はH-3～10・12・14の10軒が縄文時代中期後半（Ⅲ群b類土器）である。残るH-11・13も周溝を有することからこの時期の可能性が高い。多くが海側に近い平成24年度調査区で検出されており、これらは縄文時代中期後半の「集落」をなしていると考えられる。離れた地点から各々孤立して検出されたH-13・14も存在するが、H-13は平面など形態的に異なる部分が多く、H-14は小形で居住者数が限定されるなどこれらは「集落」を構成する住居跡と様相が異なる。縄文時代中期後半（Ⅲ群b類）の土器出土量は最も多く、土器の分布域と「集落」域とも良く重なっている。

土坑（P-30～49）は住居跡数と比較して検出数が少ない。この中で墓の可能性が高いと考えられるのがP-35・37・42である。

P-34は坑底から縄文時代早期後葉のつまみ付ナイフ2点が出土しており副葬品と考えられる。縄文時代早期後葉（Ⅰ群b-4類）の土器の数量は少なく分布傾向は認めがたいが、散点的に墓と考えられるP-35やFL-26・27・30などの遺構が検出されている。主要な活動領域ではないが埋葬や廃棄など目的を持った活動がなされていたと考えられる。また、この時期に特徴的なつまみ付ナイフが調査区全域から出土しており植物質食料の採取作業なども行われていた可能性もある。剥片集中（FL-17～31）の原石は全て頁岩である。FL-23・26・27・30のように両面調整石器やⅠ群b-4類やⅡ群a類の土器を伴うものもあることから、縄文時代早期後葉～前期頃のものが多い傾向が認められる。海に近い位置にある標高13～14mほどの緩斜面に分布する傾向が認められる。また、両面調整石器の分布域ともおおよそ重なることから石器制作時に生じた石屑を廃棄したものと考えられる。

P-37は覆土上位に焼土と炭化材、Ⅳ群a類土器を中心とした遺物群が検出されている。埋葬後、その上で火を燃やし遺物を破壊、散布した可能性がある。縄文時代後期前葉（Ⅳ群a類）の土器の出土量はⅢ群b類に次いで多く、中でも沈線文とそれに磨消縄文の施されたものが多く出土している。この時期の竪穴式住居跡はなく、P-37やF-16のような小規模な遺構が検出されているに過ぎない。これらのことから、主要な居住地はやや離れた所にあると推定され、周縁的な活動領域と考えられる。

P-42は一際深く掘り込んだ大形の土坑である。規模と形態、それと埋戻しが行われている点で墓の可能性を考えた。P-34・43は断面形にフラスコ型の特徴が認められる。また、P-36は小型の土坑であるが、覆土上にⅢ群b類土器の大形破片を配したと考えられる。性格は不明である。

近現代のものと考えられるP-47～49の3基の土坑が検出されている。P-48からは所謂「ミニエー銃」の弾丸とマッチの軸を含む木製品が出土している。また、P-47は形態と埋没状況がP-48と類似し、P-49はP-47と重複しており新しい。P-47・48に関しては規模と形態から見て墓の可能性もあるが、遺体を示す痕跡が認められなかった。3基の土坑は平成26年度調査区北西側の標高22～24mで検出された少なくとも昭和初期頃には存在したと考えられる「旧道」に沿って構築されていることから、これらは木古内町における「函館戦争」頃の様相を示す遺構の可能性がある。　（皆川）

写真図版

平成24年度　調査区　25%調査　　南から

平成25年度　調査区　発掘調査前　　北東から

図版２

平成26年度　発掘調査前　　北から

平成24年度　W54メインセクション土層

H-３　床面検出状況　　南東から

H-３　セクション　　北西から

図版 4

HP-1　検出状況　　東から

HP-1　セクション　　東から

HF-1　検出状況　　西から

HF-1　セクション　　東から

周溝　セクション　　南東から

HP-3・4　セクション　　南東から

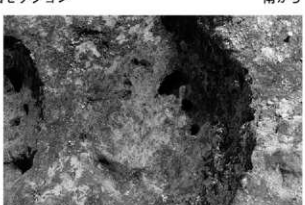
HP-5　セクション　　南東から

HP-3・4　完掘　　南東から

H-4　完掘　南から

H-4　東西セクション　南から

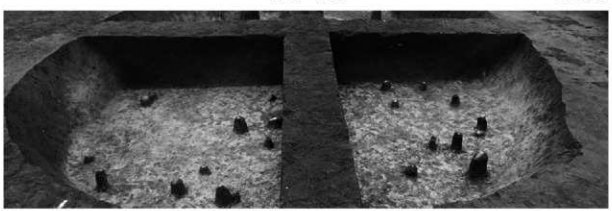
HP-1　完掘　北東から



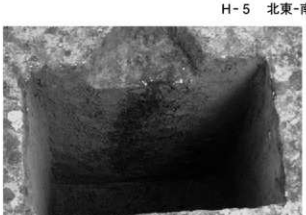
HP-2　完掘　北東から

図版 6

H-5　完掘　　南西から



H-5　北東-南西セクション　　南東から



HP-2　セクション　　北から

HP-3　セクション　　北から

H-6　完掘　　南東から

H-6　南北セクション　　東から

HP-2　セクション　　北西から

HP-3　セクション　　北西から

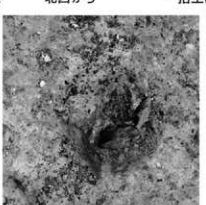
図版 8

H－7　床面検出状況　　北から

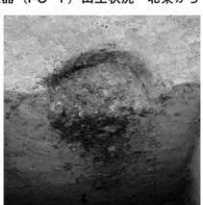
HF－1　検出状況　　北西から

一括土器（PO－1）出土状況　北東から

礫集中－1　検出状況　　西から



石鏃集中　検出状況



HP－2　セクション　　北から

H-8　焼土と炭化材　検出状況　　南東から

H-8　床面　検出状況　　南東から

HF-1　セクション　　南東から

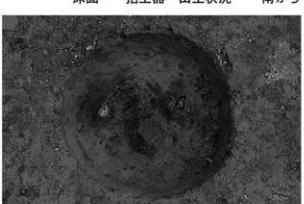
HF-1・2　セクション　　南東から

図版10

H-10　完掘　　北東から

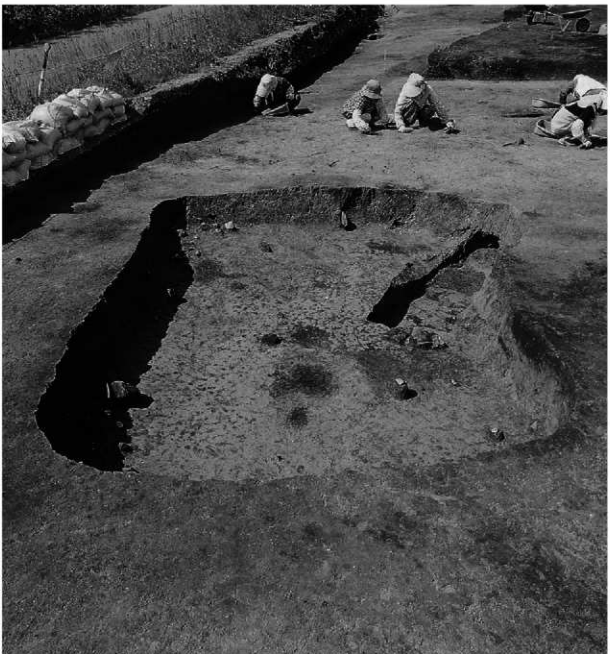
床面　一括土器　出土状況　　南から

HF-1　セクション　　北東から

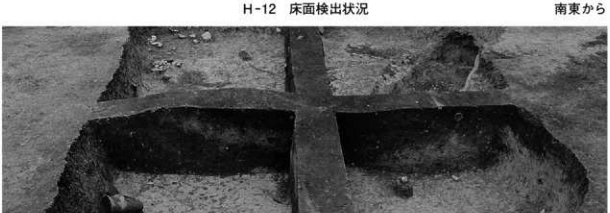


HP-3　遺物出土状況　　西から

HP-5　セクション　　北東から



H-12　床面検出状況　　南東から



東西セクション　　南東から

図版12

H-12　PO-1・S-1出土状況　　東から

H-12　PO-2出土状況　　北から

H-12　S-2出土状況　　南東から

H-10　完掘　　北東から

H-13　完掘　　西から

H-13　セクション　　西から

図版14

H-14　遺物出土状況　南東から

尖端ピット　北東から

東西セクション　南西から

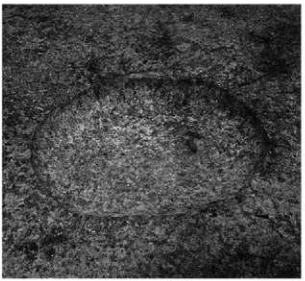
石組炉と先端ピット　北東から

石組炉　北東から

P-30　遺物出土状況　　南東から

P-30　セクション　　北西から

図版16

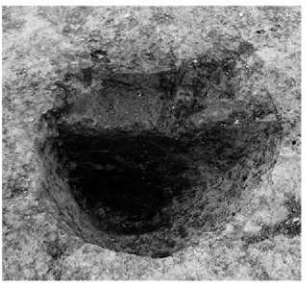


P-35　完掘　　南から

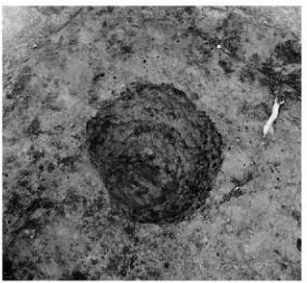
P-35　セクション　　東から

P-35　坑底面遺物出土状況　　南から

P-36　覆土土器出土状況　　南から



P-36　セクション　　南から



P-36　完掘　　南から

P-33　完掘　　南東から

P-33　セクション　　南東から

P-37　完掘　　南から

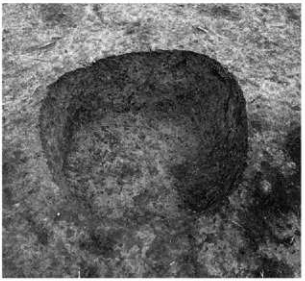
P-37　F-17北側土器出土状況　　北西から

P-37　セクションと炭化材検出状況　　南東から

図版18

P-38　完掘　　南から

P-39　完掘　　南東から

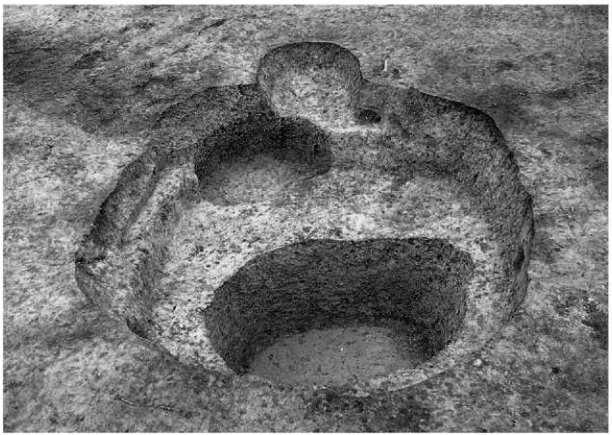


P-40　完掘　　南から

P-40　セクション　　南東から

P-41　完掘　　南から

P-41　セクション　　南から



P-42（前方）・43（後方） 完掘（H-13と重複） 西から

P-42 完掘 南西から

P-42 セクション 北東から

P-43 完掘 北西から

P-43 セクション 北西から

図版20

P-45　完掘　　南東から

P-45　セクション　　南東から

P-46　完掘　　南東から

P-46　セクション　　南東から

P-47　完掘　　南西から

P-47　セクション　　南から

P-48　坑底　木出土状況　　南西から

P-48　セクション　　南から

坑底　木出土状況　拡大　　南西から

P-48　木出土状況　　南から

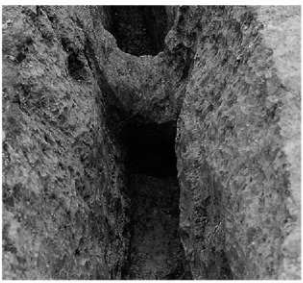
P-48　⑦層木出土状況　　南西から

P-47（後方）・P-48（前方）と旧道　南東から

図版22

TP-1　完掘　　南西から

TP-1　セクション　　南西から



TP-3　セクション　　西から

TP-3　完掘　　西から

TP-4　完掘　　西から

TP-4　セクション　　西から

FL-17　北から

FL-18　北から

FL-19　北西から

FL-21　北から

FL-22　南東から

FL-23　東から

図版24

FL-24　南南東から

FL-30　東から

FL-31　東から

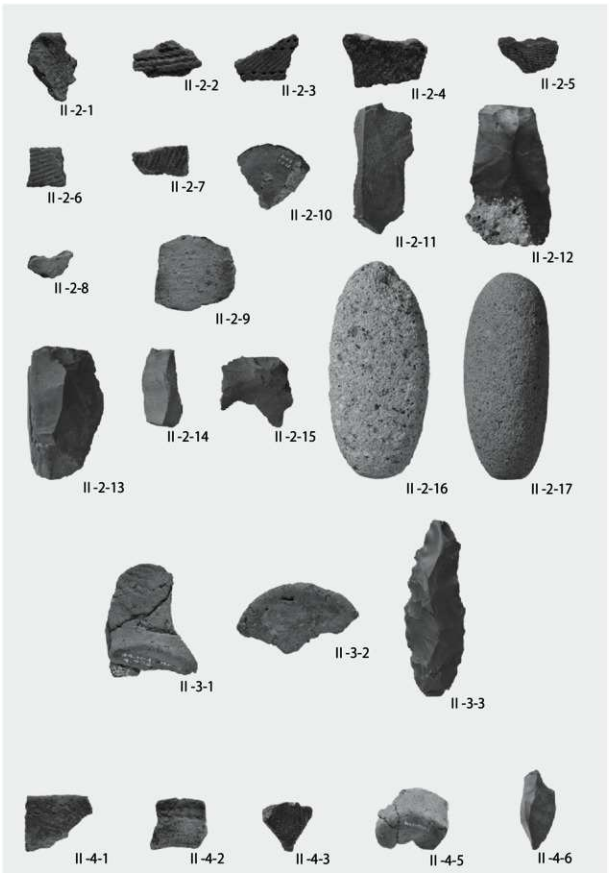
平成26年度　町道部分調査　東から

平成24年度　完掘状況　北から

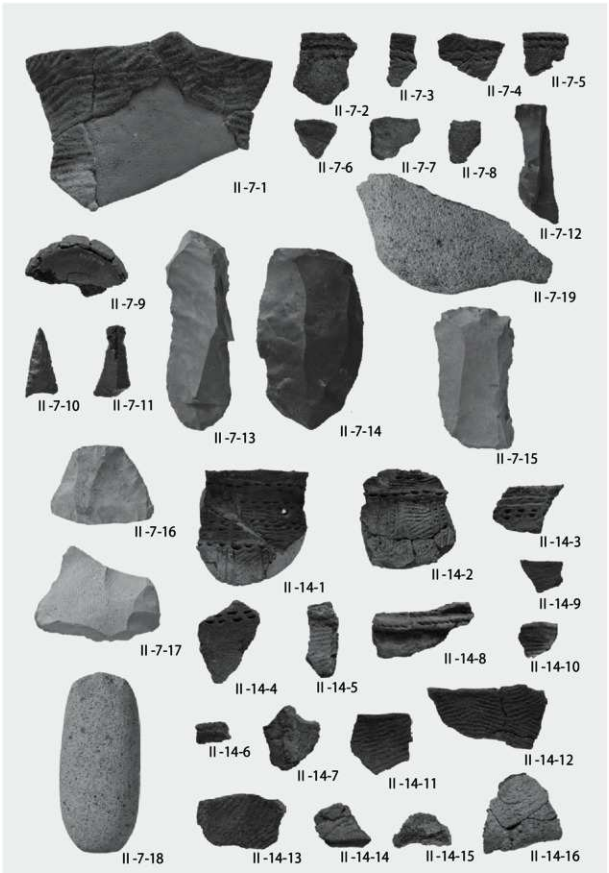
平成25年度　完掘状況　　南から

平成26年度　完掘状況　　東から

図版26

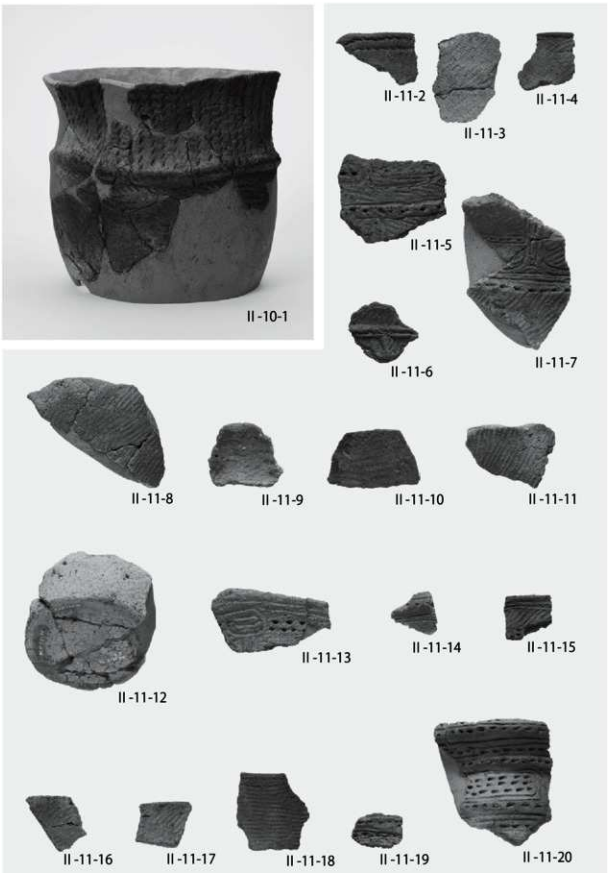


遺構の遺物（1） H-3・4・5

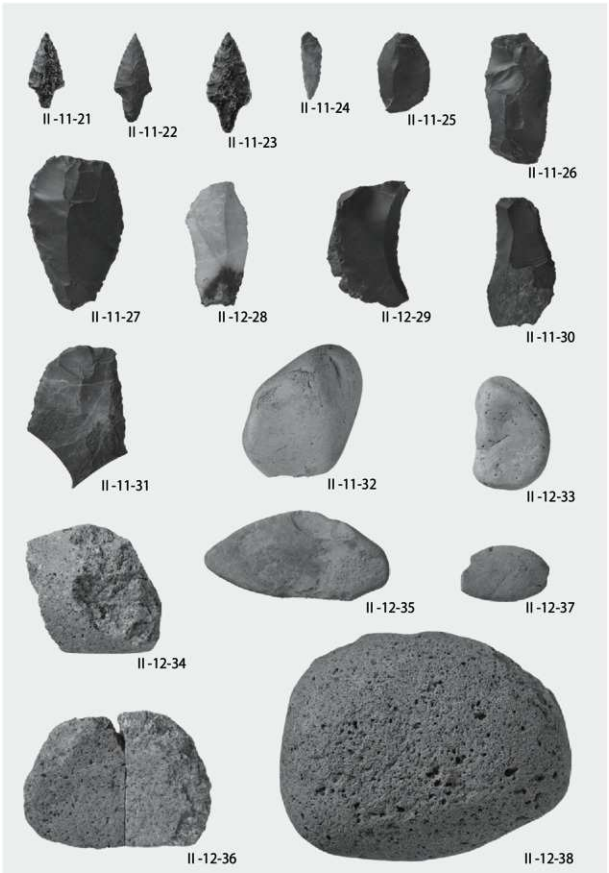

II-7-1
II-7-2
II-7-3
II-7-4
II-7-5
II-7-6
II-7-7
II-7-8
II-7-12
II-7-19
II-7-9
II-7-10
II-7-11
II-7-13
II-7-14
II-7-15
II-7-16
II-14-1
II-14-2
II-14-3
II-14-9
II-7-17
II-14-4
II-14-5
II-14-8
II-14-10
II-14-6
II-14-7
II-14-11
II-14-12
II-7-18
II-14-13
II-14-14
II-14-15
II-14-16

遺構の遺物（2） H－6・8

図版28

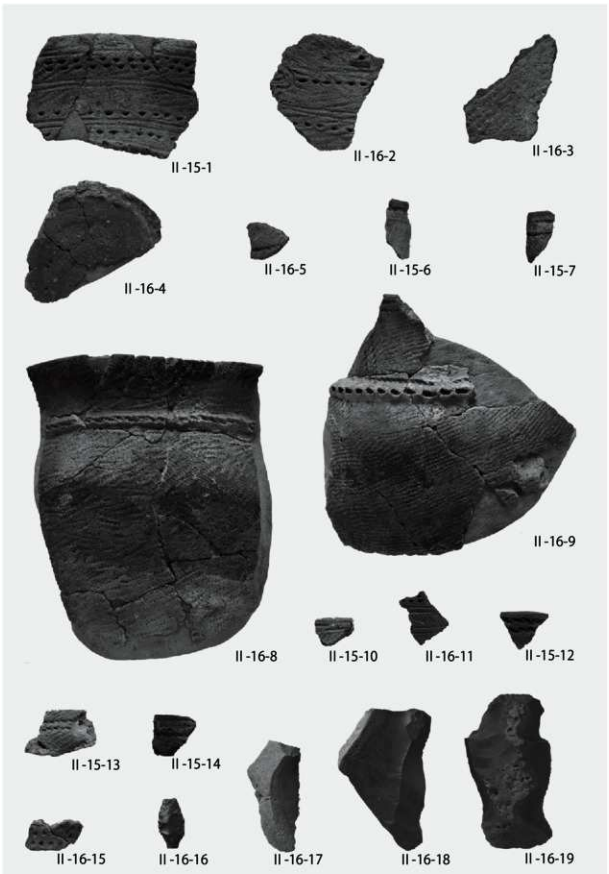


遺構の遺物（3）　H－7



図版29　遺構の遺物（4）　H－7（2）

図版30



遺構の遺物（5）　H－9

II-18-1

II-19-2

II-19-3

II-19-4

II-19-5

II-19-6

II-19-7

II-19-8

II-19-9

II-19-10

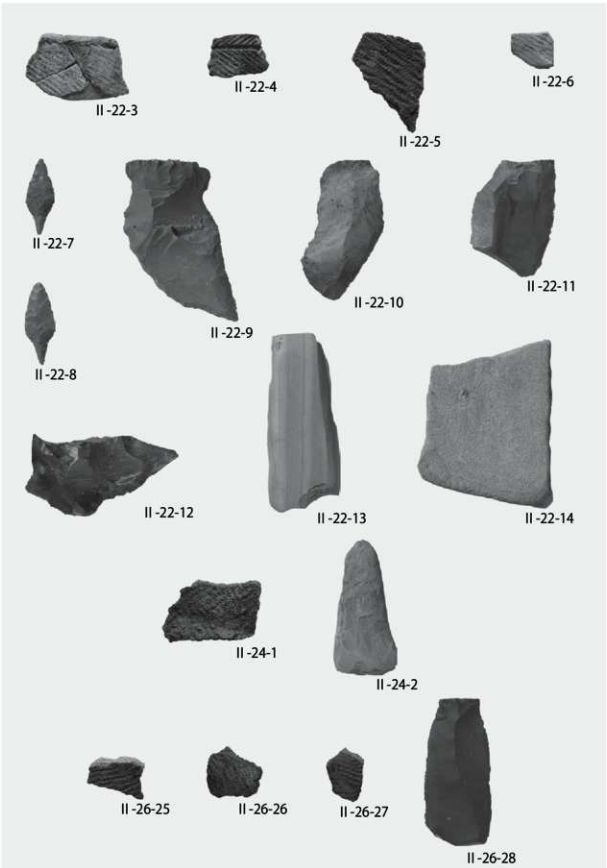
II-19-11

II-21-1

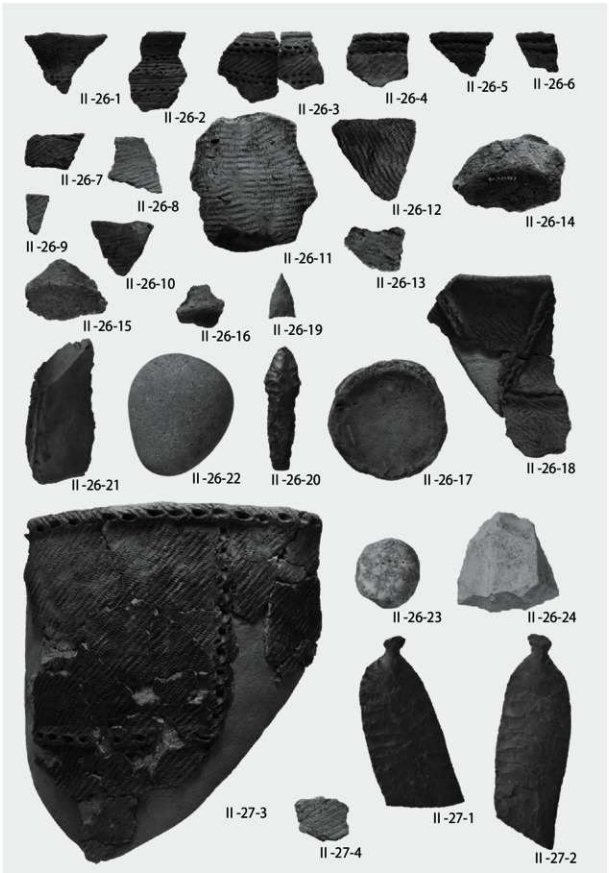
II-21-2

遺構の遺物（6）　H-10・12

図版32

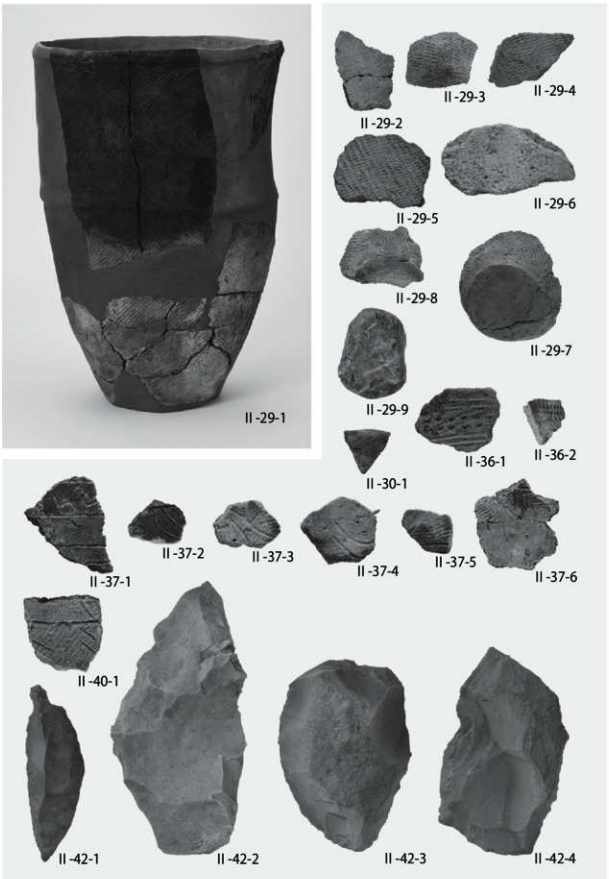


遺構の遺物(7)　H-12(2)・14, P-31

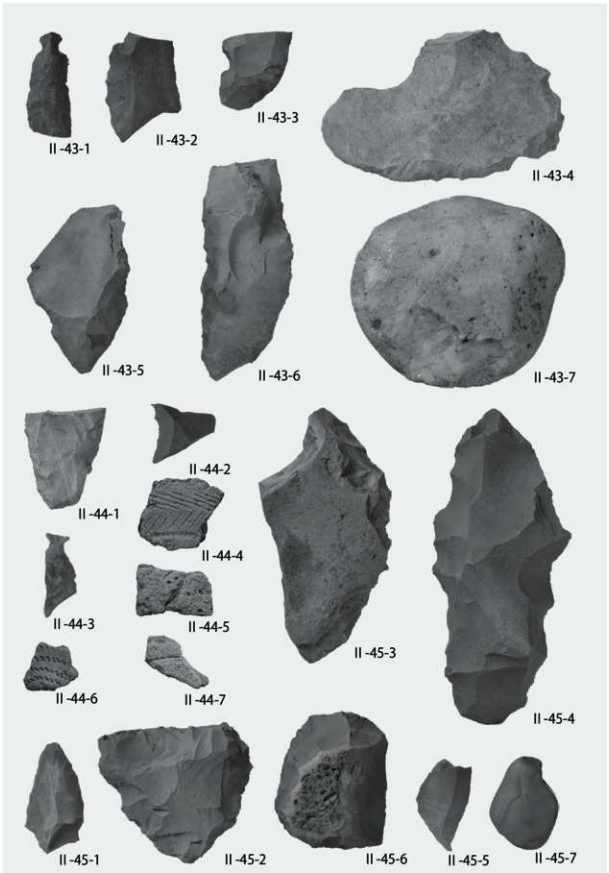


遺構の遺物（8）　P-30・35・36

図版34

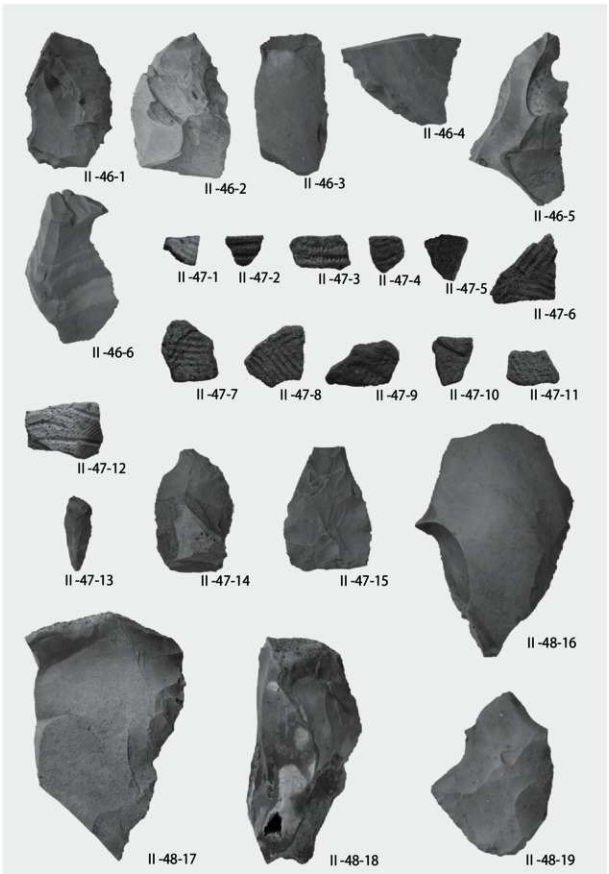


遺構の遺物（9） P-37・41, F-12・16・31, FL-18

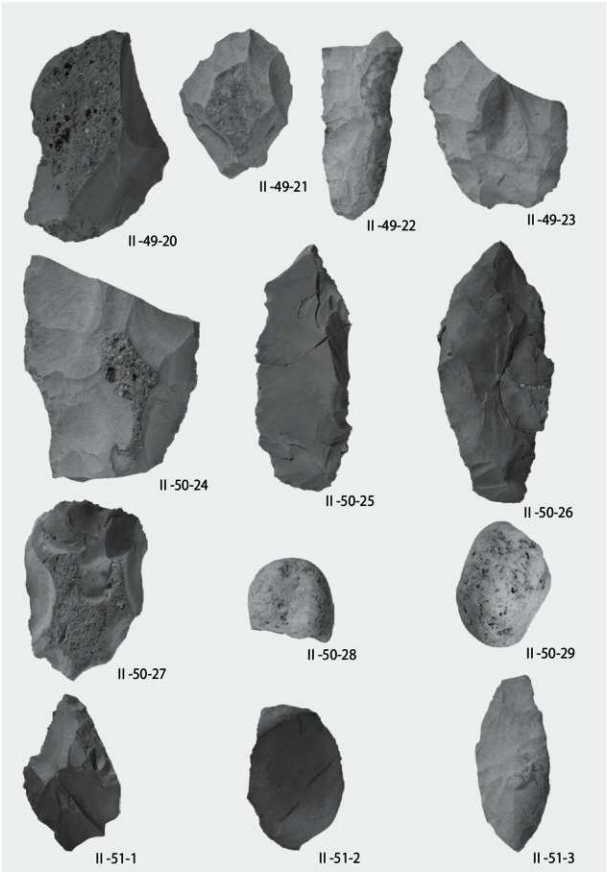


遺構の遺物(10)　FL-20・19・28・30・31

図版36



遺構の遺物(11)　FL-22・23



遺構の遺物(12)　FL-23(2)・24

図版38

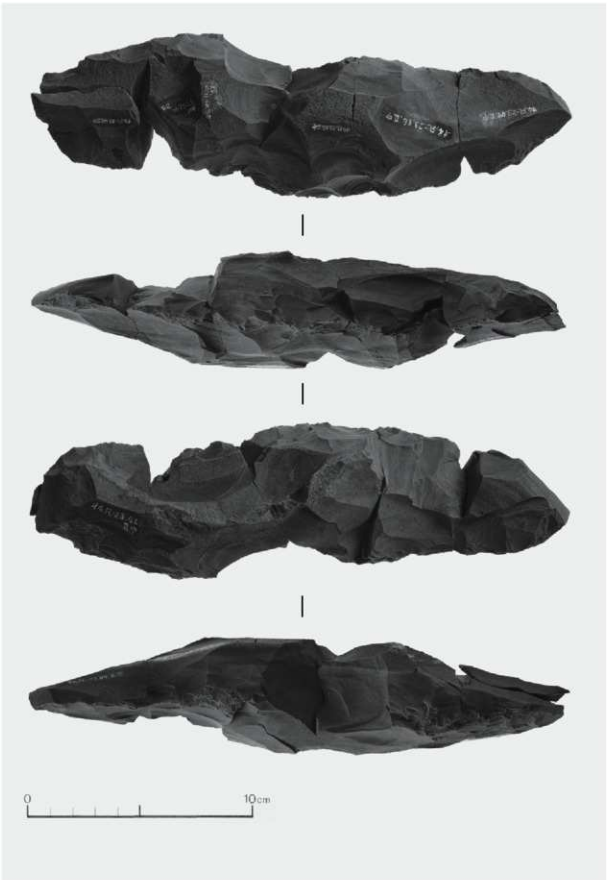
（正面 1）

（右側面）

（背面）

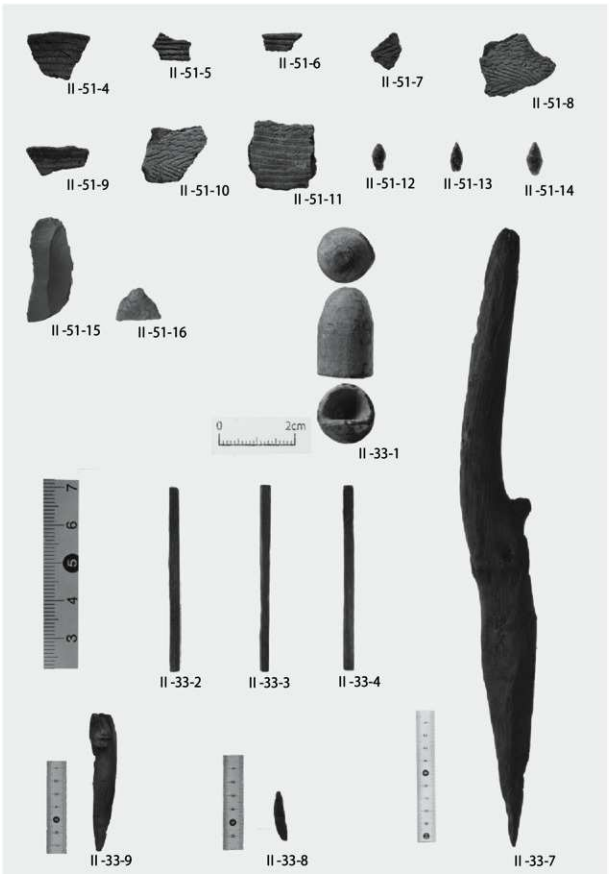
II-51-30

遺構の遺物（13）　FL-23（3）

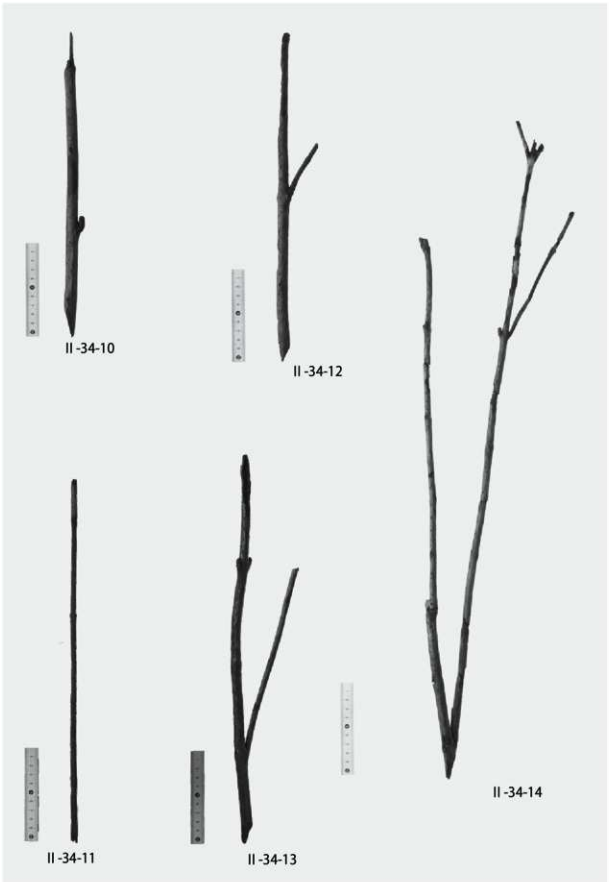


遺構の遺物(14)　FL-23(4)

図版40

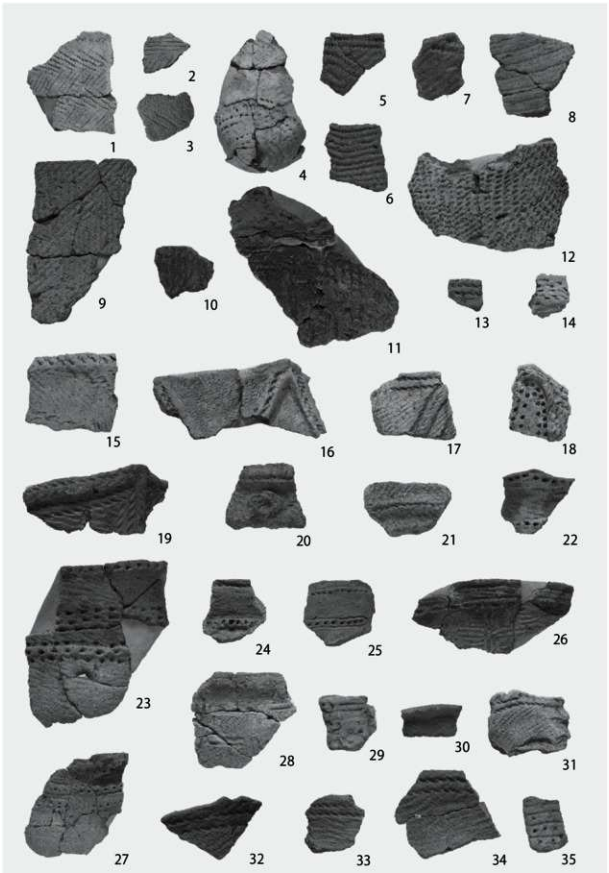


遺構の遺物(15)　FL-26・27，P-48

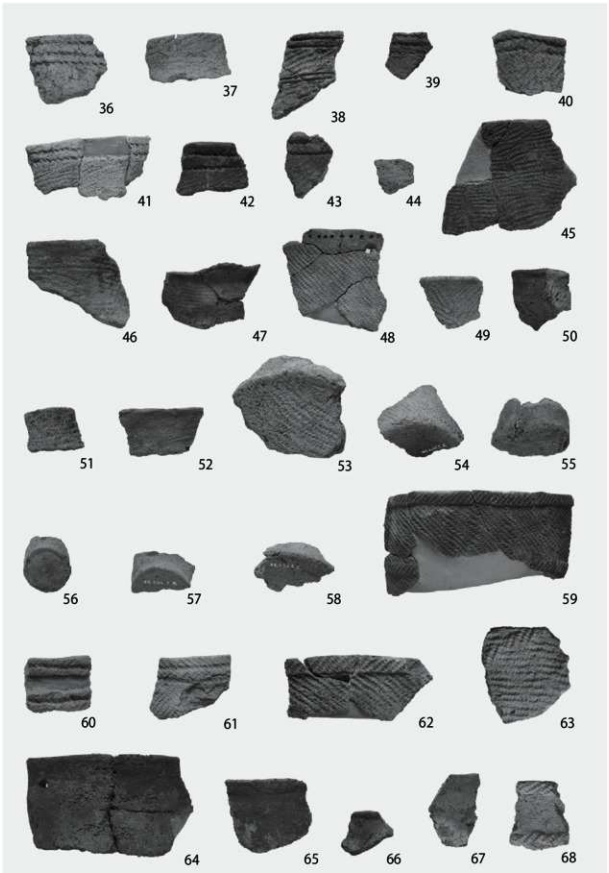


遺構の遺物(16)　P-48(2)

図版42

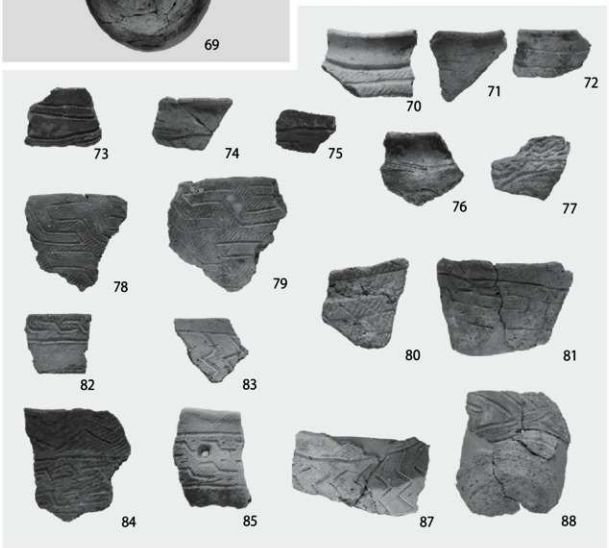


包含層の土器（1）

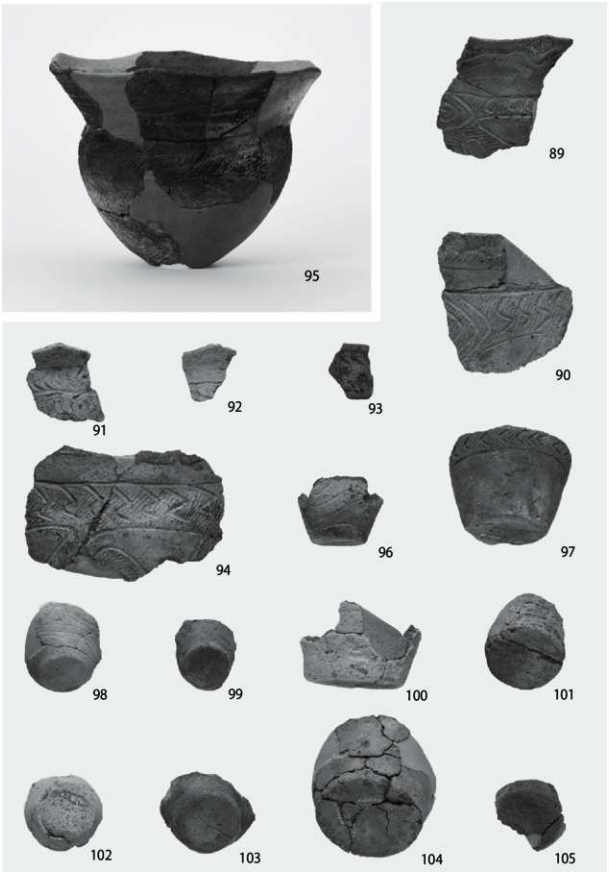

36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68

包含層の土器（2）

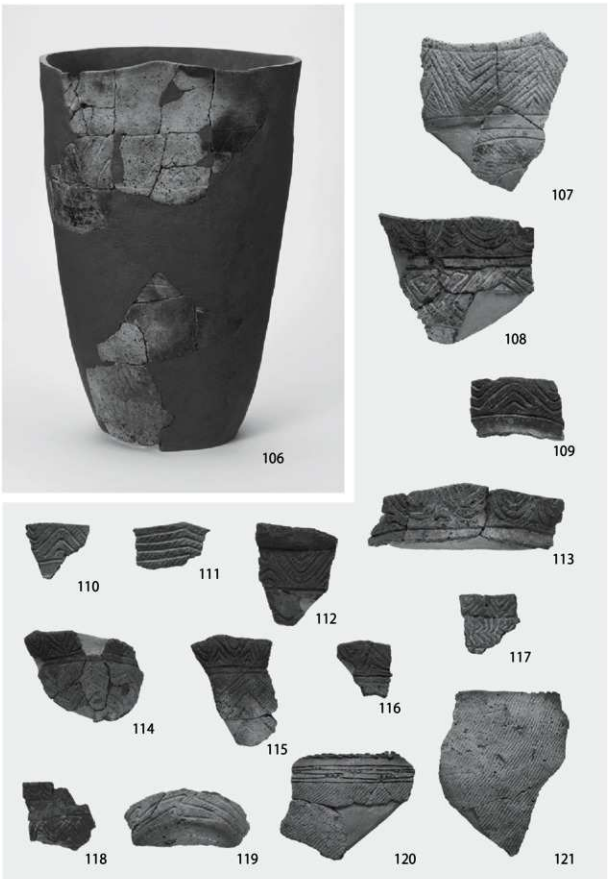
図版44



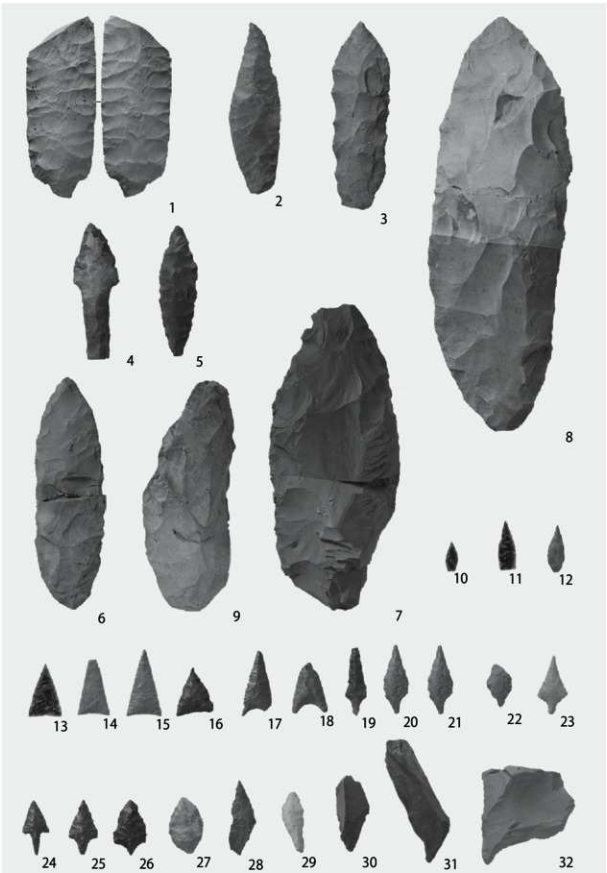
包含層の土器（3）



包含層の土器（4）

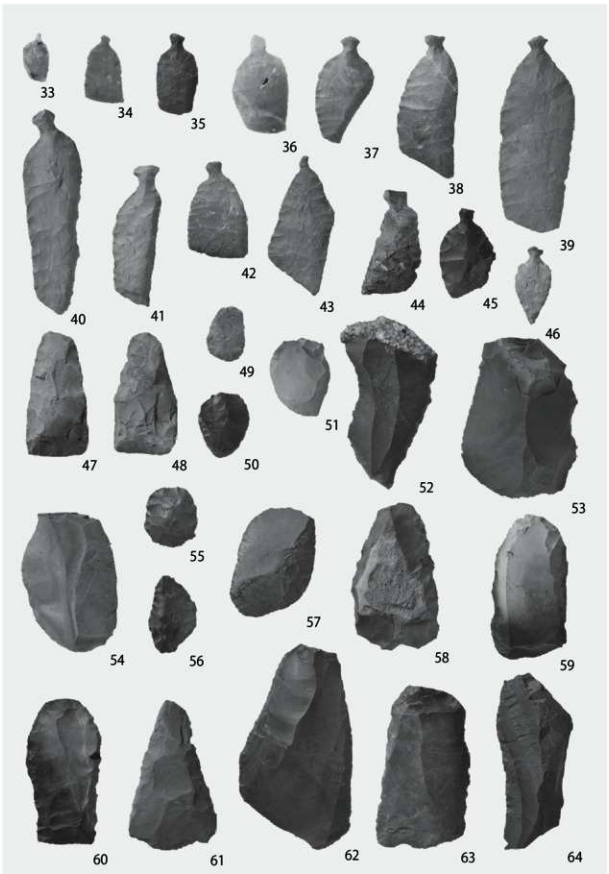


包含層の土器（5）

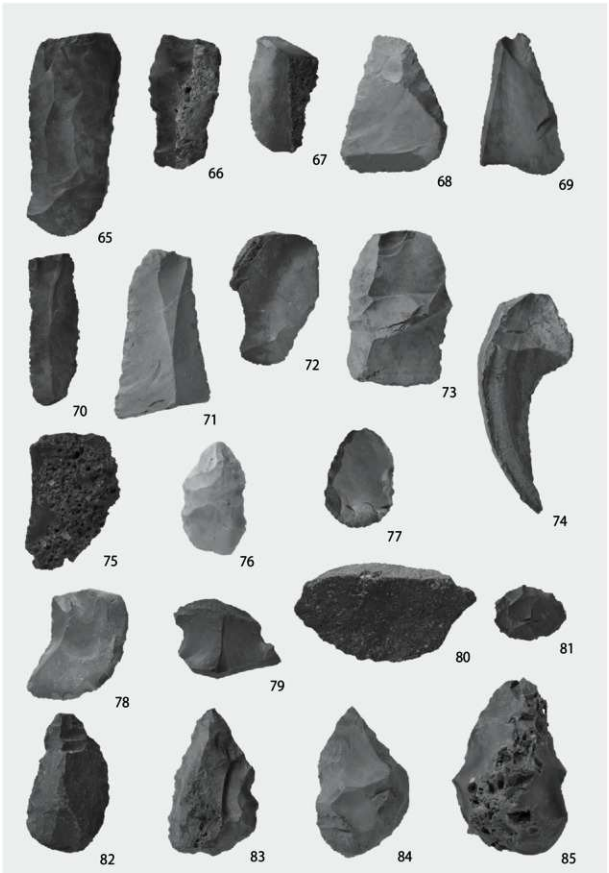

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

包含層の石器（1）

図版48

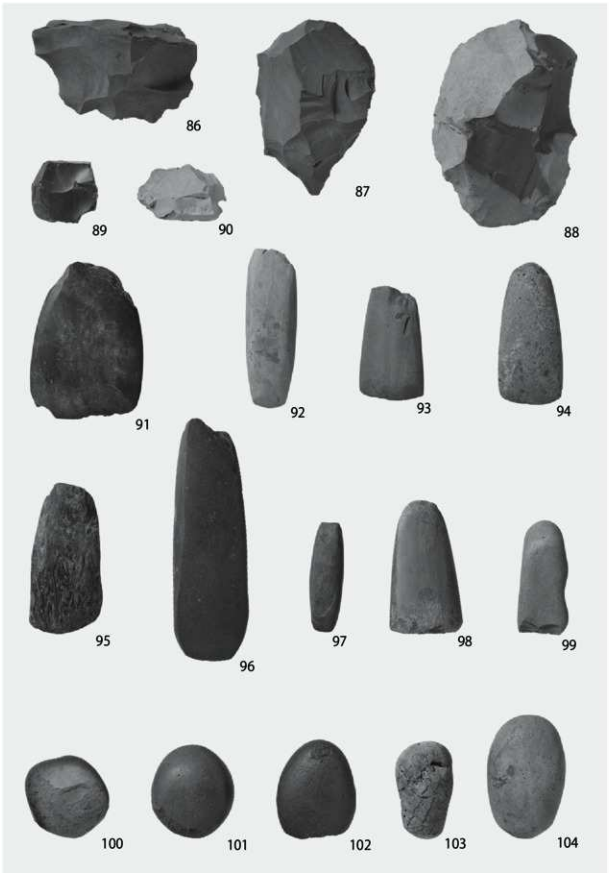


包含層の石器（1）

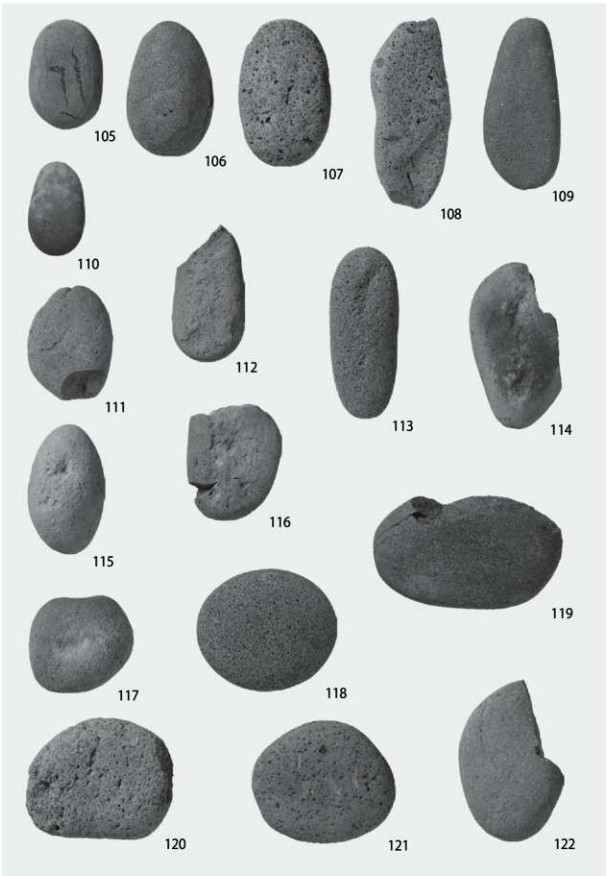


包含層の石器（2）

図版50

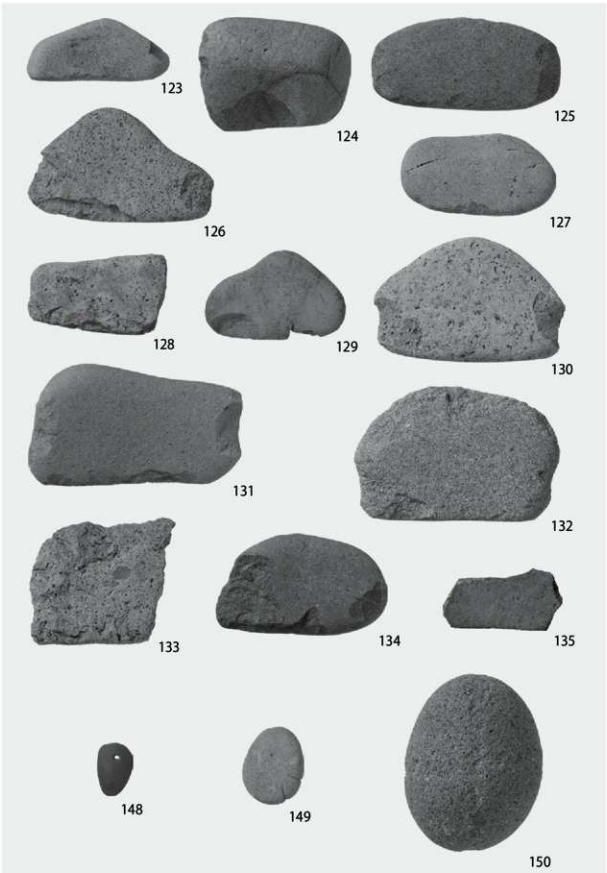


包含層の石器（3）

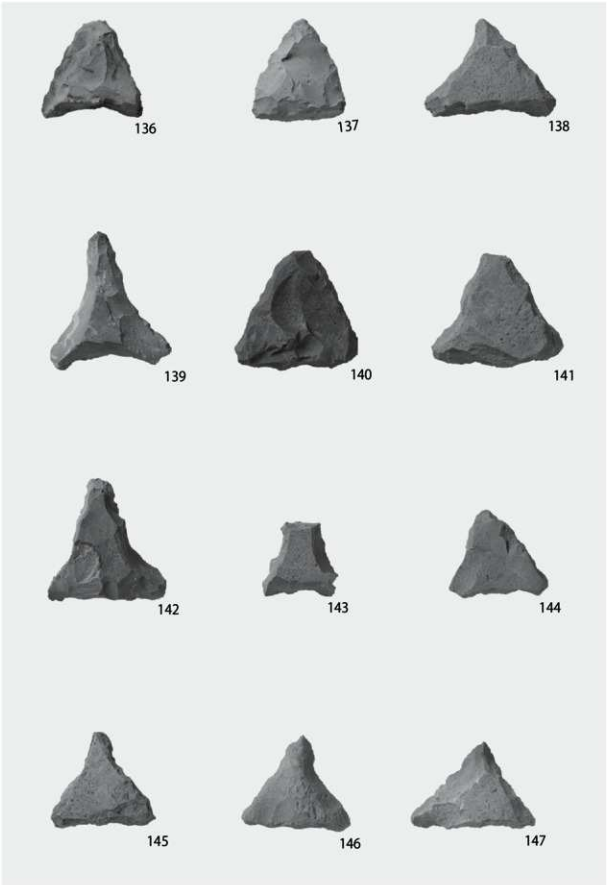

105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122

包含層の石器（4）

図版52



包含層の石器（5）・石製品（1）



包含層の石製品（2）

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう　おおひら4いせき(3)
書名	木古内町　大平4遺跡(3)
副書名	高規格幹線道函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	なし
シリーズ名	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）
シリーズ番号	第331集
編著者名	笹川洋一、立田　理、佐藤和雄、奥山さとみ、立川トマス、谷島由貴
編集機関	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832　江別市西野幌685-1 TEL（011）386-3231　FAX（011）386-3238　E-mail　mail@domaibun.or.jp ホームページ　http://www.domaibun.or.jp
発行機関	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
発行年月日	平成29（西暦2017）年3月24日

ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おおひら いせき 大平4遺跡	かみいそぐん きこない 上磯郡木古内 ちょうあざおおひら 町字大平60	01334	B-05-29	41度41分 37.5336505秒	140度26分 55.1809429秒	20120507 ～20121031	7,054㎡	高規格幹線道函館江差自動車道工事に伴う記録保存
						20130513 ～20130730	1,420㎡	
						20140514 ～20140806	7,119㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
大平4遺跡	集落 遺物包含地	縄文時代 早期後葉・前期・中期後半・後期前葉・晩期中葉・近代	竪穴住居跡12軒、土坑21基、Tピット4基、焼土31か所、剥片集中15か所	土器、石器、石製品、近代の木製品、銃弾

要約

大平4遺跡の平成24～26年度調査の報告で、同遺跡の3冊目の報告書となる。遺跡はJR木古内駅から北東へ約2km、孫七川左岸の海岸段丘上に立地し、標高は12～23mである。遺構は竪穴住居跡12軒、土坑21基、Tピット4基、焼土31か所、剥片集中15か所が検出されている。竪穴住居跡12軒は縄文時代中期後半が主体で、これらは集落を構成すると考えられる。土坑は相対的に少ないが、この中には墓と考えられるものが3基ある。時期は早期後葉と中期後半である。剥片集中は31か所と多い。早期後葉～前期の遺物を伴うものがある。明治初期の土坑3基が検出されている。坑内から銃弾とマッチの軸を含む木製品が見つかったものもある。遺物は94,704点が出土している。土器・土製品は中期後半と後期前葉のものが多い。石器・石製品は剥片以外ではスクレイパーやつまみ付ナイフ、たたき石、半円状扁平打製石器などが多い。

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登載番号、経緯度は世界測地系による。

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第331集

木古内町　大平４遺跡（3）

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成29(2017)年３月24日発行

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832　江別市西野幌685番地１
TEL(011)386-3231　　FAX(011)386-3238
URL　http://www.domaibun.or.jp
E-mail　mail@domaibun.or.jp

印　　刷　山藤三陽印刷株式会社
〒063-0051　札幌市西区宮の沢１条４丁目16-１
TEL(011)661-7163　FAX(011)661-7173